# 金沢城総合年表

## 前編

石川県金沢城調査研究所

平成三十年三月　金沢城史料叢書31

# 金沢城総合年表　前編

石川県金沢城調査研究所

# 凡例

一. 本年表は、天文一五年（一五四六）から宝暦八年（一七五八）に至る金沢城の変遷および城内での出来事に関する主な事項を列挙するものである。なお、城下町および藩政に関する主要な出来事も関連事項として取り上げた。

二. 書名を「総合年表」としたのは、石川県金沢城調査研究所において一六年間積み上げてきた絵図文献・石垣伝統技術・埋蔵文化財・建造物の四分野にわたる調査研究成果（金沢城研究史料叢書・研究紀要『金沢城研究』等）を総合的に勘案し、金沢城の歴史的事件や事象を年次を追って掲げたからである。

三. 収録項目は年月日（すべて和暦）順に配列した。年次を推定した史料については、月日の上に「＊」を付した。

四. 見出し文は、基本的に口語文を用い、一般県民向けに分かり易くなるよう努めた。

五. 典拠史料は、信頼の置ける史料、または見出し文と関係の深い史料を優先して掲げた。また、原文書（影写本を含む）が存在する書状類（判物・印判状）については、差出（発給）者名等を注記した。

六. 典拠史料の所蔵先・刊本等は「典拠文献一覧」にて解説する（ただし、原本の所蔵先など十分に言及し得なかった史料もある）。

## 天文一五年（一五四六）

六月一八日

磯部重秀、石清水八幡宮に、同宮領加賀国西泉・山上郷等の天文一四年分公用銭算用状を注進する。石川郡における惣国普請として、金沢御堂建立に係る経費が計上される（金沢御堂の建立）（石清水文書〔加賀国西泉等公用算用状〕）

一〇月二九日

本願寺証如、加賀国金沢御堂に木仏本尊等の什物を下し、堂衆として広済寺・慶信を派遣する。次いで、一二月九日、証如、さらに七高僧影像・聖徳太子影像等も下す（天文日記、私心記、准如様御筆御影御賛御裏書、貞享二年寺社由緒書上、天十物語）

## 天文二二年（一五五三）

四月四日

上杉謙信（長尾景虎。越後国春日山城主）の上洛につき、その家臣直江実綱ら、越後国滞留の信濃国本誓寺に命じ、加賀国通交の安全を交渉させる（本誓寺文書〔直江実綱等連署状〕）

## 天文二三年（一五五四）

三月一三日

上杉謙信（長尾景虎）の家臣本庄宗緩ら、前年の謙信上洛時、「賀州小山之御坊主様」が路次往還に尽力したことにつき、本誓寺に満足の意を伝える（本誓寺文書〔本庄宗緩等連署状〕）

## 永禄三年（一五六〇）

八月

北野社領加賀国小泉保相河百姓中惣代次郎左衛門正治、同所の田数及び百姓の仮名等について注進する。この中で、金沢御堂の堂衆広済寺・坪坂氏への田地質入れが記される（田中穣氏旧蔵文書〔加州小泉保百姓中惣代次郎左衛門正治申状〕）

## 永禄九年（一五六六）

二月一五日

大坂本願寺が軍事指揮官として下した下間頼総、金沢御堂に到着する。次いで三月三日、頼総、平岡野において石川・河北両郡の具足寄合を見物する（永光寺年代記、安楽山産福寺年代記）

## 永禄一〇年（一五六七）

九月二五日

金沢後町の山崎屋新四郎、金沢御堂に、下安江番の麹室座一間を売寄進する（本願寺文書〔山崎屋新四郎麹室座寄進状〕）

一〇月二日

木之新保村住人「へき彦左衛門尉」、金沢御堂に、下安江番の麹室座一間を現銭一貫二〇〇文で売却する（本願寺文書〔へき彦左衛門尉麹室座売券〕）

一一月五日

金沢南町の「ひろおか屋与三」、金沢御堂に、安江番の麹室座一間を売寄進する（本願寺文書〔ひろおか屋与三麹室座寄進状〕）

## 元亀元年（永録一三年。一五七〇）

この年

織田信長と石山（大坂）本願寺との合戦はじまる（信長公記）

## 天正三年（一五七五）

九月

これより先、越前一向一揆、壊滅する。織田信長、柴田勝家に越前国支配を任せ、前田利家・佐々成政・不破光治を越前国府中に配置する（信長公記）

## 天正四年（一五七六）

五月八日

これ以前、本願寺顕如、再び織田信長と戦う。洲崎景勝ら加賀四郡衆一〇名、金沢御堂の堂衆等に要請し、上杉謙信の加賀国への早々の出陣を求める（謙信公諸士来書）

## 天正五年（一五七七）

九月二三日

上杉謙信、加賀国手取川に柴田勝家・前田利家らを破る（別本歴代古案、信長公記）

## 天正六年（一五七八）

三月一三日

上杉謙信、没する。織田信長、加賀国から注進によって謙信死去の風説を知る（黒田家文書〔織田信長黒印状〕）

## 天正八年（一五八〇）

三月一七日
織田信長、正親町天皇の斡旋を容れ、石山（大坂）本願寺との和睦すべき意向を示す（本願寺文書〔織田信長覚書・起請文〕）

閏三月二四日
柴田勝家、金沢御堂を攻め、越中の一揆方にも服属を勧める（伊佐早謙採集文書〔柴田勝家書状、佐久間盛政等連署状〕）

閏三月三〇日
織田信長、柴田勝家と共に加賀の一揆勢を討伐し、また、河北郡木越の一揆勢を制圧した長連龍を賞する（長家文書〔織田信長朱印状〕）

四月一日
本願寺顕如、加賀山内惣中・鈴木出羽守に、勅命によって織田信長と和平を結んだことを報じ、柴田勝家勢による金沢周辺への放火に対しては一味同心しての防御を命じる（林西寺文書、松雲公採集遺編類纂）

四月二日
大坂に籠城する本願寺教如、加賀四郡に、信長との和平を拒否し、教如に同心して奔走するよう求める（本願寺文書〔本願寺教如消息案〕）

四月九日
本願寺顕如、石山（大坂）本願寺を立ち退き、次いで紀伊国鷺森に移る（信長公記）

四月二三日
羽柴秀吉、織田信長に対し、柴田勝家勢が金沢表をほぼ制圧し、宮腰まで軍勢を引いたこと等を伝える（木倉豊信氏蒐集文書、信長公記）

六月二三日
「西河口」において合戦。「御山」（佐久間盛政方）の軍勢二〇〇余りが討ち取られる（別本歴代古案）

一一月
柴田勝家、加賀の一向一揆の首謀者の首を安土城に送る（信長公記）

## 天正九年（一五八一）

二月～三月
金沢城の佐久間盛政、二曲城（石川郡鳥越城に隣接）の一揆勢と交戦、これを撃破する（当代記、信長公記）

八月一七日
織田信長、前田利家に能登一国を与える（信長公記）

八月頃
織田信長、菅屋長頼に命じて能登・越中の城を破却させる（信長公記）

九月一二日
金沢の佐久間盛政、後藤弥右衛門尉に、石川・河北両郡の内三〇〇石の知行を給する（十村後藤家文書〔佐久間盛政知行充行状〕）

一〇月二日
織田信長、前田利家に越前国府中の要害（府中城）・家臣私宅等を返却し、速やかに能登へ移動することを命じる。また、年貢徴収は来年からと指示する（前田育徳会所蔵文書〔織田信長朱印状〕）

この年
前田利長（利勝）、玉泉院（織田信長の娘）を娶る（三壺聞書）

## 天正一〇年（一五八二）

六月二日
織田信長、京都本能寺にて横死する。近江国瀬

田の前田利長（利勝）、玉泉院（利長の正室）を尾張国荒子へ遣わし、自らは越前に帰国する（乙夜之書物、前田創業記、本藩歴譜）

六月六日

越中国魚津在陣の柴田勝家ら織田信長の横死を知る。佐々成政は越中に留まり、勝家は越前、前田利家は能登に帰国する（太陽コレクション所蔵文書〔柴田勝家書状〕）

六月一七日

前田利家、能登の情勢不穏につき柴田勝家に従って上方へ出陣することを断る。次いで同月一九日、柴田勝家・佐久間盛政に援軍を求める（中村不能斎採集文書、加能越古文叢）

六月二四日

前田利家、柴田勝家・佐久間盛政に、上杉方の温井景隆・三宅長盛が能登国石動山に入り、荒山に要害を構えたことを報じ、援軍を要請する。次いで、盛政、利家と共に、石動山・荒山砦を攻略する（加能越古文叢、三壺聞書、菅家見聞集）

六月二七日

前田利家、鳳至郡穴水の百姓に能登国七尾城で用いる木材を急ぎ運送させる（能登古文書）

七月三日

鳳至郡穴水の百姓に、「家なみ」に百姓あり次第、鍬持参のうえ能登国七尾への出夫を命じる（能登古文書）

八月二九日

鳳至郡諸橋六郷の百姓に、穴水城普請のため竹・板および人足あり次第、「屋並」に鍬持参のうえ出夫を命じる（諸橋家文書〔前田利家黒印状〕）

## 天正一一年（一五八三）

三月一六日
近江国在陣の前田利家、能登国七尾の富田景政に戦況を伝える（富田文書〔前田利家書状〕）

四月二〇～二一日
羽柴秀吉、柴田勝家・佐久間盛政らを近江国賤ヶ岳にて破る（賤ヶ岳の戦い）。柴田方の前田利家、戦線から離脱し、北陸へ退却、次いで秀吉に降る（利家公御代之覚書、村井重頼覚書、乙夜之書物）

四月二五日
羽柴秀吉の軍勢、加賀国に進出する（毛利家文書〔羽柴秀吉書状〕）

四月二五日
前田利家、加賀国小松城を請け取り、堀秀政に引き渡す（富田文書〔前田利家書状〕）

四月二七日
前田利家、加賀国小松を経て同国宮腰に在陣する。次いで佐久間盛政方から金沢城の明け渡しが申し出られる（富田文書〔前田利家書状〕）

四月二八日
羽柴秀吉、金沢城へ入り、五月一日頃まで逗留する（西村小六氏所蔵文書〔羽柴秀吉書状〕、伊佐早謙採集文書〔羽柴秀吉書状〕、賜芦文庫文書〔羽柴秀吉書状〕）

四月二八日
佐々成政（越中国富山城主）、金沢城へ赴き、羽柴秀吉と面会する。金沢城の秀吉、上杉景勝（越後国春日山城主）へ書簡を送る（佐々木信綱氏所蔵文書〔羽柴秀吉書状〕、照顕寺文書〔佐々成政書状〕、伊佐早謙採集文書〔羽柴秀吉書状〕、島津家文書〔豊臣秀吉朱印状〕）

四月
羽柴秀吉、前田利家に北加賀二郡（河北・石川）を与え、金沢城主とする。また前田利長（利勝）

に松任四万石を与える（柴田退治記、村井重頼覚書、三箇国御領分之次第、前田貞親手記、たもと草）

五月一一日

奥村永福（家福）、能登国末森（末守）城に入る（可児才蔵誓文日記）

五月一二日

羽柴秀吉、捕縛した佐久間盛政を山城国槇ノ島にて斬首する（西村小六氏所蔵文書〔羽柴秀吉書状〕、兼見卿記、当代記、寛永諸家系図伝）

九月

佐々成政、前田利家の留守を預かる松任城の前田利長（利勝）へ書簡を送る（大阪城天守閣所蔵文書〔佐々成政書状〕）

九月～一〇月

前田利家、上方に滞在する（宇野主水日記、天王寺屋会記）

一一月一一日

前田利家、金沢（「尾山」）へ派遣する人夫一〇〇人について、羽咋郡の諸給人・惣百姓中に対し、同月一六日に能登国七尾へ到着させるよう命じる（雄谷家文書〔前田利家黒印状〕）

## 天正一二年（一五八四）

正月二〇日

前田利家、珠洲郡直郷の百姓中に対し、近江国海津へ遣わす人夫七人を、二月一日に金沢（「尾山」）まで連れてくるよう命じる（上浜寛一家文書〔前田利家黒印状〕）

二月五日

前田利家、金沢城の普請につき、石川・河北二郡の百姓中に人足の動員を命じる（旧記）

三月一三日
羽柴秀吉、小牧・長久手の戦いの勃発を受けて、前田利家に金沢城惣構のもと、防御に専念するよう命じる（加能越古文叢）

三月二九日
丹羽長秀、羽柴秀吉に前田利家勢の近々（東海地方への）出陣を伝える（前田育徳会所蔵文書〔丹羽長秀書状〕）

四月一二日
前田利家勢（加賀・能登衆）、近々（東海地方へ）出陣という（松井家譜）

七月
前田利家、能登国気多神社の諸堂造営のため「国中家並」に奉加を求める（気多神社文書〔前田利家黒印状〕）

九月八日
羽柴秀吉、前田利家・利長（利勝）に対し、徳川方に与した佐々成政に備え、防備を固めるよう指示する（前田育徳会所蔵文書〔羽柴秀吉書状〕）

九月九日
前田利家、金沢城（河北門）を出陣し、末森（末守）城救援に向かうという（弘文叢古文書目録〔前田利家書状案〕）

九月一一日
前田利家、末森（末守）城の戦いで佐々成政を破り、同月一三日までに金沢城に帰着する（千秋邦彦氏所蔵文書〔前田安勝書状案〕、青木長之助所蔵文書、前田育徳会所蔵文書〔神保昌国等連署状〕、多聞院日記、宇野主水日記、末森記）

九月一六日
前田秀継（秀次。利家の弟）、河北郡鳥越城の佐々勢がほどなく撤退するとの見通しを示す（千秋邦彦氏所蔵文書〔前田秀次書状〕）

この年

前田利家、金沢城下で城普請に携わり、登録された「御帳面大工」一〇〇人余に屋敷地を与える（加藩国初遺文）

## 天正一三年（一五八五）

二月四日

本阿弥光悦、前田利家へ腰物を届けるため、この日、金沢に到着する（東京国立博物館所蔵文書〔本阿弥光悦書状〕）

＊三月二五日（※推定）

前田利家、青木信照等に城普請（石動山カ）・夜番等を命じる（旧鶴来町立博物館所蔵文書〔前田利家黒印状〕）

五月七日

前田利家、羽柴秀吉の越中出陣に備えて、その宿所造営につき能登国七尾の前田安勝（利家の兄）に指示する（前田育徳会所蔵文書〔前田利家書状〕）

五月一八日

前田利家、上洛のため、能登国七尾城の在番を富田重政に命じる（松雲公採集遺編類纂）

五月二〇日

前田利家、翌日より上洛の途に就くため、能登国羽咋郡大福寺北之坊に祈祷を命じる。また、溝口秀勝、利家に上洛の途次、加賀国大聖寺城への来訪を求める（中村不能斎採集文書、高爪神社所蔵文書〔前田利家書状〕）

＊六月一三日（※天正一三年以前）

金沢（「尾山」）城の広間に落雷あり（高爪神社所蔵文書〔前田利家書状〕）

七月二四日

山上宗二、大徳寺興臨院の使僧と同道して、金沢（尾山）へ到着する（賀茂別雷神社所蔵文書〔山上

宗二書状〕、古文書集〔山上宗二書状〕）

八月五日

前田利家、越中出陣のため下向する豊臣秀吉を接待するために、同月一二日以降、能登国内の浦々の魚を金沢（「尾山」）へ届けるよう命じる（桑原家所蔵文書〔前田利家黒印状〕）

八月一七日

前田利家、越中出陣のため、能登の長連龍に同月一八日加賀津幡への着到を命じる（松雲公採集遺編類纂）

八月一八日

豊臣秀吉、越中出陣の途次、金沢城を訪れる。前田利家、松任まで迎えに出るという（乙夜之書物、末森記）

閏八月七日

豊臣秀吉、越中出陣からの帰途、金沢に立ち寄る（北徵遺文、本願寺文書〔羽柴秀吉朱印状〕）

＊閏八月八日（※推定）

豊臣秀吉、金沢にて河野越中（本願寺顕如の使者）と対面する（宇野主水日記）

閏八月

豊臣秀吉、越中国新川郡を佐々成政、残り三郡を前田利長（利勝）に与える（寸金雑録、宇野主水日記、兼見卿記）

九月一一日

豊臣秀吉、「羽柴筑前守」の名乗りを前田利家に与えるという（寸金雑録）

## 天正一四年（一五八六）

三月二〇日

豊臣秀吉、前田利家を「堂上」に加えるよう執奏する。同月二二日、参内した前田利家、少将に任じられる（御湯殿上日記）

五月二三日
豊臣秀吉、佐竹氏の便僧の伝馬について定める。加賀国小松より同国金沢までは村上頼勝に、金沢より越中国富山までは前田利家・利長に命じる（佐竹文書）

五月二八日
上杉景勝、上洛の途上、金沢（小山）に立ち寄る。前田利家、金沢城にて景勝を歓待し、翌日には能を催す（多賀家古文書、天正十四年上洛日帳）

六月七日
前田利家、金沢城天守建造のため、越前国敦賀の高島屋伝右衛門らに対し、鉄輸送を命じる（小宮山文書〔前田利家朱印状〕）

六月一四日
上杉景勝、大坂城にて豊臣秀吉に拝謁する。前田利長（利勝）ら、この対面に同席する（天正十四年上洛日帳）

六月二二日
公家成を許された上杉景勝・前田利長、豊臣秀吉に伴われて参内する（御湯殿上日記）

八月三日
石田三成・増田長盛、上杉景勝の佐渡領有について、前田利家の取次によって許可される見通しを述べる（杉原謙氏所蔵文書〔石田三成・増田長盛連署状〕）

八月一六日
前田利家、京都での屋敷造営につき、能登国鹿島郡大呑北南の百姓中より、人夫を徴する（温故足徴）

## 天正一五年（一五八七）

正月
前田利家、京都において聚楽第等の普請に携わ

る（気多神社文書〔前田利家印判状〕）

二月一五日
前田利長（利勝）の九州出陣に際し、越中一向一揆門徒の人質を金沢（尾山）へ差し出すよう命じる（善徳寺文書〔有賀直政書状〕）

二月二〇日
前田利長（利勝）、豊臣秀吉の九州平定のため軍勢三〇〇〇を率いて先発する（大阪城天守閣所蔵文書〔至九州御動座次第〕、当代記）

三月一日
豊臣秀吉、九州平定のため大坂を出陣する。前田利家、留守居のため京都にとどまる（多聞院日記）

四月二日
北信愛（南部信直の重臣）、豊臣政権への取次を求めて金沢に到着し、前田利家から同月九日まで歓待をうける（北信愛覚書）

六月
豊臣秀吉、佐々成政の肥後国転封にともない、蔵入地とした越中国新川郡を前田利家に預ける（三壺聞書、三箇国御領分之次第、本藩歴譜）

七月一一日
前田利家、穴生源介に知行一〇〇俵を与える（穴太政洋氏所蔵文書〔前田利家朱印状〕）

七月二三日
この日以前、前田利家、上洛する（兼見卿記）

七月二九日
前田利家、豊臣秀吉に従って参内する（御湯殿上日記）

九月五日
前田利家、同月一八日の上洛に備えて、能登より徴発する人夫五人を、同月一六日に金沢（「尾山」）へ到着させるよう命じる（岡部家文書〔前田利家黒印状〕）

一〇月一日
豊臣秀吉、京都北野で茶会を催し、前田利家ら諸大名これに参加する（北野大茶湯之記）

## 天正一六年（一五八八）

正月一三日
前田利家、豊臣秀吉に従って参内する（御湯殿上日記）

三月一六日
豊臣秀吉、大坂城にてイエズス会宣教師と対面する。前田利家らこれに同席する（ルイス・フロイス書簡）

四月一四日
後陽成天皇、豊臣秀吉の聚楽第に行幸する。前田利家・利長（利勝）ら諸大名、供奉する。次いで翌日、利家・利長、天皇・関白への忠誠等を約する起請文を提出する（聚楽行幸記、当代記）

七月二四日
上洛した毛利輝元、聚楽第にて豊臣秀吉に拝謁する。前田利家ら諸大名、これに同席する（湯浅家文書〔花房秀成書状案〕、輝元公上洛日記）

七月二九日
毛利輝元、前田利家・利長（利勝）ら諸大名の京都屋敷を訪問する（輝元公上洛日記）

一一月六日
前田利家、豊臣秀吉の命をうけ、領国において刀狩りを指示する（松雲公採集遺編類纂、菅君雑録、古蹟文徴）

## 天正一七年（一五八九）

五月～六月
大宝寺義勝、上洛の途次、金沢（小山）へ立ち

寄る（大宝寺義勝上洛日記）

六月二五日
鶴松（豊臣秀吉の子）誕生につき、前田利家、近日中に上洛することを上杉景勝に報じる（上杉家文書〔前田利家書状〕）

七月～八月
前田利家・利長、秀吉の命により、方広寺大仏殿手伝普請に一万人の人足を動員する（肥前小城鍋島文書）

＊一〇月一八日（※推定）
この頃、前田利家、能登の三輪吉宗に対し、所口普請を入念にすべきことを命じる（松雲公採集遺編類纂）

## 天正一八年（一五九〇）

正月二一日
前田利家、正四位下参議に叙任され、同月二二日、参内する（上杉家文書、御湯殿上日記、柳原家記録）

二月二日
前田利家、伊達政宗に宛て、小田原攻めのため同月二〇日に加賀金沢を出陣すると伝え、参陣を促す（伊達家文書）

三月五日
芳春院（前田利家の正室）、小田原攻めに向かう前田利家・利長のため、吉田社に戦勝祈念を依頼する（兼見卿記）

四月二二日
前田利家、相模国小田原に着陣し、豊臣秀吉に拝謁する（伊達家治家記録、金沢文書）

五月二〇日
豊臣秀吉、前田利家・上杉景勝に北条方の武蔵国鉢形城を包囲させる。翌月、利家らの攻撃により落城する（浅野家文書〔豊臣秀吉朱印状〕、前田育徴会所蔵文書〔前田利家印判状〕、町田文書〔前田利家・上杉景勝・木村一連署禁制〕）

六月二三日
前田利家・利長ら、北条方の武蔵国八王子城を攻め落とす（榊原家所蔵文書、北徴遺文、村井重頼覚書）

七月五日
小田原北条氏、秀吉に降伏する。同月一〇日、前田利家、在京の芳春院（利家の正室）へ北条氏の滅亡を報じる（松雲公採集遺編類纂）

七月一八日
前田利家、前日に下野国鹿沼に着陣、翌日には同国大沢野に陣替えすることを浅野長政（長吉）に報じる（浅野家文書〔前田利家書状〕）

秋～冬
前田利家、奥羽仕置のため出羽・津軽へと進み、一一月金沢に戻る。次いで一二月五日には入京する（秋田藩家蔵文書、北徴遺文、温故足徴、伊達家文書〔前田利家書状、徳山則秀書状、河島重続書状〕、兼見卿記）

一二月二一日
千利休、前田利家・山岡宗無を招いて朝茶の会を催す（利休百会記）

## 天正一九年（一五九一）

正月一二日
前田利家ら諸大名、豊臣秀吉に従って参内する。利家、清華に列する（時慶記、兼見卿記、御湯殿上日記）

正月一三日
千利休、豊臣秀吉・前田利家・施薬院全宗を招いて茶会を催す（利休百会記）

閏正月
豊臣秀吉、聚楽第にてバリニャーノ（イエズス会東インド巡察師）と対面する。前田利長、京都に滞在中のバリニャーノを訪ねる（1591・92年度日本年報）

閏正月二一日
前田利家の家来、今度の普請（京都南川原）のため吉田社への陣取りを求める（兼見卿記）

六月一四日
村井長頼・篠原一孝、従五位下に叙される（篠原家文書〔後陽成天皇口宣案〕、村井重頼覚書、本藩歴譜）

一一月三日
前田利家、金沢（「尾山」）と能登の往還について、路次中の伝馬・人足の使用方法を定める（加藩国初遺文、大成家所蔵文書〔前田利家定書〕）

一一月中頃
京都より金沢に戻った前田利家、金沢城西ノ丸の村井長頼邸を訪問して饗応されるという（新山田畔書、三壺聞書）

一一月一五日
前田利家、近日上洛の予定という（滝川文書〔前田利家書状〕）

## 文禄元年（天正二〇年。一五九二）

正月
豊臣秀吉、唐入り（朝鮮出兵）のため前田利家に出陣を求め、前田利長に留守居を命じる（近藤文書）

二月
前田利家、豊臣秀吉による唐入り（朝鮮出兵）の

ため、軍勢を率いて京都へ向かう（新山田畔書、三壺聞書）

二月

京都の前田利家、留守居の前田利長に金沢城の高石垣建設を命じ、次いで戸室山から石材を切り出させる（新山田畔書、三壺聞書、政春古兵談）

三月五日

芳春院（前田利家の正室）、利家の唐入り（朝鮮出兵）出陣のため、吉田社に「軍陣之祓」「守」を所望する（兼見卿記）

三月一六日

前田利家、京都を発し、肥前国名護屋へ向かう（言経卿記）

六月

肥前国名護屋の徳川家康・前田利家、豊臣秀吉の渡海を諫止し、断念させる（文禄中日記紙背文書〔西笑承兌書状〕、鹿苑日録）

九月一八日

前田利長、豊臣秀吉に従って参内する（兼見卿記）

一〇月一四日

豊臣秀吉、在京の前田利長に兵船（大安宅船）作事を指示するにつき、利長、奥能登での木材確保を命じる（松雲公採集遺編類纂）

一一月五日

豊臣秀吉、肥前国名護屋の前田利家陣所の数寄屋を訪問する（村井重頼覚書、宗湛日記）

一一月八日

豊臣秀吉、前田利家に兵船（大安宅船）作事を指示するにつき、秋田実季（出羽国湊城主）にその一艘分の木材供出を命じる（秋田家史料〔豊臣秀吉朱印状〕）

一一月一三日

前田利家、肥前国名護屋の陣所に施薬院全宗・神谷宗湛を招いて茶会を催す（宗湛日記）

一一月一五日
前田利家、肥前国名護屋の陣所に神谷宗湛を招いて茶会を催す（宗湛日記）

この年
前田利家、肥前国名護屋城の三ノ丸西ノ門および西北矢倉・同取附の普請を担当する（閥閲録遺漏）

## 文禄二年（一五九三）

正月三日
前田利家、唐入り（朝鮮出兵）の兵船につき、今井彦右衛門尉・大井直泰などを早々に金沢（「尾山」）へ派遣し、前田安勝（利家の兄）と談合して調達するよう命じる（前田育徳会所蔵文書〔前田利家黒印状〕）

二月一五日
石田正澄、前田利家らの渡海予定を報じる（島津家文書〔石田正澄書状〕）

三月一四日
伊達政宗、三月二〇日頃の前田利家の渡海と、兵船不足を報じる（伊達家文書〔伊達政宗書状〕）

四月二六日
豊臣秀次、聚楽第に能を興行し、前田利長これを拝見する（言経卿記、時慶記）

五月一五日
前田利家、この日から同月二一日にかけて肥前国名護屋の自陣において明使を接待する（加越能古文書写、天寛日記、太閤記）

八月
前田利家、肥前国名護屋から大坂に戻る（前田創業記）

九月七日
徳川家康、前田利家の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

九月一九日
豊臣秀吉、前田利政（利家の次男）に能登一国を与える。この日、前田利家、同利長にこれを伝え、利政の指導を指示する（前田育徳会所蔵文書〔前田利家書状〕）

閏九月一二日
徳川家康、前田利長の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

閏九月二八日
豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問し、同月三〇日まで滞在する（駒井日記、言経卿記）

閏九月三〇日
前田利長が左近衛権少将、前田利政が侍従にそれぞれ任じられる（駒井日記）

一〇月一日
豊臣秀吉、秀頼と秀次娘との縁組につき、前田利家・芳春院（利家の正室）をもって秀次に伝達するよう指示する（駒井日記）

一〇月三日
前田利家・利長ら諸大名、豊臣秀吉に従って参内する（時慶記、兼見卿記）

一〇月
前田利家、この月五日・一一日、豊臣秀吉に従って参内し、禁中において能・狂言を演ずる（駒井日記、時慶記、禁中猿楽御覧記）

一一月二五日
前田利常（利光）、金沢城にて生まれる（壬子集録、新山田畔書、三壺聞書）

一一月
前田利家、加賀金沢へ帰国する（駒井日記、利家公御代之覚書）

## 文禄三年（一五九四）

正月五日
前田利家、従三位に昇進する（上杉家文書）

正月二六日
前田利長ら諸大名、豊臣秀吉に従って参内する（駒井日記）

二月二〇日
前田利家、この日までに金沢から上方に戻る。この日、豊臣秀吉に進物、翌二一日、伏見における秀吉の茶湯に参会する（駒井日記）

二月二七日
豊臣秀吉、大和国吉野山に登り、翌月一日まで当地に滞在する。豊臣秀次・徳川家康・前田利家らこれに随行する（利家公御代之覚書、芳野花樹会懐紙、駒井日記）

三月二八日
前田利家ら、豊臣秀吉に従って山城国宇治に赴く。帰途、秀吉、利家の京都屋敷を訪問する（駒井日記）

四月三日
徳川家康・前田利家ら諸大名、豊臣秀吉に従って参内する（兼見卿記）

四月六日
豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問する（駒井日記）

四月七日
前田利家、権中納言に任官する（上杉家文書、駒井日記）

四月八日
豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問する（式正御成）（文禄三年卯月八日豊太閤前田亭御成次第、駒井日記、鹿苑日録、旧記雑録後編）

四月一〇日
豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問し、翌日まで滞在する（駒井日記）

四月一五日
徳川家康・前田利家ら聚楽第における能興行に参加する（駒井日記）

四月一九日
徳川家康、前田利家の京都屋敷を訪問する（兼見卿記）

四月二五日
前田利家、徳川家康の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

四月～五月
豊臣秀吉、湯治のため摂津国有馬に赴く。前田利家これに随行し、五月四日、同地から本願寺准如に宛てて書状を送る（本願寺文書〔前田利家書状〕）

七月二九日
徳川家康、前田利家の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

七月
前田利家、金沢に本願寺末寺の再興を許可し、制札を与える。（西末寺由来書、政春古兵談）

九月七日
前田利家、金沢（「尾山」）町の年寄中に対し、犀川・浅野川架橋の手伝を命じる（加藩国初遺文）

一〇月一四日
前田利家、徳川家康の伏見屋敷を訪問する（言経卿記）

一〇月一五日
豊臣秀吉の下命により、この日より、前田利家・利長、伏見において宇治川の堤防普請に尽くす（村井重頼覚書、利家公御代之覚書、三壺聞書）

一〇月二三日
豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問する（兼見卿記）

一〇月二五日
豊臣秀吉、蒲生氏郷の京都屋敷を訪問する（式正御成）。徳川家康・前田利家ら諸大名これに随行する。翌二六日も家康・利家らは氏郷の饗応をうける（日野町小西伝左衛門氏文書）

一〇月二七日
豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

一〇月二八日
豊臣秀吉、上杉景勝の京都屋敷を訪問する（式正御成）。前田利家ら諸大名これに随行する（上杉邸御成帳）

一一月一七日
前田利家、自らの伏見屋敷築造につき、家臣鶴見彦介に覚書を与える（加藩国初遺文）

一二月一八日
前田利家、聚楽第の豊臣秀次のもとに出仕する。次いで山城国伏見より加賀国金沢に帰国する（鹿苑日録、三壺聞書）

この年
高畠定吉・中川光重、従五位下に叙される（村井重頼覚書）

## 文禄四年（一五九五）

＊正月一一日（※文禄四年～慶長二年）
前田利家、家臣村井長頼・片山延高に能登国所口城の惣構の縄張・堀普請を命じる（松雲公採集遺編類纂）

正月一五日
豊臣秀吉、唐入り（朝鮮出兵）の陣立てを定め

る。前田家は軍勢一五〇〇を朝鮮諸城の留守居とされ、前田利長は軍勢一〇〇〇を率いて肥前国名護屋に詰めるよう指示される（旧記雑録後編）

二月二日
豊臣秀次、前田利長の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

三月六日
豊臣秀吉、前田利家に近江国高島郡内に領知を与える（加藩国初遺文）

三月七日
伏見から上洛した豊臣秀吉、前田利家の京都屋敷を訪問する（言経卿記）

三月一五日
豊臣秀吉、前田利家の伏見屋敷を訪問する（国祖遺言）

三月二七日
前田利家、豊臣秀吉に従って参内する。同日、家臣奥村永福（家福）・神谷守孝が従五位下に叙され、奥村が伊予守、神谷が信濃守に任じられる（兼見卿記、経遠口宣案、金沢市中古文書、村井重頼覚書、国祖遺言）

三月二八日
豊臣秀吉、徳川家康の京都屋敷を訪問する。前田利家・前田利長・前田利政ら諸大名これに随行する（文禄四年御成記）

六月一六日
前田利家、能登へ流される浅野幸長（長継）の居所につき、三輪吉宗に指示する（松雲公採集遺編類纂）

六月一八日
前田利政、能登へ流された浅野幸長（長継）への対応につき、三輪吉宗に指示する（松雲公採集

遺編類纂）

六月二二日

中山親綱、「移徙之礼」のため伏見の前田利家邸を訪問する（親綱卿記）

七月一五日

高野山にて豊臣秀次、切腹する（秀次事件）。これ以後、前田利家、秀次の伏見屋敷を拝領し、八月二四日、移住する（国祖遺言、村井重頼覚書、1596年度日本年報補遺）

七月二〇日

前田利家、豊臣秀頼の傅役として、常時在京と秀吉・秀頼への忠誠を誓う。また、前田利長・利政ら諸大名も豊臣秀吉・秀頼への忠誠を誓う（大阪城天守閣所蔵文書〔前田利家起請文、前田利長・利政等連署起請文〕）

八月三日

徳川家康・前田利家ら御掟・御掟追加を発布する（浅野家文書〔御掟・御掟追加〕）

一一月二〇日

前田利家ら、徳川家康の伏見屋敷を訪問する（言経卿記）

この年

前田利家、越中国新川郡を拝領する（越登賀三州志）

この年

前田利長、左近衛権中将に昇任するという（本藩歴譜）

## 慶長元年（文禄五年。一五九六）

正月一三日

前田利家ら、徳川家康の伏見屋敷を訪問する（言経卿記）

二月七日
前田利家、明使接待のため加賀・能登からの金銀箔徴収を指示する（松雲公採集遺編類纂）

三月二日
前田利家の家臣奥村栄明、従五位下河内守に叙任される（経遠口宣案）

三月二一日
徳川家康、前田利長の伏見屋敷を訪問する（言経卿記）

四月一五日
前田利家、能登の塩一〇〇〇俵を金沢城中（「尾山城中」）へ取り寄せるよう命じる（松雲公採集遺編類纂）

四月二九日
前田利家、徳川家康とともに参内する（言経卿記）

四月
前田利家、権大納言に昇任する（公卿補任）

五月一三日
前田利家ら諸大名、豊臣秀吉・秀頼に従って参内する。利家、秀頼を抱えて昇殿するという（言経卿記、義演准后日記、兼見卿記、1596年度日本年報補遺）

五月一七日
前田利家ら、豊臣秀吉・秀頼に従って参内し、禁中能を観る（言経卿記）

五月二五日
前田利家ら諸大名、公家・門跡など残らず、伏見城に登城する（義演准后日記）

閏七月一三日
京都周辺で大地震が発生、伏見城が倒壊する。伏見の前田利家、国許にこれを報知するとともに、伏見城・自邸等の再建に着手する（松雲公採

集遺編類纂、能登古文書、小宮山文書〔前田利家書状〕、1596年度日本年報補遺、利家公御代之覚書）

閏七月二二日

前田利家、前年能登へ下向した浅野幸長（長継）の赦免につき、三輪吉宗に報じる（松雲公採集遺編類纂）

九月一日

豊臣秀吉、大坂城において明の使節と対面する。徳川家康・前田利家ら諸大名これに同席する。この前後、利家ら使節の応対にあたる（1596年度日本年報補遺、村井重頼覚書）

## 慶長二年（一五九七）

三月二四日

前田利家、伏見屋敷に神谷宗湛を招いて茶会を催す（宗湛日記）

三月二五日

徳川家康・前田利家ら、伏見城内の茶会に招かれる（鹿苑日録）

三月二六日

前田利家、伏見屋敷に神谷宗湛らを招いて茶会を催す（宗湛日記）

四月二日

豊臣秀吉、前田利家の伏見屋敷を訪問する（鹿苑日録）

四月一一日

前田利家、伏見から大坂に赴く（鹿苑日録）

四月二七日

前田利家・徳川家康ら諸大名、豊臣秀吉に従い参内する（孝亮宿祢記）

五月二三日

前田利家、帰国を許可される。次いで金沢に帰

国し、八月一日以前に伏見に戻る（西笑和尚文案〔前田利家書状〕、吉川金蔵氏所蔵文書〔前田利家書状〕、鹿苑日録）

七月二〇日
加賀と金沢の真宗門徒、本願寺教如方への参詣を止め、准如への忠誠を誓う（龍谷大学図書館所蔵文書〔門徒誓紙〕）

七月二七日
前田利長、伏見城にて能を拝見する（鹿苑日録）

八月五日
前田利長、南禅寺にて能興行に参加する（兼見卿記）

八月九日
前田利家、所労によって伏見城に出仕せず（鹿苑日録）

九月二八日
前田利家、豊臣秀吉・秀頼に従って参内する（兼見卿記）

九月二八日
前田利長、従四位下参議に叙任される。あわせて太田長知・片山延高、従五位下に叙される（公卿補任、国祖遺言、越登賀三州志）

一〇月二二日
豊臣秀吉・秀頼、前田利家の伏見屋敷を訪問する（鹿苑日録）

一〇月
前田利長、越中国守山城から同国富山城に移るという（新山田畔書、政春古兵談、前田貞親手記、越中国高岡山瑞龍閣記）

一一月二九日
前田利家、所労によって伏見城に出仕せず（鹿苑日録）

## 慶長三年（一五九八）

三月一五日

豊臣秀吉、醍醐の花見を催す。前田利家・芳春院（利家の正室）らこれに随行する（利家公御代之覚書、醍醐花見之和歌、大かうさまくんきのうち）

四月二〇日

前田利長、従三位権中納言に叙任される（寛永諸家系図伝、公卿補任、国祖遺言）

五月

前田利家、湯治のため上野国草津に滞在し、翌月北陸経由で伏見に戻る（西笑和尚文案〔西笑承兌書状案〕、気多神社文書〔前田利家朱印状〕、利家公御代之覚書）

七月一五日

徳川家康ら諸大名、伏見城の前田利家邸にて秀吉遺物を拝領する。あわせて起請文をしたためめ、豊臣秀頼への忠誠を誓う（西笑和尚文案〔西笑和尚書状案〕、慶長三年誓紙前書、利家公御代之覚書、太閤記）

八月一八日

豊臣秀吉、伏見城にて没する。次いで九月三日、徳川家康・前田利家ら秀吉の遺言に従って秀頼への忠誠を誓う（利家公御代之覚書、三壺聞書）

九月五日

徳川家康・前田利家らの大老、朝鮮在陣諸将に対し、朝鮮との和議・撤兵を命じる（黒田家文書〔豊臣五大老連署状〕、豊国神社所蔵文書〔豊臣五大老連署状〕）

一二月三日

醍醐寺三宝院の義演、前田利家の重病を伝え聞く（義演准后日記）

## 慶長四年（一五九九）

正月一〇日
豊臣秀頼、秀吉の遺言に従い、伏見城から大坂城に移る。前田利家ら諸大名もこれに随行する（利家公御代之覚書、前田創業記、天寛日記）

正月
前田利家ら大老・五奉行、徳川家康の法度違反を詰問する。次いで二月五日、両者、起請文を交わして法度の遵守・以後の昵懇等を誓う（言経卿記、武家事紀）

二月二九日
前田利家、大坂を発して徳川家康の伏見屋敷を訪問する（藤堂文書〔徳川家康書状〕、当代記、利家公御代之覚書、譜牒余録）

三月一一日
徳川家康、前田利家の大坂屋敷を訪問する。利家、家康に利長との入魂を願い、誓紙を求める（国田文書〔徳川家康書状〕、当代記、利家公御代之覚書、譜牒余録）

三月二一日
前田利家、前田利長に宛てた遺言状を筆記させる（加藩国初遺文）

三月二四日
前田利長、江戸の徳川秀忠に宛てて上方の近況を報じ、あわせて徳川家康との関係構築につき口添えを求める（服部玄三氏所蔵文書〔前田利長書状〕）

閏三月三日
前田利家、大坂にて没する。翌日、遺骸が大坂を発して金沢へ運ばれ、四月八日に宝円寺にて葬儀、次いで野田山に葬られる（加藩国初遺文、利家公御代之覚書、利長公御代之おほへ書、御湯殿上日記）

閏三月
前田利長、大坂から伏見に向い、伏見城二ノ丸

に移った徳川家康を訪問する（利長公御代之おほへ書）

八月

前田利長、徳川家康の勧めにより、加賀国金沢城に戻る。次いで利長に謀反の風評が立つ（前田創業記、利長公御代之おほへ書）

九月二一日

徳川家康、前田利長の上洛を阻むべく、越前国に大谷大学・石田三成らの兵を派遣する（島津家文書〔島津義弘書状〕）

九月二七日

前田利長、堀秀治（越後国春日山城主）に宛て、徳川家康からの謀反の嫌疑につき、いささかも敵対する意図はないことを述べる（慶長の危機）（徳川美術館所蔵文書〔前田利長書状〕）

九月二八日

前田利長、家臣高畠定吉・篠原一孝・岡田長右衛門に、櫓・屋形門の構築等を指示する（高畠家文書〔前田利長覚書〕）

一〇月三日

丹羽長重（加賀国小松城主）、前田利長に逆心ありとして徳川家康に先陣を乞うという。翌日、家康、大坂城西ノ丸にて長重に吉光の脇差を与える（武家事紀）

一二月

前田利長、金沢城外に惣構の建設を始める（長家文書〔長如庵書状案〕、乙夜之書物、前田家雑録、文禄年中以来等之旧記、越登賀三州志）

## 慶長五年（一六〇〇）

春

前田利長、野田山麓に桃雲寺（野田の宝円寺）を建立する（貞享二年寺社由緒書上）

春

前田利長、徳川家康の子息を養子に迎えて、金沢城および城領二〇万石の譲渡を企図する。しかし、芳春院（前田利家の正室）などを人質として江戸に送ることにより中止となる（当代記、利長公御代之おほへ書）

五月一七日

芳春院（前田利家の正室）、徳川氏の人質として伏見を発し、江戸へ向う（前田育徳会所蔵文書〔長束正家・増田長盛・前田玄以連署状〕、乙夜之書物、利長公御代之おほへ書）

五月二七日

前田利長、金沢北郊森本村の館紺屋孫二郎に対し、金沢中の紺屋頭を命じる（石川県立歴史博物館所蔵文書〔前田利長書状〕）

七月七日

徳川家康、上杉景勝（会津若松城主）攻めにつき前田利長に指示を下す（歴代古案）

七月一七日

徳川家康に敵対する宇喜多秀家・毛利輝元、豊臣秀頼への忠誠を説いて前田利長を味方に誘う（北徴遺文）

七月二六日

前田利長、金沢を出陣し、上方へ向かう。同月二七日、能美郡三堂山に進出する（菅君雑録、利長公御代之おほへ書、村井重頼覚書）

八月三日

前田利長、山口宗永の加賀国大聖寺城を攻め落とす。次いで利長、金沢へ戻る（菅君雑録、多賀家古文書、村井重頼覚書、前田育徳会所蔵文書〔前田利長書状〕、松井文庫所蔵文書〔松井康之・有吉立行連署状案〕、山口軍記）

八月八日

前田利長、越前より金沢へ引き返す途中、能美

郡浅井畷において、丹羽長重の兵に襲われ、これと戦う（浅井畷の合戦）（丹羽家譜伝、加藩国初遺文、利長公御代之おぼへ書、乙夜之書物）

八月一三日

前田利長、金沢の先発部隊を松任まで派遣する。また、前田利政に能登からの出陣を命じる（前田育徳会所蔵文書〔前田利長書状〕）

九月三日

前田利長、黒田長政・藤堂高虎に対し、一両日中に加賀国小松表へ出陣する意向を述べる（黒田家文書〔前田利長書状〕）

九月一一日

前田利長、再び兵を率いて金沢を発し、上方へ向う。その途上、同月一八日、小松城主丹羽長重と講和する（丹羽長聡氏所蔵文書〔前田利長血判起請文〕、丹羽歴代年譜、瑞龍公親翰、譜牒余録、早稲田大学図書館所蔵文書〔徳川家康書状、西尾隠岐守・西尾藤兵衛連署状〕）

九月一五日

徳川家康、関ヶ原の合戦に大勝する。次いで家康、前田利長にこの勝利を伝える（前田育徳会所蔵文書〔徳川家康書状〕）

九月一八日

前田利長、金沢の留守居役高畠定吉に対し、戦況を報じ、重ねて留守を頼む（松雲公採集遺編類纂）

九月二二日

前田利長、近江国大津に至って徳川家康と対面する（越登賀三州志）

九月二五日

前田利長、家臣高山右近・長連龍らに明日京都西岡付近に進軍することを告げ、翌二六日、徳川家康に供奉して入京する。翌二七日には翌日大坂に至る予定を告げる（加賀古文書、中村不能斎採集文書、義演准后日記）

九月
前田利長、丹羽長重との講和に基づき、人質として前田利常（利光）を丹羽方に遣わす（利長公御代之おほへ書）

九月
徳川家康、徳川秀忠による島津攻めを計画し、前田利長が先手を望むという（利長公御代之おほへ書）

一〇月
前田利長、旧丹羽長重・山口宗永領の南加賀二郡を加増される（譜牒余録、瑞龍公親翰）

一一月
前田利長、大坂から金沢への帰途に就く（瑞龍公親翰、当代記）

この年
前田利長、金沢城西ノ丸に家臣長連龍の邸地を与えるという（信連記）

この年
前田利常（利光）、天徳院（徳川秀忠の娘。珠姫）と婚約する（瑞龍公親翰、利長公御代之おほへ書）

## 慶長六年（一六〇一）

正月二〇日
前田利長、金沢町人平野屋半介に、普請に関する定書三カ条を下す（加藩国初遺文）

八月一七日
前田利長、京都豊国社に参拝する（舜旧記）

九月三〇日
前田利常（利光）、天徳院を娶る（加藩国初遺文、利長公御代之おほへ書、当代記、寛永諸家系図伝、三壺聞書）

この年
イエズス会宣教師、前田家領国を訪れ、布教を行う。また、宣教師、高山右近の出資により建

設された聖堂を見る（1601年度日本年報）

この年以前

前田利長、金沢城外に惣構を建設する。そのため妙応寺・大乗寺等の寺地を移転するという（貞享二年寺社由緒書上）

## 慶長七年（一六〇二）

正月八日

前田利長、天徳院婚儀の御礼のため金沢城を発して江戸に向かう。同月二六日、榊原康政の江戸屋敷に到着し、同月二七日、江戸城にて徳川秀忠に拝謁する。その後、伊勢筋より上洛し、伏見にて徳川家康、大坂にて豊臣秀頼を訪ねる（横山家古文書等、利長公御代之おほへ書、当代記、可観小説）

三月

芳春院（前田利家の正室）、湯治のため江戸より摂津国有馬に向かう（利長公御代之おほへ書）

五月四日

前田利長、太田長知を金沢城にて殺害する（後撰芸葉、横山家古文書等、利長公御代之おほへ書、乙夜之書物）

七月一二日

前田利長、京都豊国社に参拝する（舜旧記）

一〇月三〇日

金沢城天守、落雷により焼失する。結城秀康（福井城主）、金沢城焼失を徳川秀忠に伝達する（徳川美術館所蔵文書〔徳川秀忠書状〕、文京区本郷井上書店目録〔本阿弥光悦書状〕、利長公御代之おほへ書、当代記、寛永諸家系図伝、三壺聞書）

一一月一日

前田利長、金沢城焼失にともなう諸道具の拾得

者にその届け出を命じる。次いで同月七日、先の火災の諸道具拾得者に届け出させるため、高札を立てる（万治以前御定書）

一一月二六日
徳川家康の上使安藤正次、金沢に到着する（寛永諸家系図伝）

一二月一六日
前田利長、戸室山麓中山村および近在の村々に対し、採石に従事する藩士・人足らの狼藉を禁ずる高札を下す（加能越古文叢）

## 慶長八年（一六〇三）

二月一二日
徳川家康、伏見城にて将軍宣下をうける。この月、前田利長・利常（利光）、伏見に赴き、徳川家康・秀忠に拝謁する（烈祖成績）

四月四日
徳川家康、京都屋敷に前田利長ら諸大名を招き、能楽を張行する（言経卿記、義演准后日記）

四月二七日
前田利長、金沢南郊に泉野新町を新たに立てる（加藩国初遺文）

## 慶長九年（一六〇四）

七月九日
前田利長、蝦夷地への帰途、金沢へ立ち寄った松前慶広を歓待する（新羅之記録）

一一月二一日
前田利長、諸士の服制を定める（加藩国初遺文）

## 慶長一〇年（一六〇五）

＊二月一六日（※慶長一〇～一四年）
能登国所口の前田利好、「金沢御台所御肴番」について、加越能三ヶ国浦々肝煎たちに金沢へ参集するよう命じる（当摩氏文書）

四月上旬
前田利長、養子利常（利光）を伴って伏見に至り、徳川家康および新将軍徳川秀忠に対面する。次いで利常（利光）、公家成（従五位下侍従・筑前守に叙任）し、松平姓を許される（柳原家記録、時慶記、当代記、天寛日記）

四月二六日
前田利常（利光）ら諸大名、徳川家康・秀忠に従い参内する（慶長日件録）

六月二八日
前田利長、家督を利常（利光）に譲り、越中国富山城に移って隠居する（荻野家文書〔横山長知書状〕、寛永諸家系図伝、1605年日本の諸事、三箇国御領分之次第、天寛日記）

一〇月一〇日
前田利長、飛驒の赤板を急ぎ富山まで搬送するよう命じる（絶家判印物写）

この年
金沢城下に高山右近の創設にかかるイエズス会の修道院・教会あり、イエズス会宣教師、前田利長を訪問するという（1605年日本の諸事）

## 慶長一一年（一六〇六）

四月
前田利常（利光）、江戸へ向かい、五月三日、美濃岐阜に宿泊する（当代記）

## 慶長一二年（一六〇七）

正月一七日
領国での豆腐の製造・販売を禁止する高札を金沢町に下す（加能越古文叢）

三月五日
「御当城」修築のため、羽喰郡菅原村の百姓に羽喰山の木材を伐採させる（国田文書〔篠原一孝・横山長知・奥村家福連署状〕）

五月三日
前田利長、駿府城公儀普請に従事のため、出役する家臣と金沢年寄中に普請法度を下す（加藩国初遺文）

六月二三日
前田利長、駿府城公儀普請に応じなかった家臣六人の処罰を命じる（山崎庄兵衛家文書〔前田利長書状〕）

九月一八日
前田利長、駿府に到着し、翌日、徳川家康に拝謁する（旧藩遺文）

九月下旬
前田利長、駿河から江戸に赴く。江戸城において徳川秀忠に拝謁し、また、芳春院（前田利家の正室）にも面会する。翌月富山城に戻る（勝興寺文書〔前田利長書状〕、専光寺文書、中川克典所蔵古文書、乙夜之書物）

九月
前田利長、駿府城公儀普請の様子を尋ねる（加賀古文書、長家文書〔前田利長書状〕）

この年
駿府城の前田氏担当丁場にて普請途中の石垣が崩れる（村井文書）

## 慶長一四年（一六〇九）

三月一八日
越中国富山城、焼失する。前田利長、同国魚津城に避難する（前田育徳会所蔵文書〔前田利政書状〕、当代記、三壺聞書）

四月六日
前田利長、徳川家康の許可を得て、新たに越中国高岡城・城下町の建設を進める（加藩国初遺文、諸家所蔵文書写、神尾文書、高岡町人由緒記）

四月頃
前田利長、京都において諸道具、ことに武具を急ぎ買い調えさせるという（当代記）

八月
前田利長、石垣の崩落等、越中国高岡築城工事の遅延により、魚津からの入城日程を変更する（諸家所蔵文書写）

九月一三日
前田利長、越中国高岡城に入城する。以後も二ノ丸の門・角櫓の作事などの築城を継続する（有賀家文書、神尾文書、前田育徳会所蔵文書〔前田利長消息〕、中川典克所蔵古文書）

九月二六日
能登の前田利好、鳳至郡木住村の八郎左衛門に命じ、金沢へ茶湯炭を調達させる（能登古文書）

## 慶長一五年（一六一〇）

閏二月八日
前田利常（利光）ら諸大名、名古屋城普請を命ぜられ尾張に赴く。利常（利光）は二ノ丸造営を担当する（山崎庄兵衛家文書〔三輪長好等連署蔵払算用状〕、射水市新湊博物館所蔵文書〔芳春院消息〕、当代記）

一二月一〇日
金沢町に対し、捕鳥の方法について禁制を発する（万治以前御定書）

＊九月二八日（※慶長一五年以前）
前田利常（利光）、越前国坂井郡から山崎長徳に書状を送り、明後日に帰城することを伝える（山崎文書〔前田利常書状〕）

## 慶長一六年（一六一一）

三月三〇日
徳川家康・秀忠、前田利長・利常（利光）ら諸大名に、禁裏造営への出役を命じる（天寛日記）

四月一三日
徳川家康、京都にて加藤清正・福島正則・前田利常（利光）らを饗応する（肥後国熊本様子聞書）

五月一五日
前田利長、利常（利光）および家臣に遺誡を与え、幕府への忠誠等を命じる（加藩国初遺文）

六月一七日
前田利長・利常（利光）、かねて津藩主藤堂高虎より推挙のあった本多政重の登用を受諾する。七月一九日、政重、金沢に到着し、八月一二日には利常（利光）より五万石の知行を給される（本多氏古文書等）

八月二七日
前田利常（利光）、「金沢屋敷奉行」を任命する。次いで、九月三日・同月四日・同月二三日、金沢城下の侍屋敷に関する法令を定める（万治以前御定書）

## 慶長一八年（一六一三）

三月九日

前田利常（利光）の娘（亀鶴姫）、生まれる（射水市新湊博物館所蔵文書〔芳春院消息〕、壬子集録）

五月一七日

前田利常（利光）、駿府に到着する。次いで同月二〇日、駿府城の徳川家康に拝謁し、同月二二日、駿府を発して江戸に向かう（当代記、駿府記）

一〇月一五日

前田利常（利光）、中山村および近在の村々に対し、戸室山にて石切に従事する者の狼藉を禁ずる高札を下す（加能越古文叢）

## 慶長一九年（一六一四）

正月

前田利長・利常（利光）、高山右近ら領内のキリシタンを捕縛・追放する（1614年度日本年報、駿府記、三壺聞書）

三月一〇日

大坂城の大野治長、（豊臣秀頼への忠誠を求め）前田利長に上洛を促す（加藩国初遺文）

三月一五日

越後国高田城の公儀普請が始まり、前田利常（利光）ら諸大名、これに動員される（本多氏古文書等、川合文書、当代記）

五月二〇日

前田利長、越中国高岡城にて没する（旧藩遺文、渋谷家文書〔伊勢御師二見忠隆書状〕、寛永諸家系図伝、利長公御代之おほへ書、当代記、駿府記、義演准后日記、村

井重頼覚書、三壺聞書）

六月

芳春院（前田利家の正室）、江戸を発して金沢に移り、代わって寿福院（前田利常の母）が江戸へ下るという（三壺聞書）

八月二八日

江戸の大風により、前田利常（利光）の屋敷（千畳敷の家・門以下）顛倒するという（当代記）

九月一六日

前田利常（利光）、駿府に到着する。同日、徳川家康から加越能三か国の領知を認められる（加藩国初遺文、当代記、駿府記）

九月二三日

前田利常（利光）、江戸にて徳川秀忠から三か国の領知を認められる（加藩国初遺文）

九月

前田利常（利光）、少将に昇任するという（寛永諸家系図伝）

一〇月一日

前田利常（利光）、江戸を発ち、同月一一日、金沢城に到着するという（加府大坂陣日記、本藩歴譜）

一〇月一四日

前田利常（利光）、軍勢を率いて金沢を発し、大坂へ向う。次いで、同月一九日、近江国大津に至る（篠島家文書〔前田利常書状〕、村井重頼覚書、加府大坂陣日記、三壺聞書）

一〇月二四日

前田利常（利光）、近江国大津を発し、京を経て嵯峨に至る（加府大坂陣日記）

一〇月二九日

前田利常（利光）、嵯峨を発し、河内国飯森等を経て一一月一三日、摂津国阿倍野に至る（加府大

坂陣日記）

一一月一七日

前田利常（利光）ら諸大名、摂津国住吉にて徳川家康に拝謁する。以後、利常（利光）は住吉に在陣する（駿府記、加府大坂陣日記）

一二月四日

前田利常（利光）勢、大坂城真田丸を攻撃し、この日の会戦で三〇〇騎を失うという（孝亮宿祢記、旧記雑録後編、加藩国初遺文）

この頃

金沢城西ノ丸に近藤大和・上坂又兵衛の屋敷があったという（加州金沢城図）

この頃

諸大名の江戸屋敷のうち、前田利常（利光）の屋敷が一番との評判あり（当代記）

## 元和元年（慶長二〇年。一六一五）

二月一日

前田利常（利光）、京都を発する（加府大坂陣日記）

二月六日

前田利常（利光）、大坂より金沢城へ帰着する（加藩国初遺文）

三月二六日

前田利常（利光）、再度の大坂出陣にあたり軍役を定める（万治以前御定書）

四月一八日

前田利常（利光）、金沢城を発し、大坂に出陣する（村井重頼覚書、三壺聞書、菅君雑録）

四月二六日

前田利常（利光）、再度大坂出陣にあたり軍法を定める（万治以前御定書）

五月七日
前田利常（利光）の兵、大坂城岡山口にて戦う。この日、大坂方、降伏する（祖武雙璧〔前田利常書状〕、加藩国初遺文、旧藩遺文）

閏六月一九日
前田利常（利光）、従四位下参議に進み、重臣本多政重・横山長知、従五位下に叙され、本多は安房守、横山は山城守に任じられる（駿府記、寛永諸家系図伝、公卿補任、横山家古文書等、本多氏古文書等）

七月
上方の前田利常（利光）、帰国を許可される。翌八月、金沢城に戻る（駿府記、菅君雑録）

一一月二〇日
前田光高（利常の嫡男。犬千代）、金沢で生まれる（壬子集録、本藩歴譜）

## 元和二年（一六一六）

四月一七日
徳川家康、駿府城にて没する。次いで前田利常（利光）ら諸大名、家康の遺物を拝領する（寛永諸家系図伝、徳川実記、懐恵夜話、菅君雑録）

＊六月八日（※元和二年～三年）
前田利常（利光）、玉泉院の「御座所」を越中高岡より金沢城西ノ丸に移築させ、金沢城内の芳春院（前田利家の正室）の屋敷周辺の普請・「御座所」の作事を急がせる（御歴代御書写、村井文書）

九月一一日
大坂両陣にて家中武具・軍旗、損傷するにつき、軍役を改める（加藩国初遺文）

一二月二六日
前田利孝（利家の五男）、上野国七日市に封ぜられ、禄一万石を給せられる（七日市藩の成立）（寛

永諸家系図伝、系譜、天寛日記）

この年

前田利常（利光）、宮腰往来を作るという（三壺聞書）

## 元和三年（一六一七）

五月一三日

徳川秀忠・家光、前田家の江戸辰口邸を訪問する（本光国師日記、１６１８年度日本年報、寛永諸家系図伝、東武実録）

七月一六日

芳春院（前田利家の正室）、金沢にて没する（山崎文書〔前田利常書状〕、村井文書、三壺聞書）

七月

これより先、前田利常（利光）ら諸大名、徳川秀忠に供奉して上洛する。この月、利常ら上方に滞在する（本光国師日記、慈性日記）

この年

前田利常（利光）、「金之御羽織之者」を定める（万治以前御定書）

## 元和六年（一六二〇）

正月二〇日

前田利貞（利家の六男）、困窮により大坂城公儀普請を勤め難いと訴える（幸田成友所蔵文書〔前田利貞書状〕）

正月

大坂城公儀普請が開始され、前田利常（利光）ら諸大名が動員される（大坂御城御普請ニ付而諸大名江地口坪割之図、徳川実紀、三壺聞書、文禄年中以来等之旧記）

三月三日
大坂城公儀普請につき、老中酒井忠世ら、北国衆の普請場を見分する（元和六年案紙）

三月八日
前田利常（利光）、大坂城公儀普請に関し、加賀藩重臣本多政重・横山長知に交替で詰めるよう指示する（本多氏古文書等）

三月
北国衆、大坂城公儀普請の丁場割につき、津藩主藤堂高虎と争う（元和六年案紙）

四月一〇日
大坂城公儀普請につき、北国・西国の諸大名、伏見城の石を大坂へ引く（義演准后日記）

一一月二四日
金沢城本丸御殿、焼失する（元和六年書状案、松井文庫所蔵文書〔細川忠興書状〕、孝亮宿祢記、三壺聞書、文禄年中以来等之旧記）

この年
大坂城公儀普請の雑用金が知行高に応じて前田利常（利光）らに分配される（京極文書〔元和六年大坂城御手伝雑用金五百匁知行割歩合書〕）

この年
幕府、大坂城公儀普請における前田家担当石垣の歪みに対し、築き直しを命じるが、前田家はこれを退けたという（可観小説、文禄年中以来等之旧記）

この年
イエズス会宣教師、越中・加賀・能登を訪れ、教化活動を行う。金沢には三か月滞在したという（1620年度日本年報）

## 元和七年（一六二一）

二月二日
加賀藩重臣本多政重・横山長知、金沢城造営に用いる木材の搬送につき、近江国の今津甚右衛門に指示を与える（加藩国初遺文）

二月七日
老中酒井忠世ら、金沢城本丸拡張のための普請を許可する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

五月二四日
金沢城本丸御殿再建のため、波着寺等三ヵ寺に地鎮祭を執行させる（加藩国初遺文）

五月二九日
金沢城本丸の門再建につき、宝幢寺に吉日選考を依頼する（加藩国初遺文）

六月三日
前田利常（利光）、江戸に到着する。次いで同月一一日、利常（利光）、徳川家光の朝茶の会に参加する（本光国師日記、時慶記）

この年
（金沢城再建のため）越中国砺波郡の材木を運ばせる（金子文書）

## 元和八年（一六二二）

七月三日
天徳院、没する。次いで八月八日、宝円寺にて葬儀が行われる（加藩国初遺文、新田宇一郎氏所蔵文書〔和久半左衛門書状〕、孝亮宿祢記、舜旧記、壬子集録、三壺聞書、東武実録）

## 元和九年（一六二三）

二月二四日
玉泉院、没する。次いで宝円寺にて葬儀が行われる（壬子集録、三壺聞書）

八月六日
前田利常（利光）ら諸大名、徳川家光に供奉して参内する（旧記雑録後編、東武実録）

## 寛永元年（元和一〇年。一六二四）

＊五月一三日（※この年カ）
宮崎太左衛門（加賀藩士）、大坂の商人安井九兵衛らに残石の売却を指示する（安井家文書〔宮崎太左衛門等連署状〕）

＊七月八日（※この年カ）
加賀藩の人持組下奉行、大坂の商人安井道卜らに残石の払い方について熊谷・宮崎両人より詳細を伝えることを報じる（安井家文書〔人持与下奉行書状〕）

九月一六日
前田利常（利光）、小浜藩主京極忠高の大坂城二ノ丸堀の関板に用いる釘・鎹の数量を書上げ、幕府普請奉行衆の手形をうける（大工頭中井家文書〔山村伊助・村野伊予達書〕）

九月一八日
大坂城公儀普請について、前田家の下奉行、東西堀等の割り当てを鬮取で決める（元和十年以来江戸・大坂尤禁裏御普請事）

一〇月一日
大坂城本丸普請方について、諸組組頭の下奉行、諸大名の担当普請坪数を算用する（元和十年以来江戸・大坂尤禁裏御普請事）

この年
前田利常（利光）、再び大坂城公儀普請に従事する（本多氏旧記、鍋島勝茂譜考補、大坂御城図、三壺聞書）

## 寛永二年（一六二五）

正月
大坂城公儀普請について、加賀藩重臣本多政重組の担当丁場の算用を行う（本多氏旧記）

## 寛永三年（一六二六）

八月
前田利常（利光）、徳川秀忠・家光に供奉して上洛し、一四日・一六日の両日、能を拝見する。次いで二一日には従三位権中納言に昇進する（村井文書、梅津政景日記、東武実録、寛永諸家系図伝）

## 寛永四年（一六二七）

三月二五日
加賀藩重臣奥村易英（因幡守）ら、安井九兵衛に大坂城公儀普請に用いる石材の用意を依頼する（安井家文書〔奥村易英・奥村栄政・横山康玄連署状〕）

## 寛永五年（一六二八）

二月二日
前田利常（利光）、普請場の条目を定め、大坂城公儀普請に従事する家臣の心得を定める（加藩国初遺文）

三月一二日
曼殊院門跡良恕法親王、前田利常（利光）による大坂城二ノ丸玉造口（辰巳南）の堀普請を見物する（厳島参詣道記）

八月二三日
前田利常（利光）、金沢町中に町役・風紀・訴訟につき条目を下す（加藩国初遺文）

八月
大坂城二ノ丸南堀の普請について、諸大名の土坪・石垣坪の算用を行う（慶長年中より寛永年中迄御城廻御普請御手伝御務之趣公儀江被仰出候記録、本多氏旧記）

一二月二二日
前田利常（利光）、大坂城公儀普請に奔走した安井九兵衛を賞する（安井家文書〔本多政重書状〕）

## 寛永六年（一六二九）

四月七日
前田利常（利光）、参勤して江戸城に出仕する（梅津政景日記）

四月二三日
前田筑前守利光、肥前守利常と改める。犬千代（利常の嫡男）、元服して従四位下筑前守光高と改める（南部晋所蔵文書、寛永諸家系図伝、東武実録）

四月二六日
徳川家光、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）を訪問する（南部晋所蔵文書、寛永諸家系図伝、東武実録、三壺聞書）

四月二九日
徳川秀忠、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）を訪問する。同日その御礼として、前田利常・光高、江戸城に登る（寛永諸家系図伝、東武実録）

## 寛永七年（一六三〇）

四月一一日
京の庭師賢庭、加賀国へ下向する（本光国師日記）

七月
金沢城に出入する家中供廻の人数を定める（加藩国初遺文）
この年
前田利常・光高父子、金沢城下安江町の前田貞里邸を訪問するという（私用覚書）

## 寛永八年（一六三一）

三月六日
寿福院、江戸にて没する（加藩国初遺文、三壺聞書、壬子集録、延宝年中加越能社寺来歴）
三月一三日
農政に関する五八ヶ条を定め、郡奉行に下達する（加藩国初遺文）
四月一四日
金沢城下法船寺門前から出火し、金沢城辰巳櫓より城中の大半を焼く。のち復興にあたり、前田利常、武家地や町割りを変更する（安居寺文書〔今枝直恒書状〕、黄薇古簡集、川合文書、加藩国初遺文、旧藩遺文、後藤家文書、江戸幕府日記、梅津政景日記、綿考輯録、東武実録、三壺聞書、乙夜之書物、新山田畔書）
六月六日
老中酒井忠世ら、加賀藩から申請された金沢城の再建を許可する（加藩国初遺文）
九月一日
老中酒井忠世ら、加賀藩から追加申請された金沢城の石垣普請を許可する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）
一一月二五日
幕府から疑惑の指摘をうけ、前田利常・光高父子、江戸へ参勤する（寛永の危機）（三壺聞書、懐恵夜話）

一一月二八日
金沢城下出火の節、諸士の出役につき令する（加藩国初遺文）
この年
金沢城二ノ丸を拡張し、御殿を新たに造営する（上梶家文書、金子文書）

## 寛永九年（一六三二）

正月二四日
徳川秀忠、江戸城にて没する。次いで前田利常ら諸大名、秀忠の遺物を拝領する（寛永諸家系図伝、東武実録、徳川実紀）
八月
前田利常、河北郡田島村に高札を与え、戸室山の採石人足等の狼藉を禁ずる（文禄年中以来等之旧記）
一二月二九日
江戸辰口の加賀藩邸（上屋敷）、類焼する（本光国師日記、後藤家文書、神尾文書、山崎文書、江戸幕府日記、天寛日記）
この年
金沢城に辰巳用水を引く（改作所旧記、菅家見聞集、御城高石垣之事等、板屋兵四郎ゑんぎ書）

## 寛永一〇年（一六三三）

正月二日
江戸辰口の加賀藩邸（上屋敷）の再建に着手する（三壺聞書）
七月一四日
前田利政（利家の次男）、京都にて没する（壬子集録）
一二月五日
清泰院（徳川家光の養女。大姫）、前田光高に入輿

し、加賀藩江戸藩邸に入る（甲子聞書、江戸幕府日記、三壺聞書）

一二月二五日
前田利常・光高、江戸城に登り、婚礼の終了を謝す（江戸幕府日記、天寛日記）

## 寛永一一年（一六三四）

四月下旬
前田利常、江戸よりいったん金沢に帰国する（三壺聞書、菅君雑録）

五月二三日
豪姫（前田利家の娘）、金沢にて没する（壬子集録、本藩歴譜）

七月一一日
前田利常、徳川家光入洛に際し、大津に出迎える（金沢文書、江戸幕府日記）

七月一八日
前田利常、参内する徳川家光を禁裏御所の四脚門に迎える（寛永間古文書写、江戸幕府日記、徳川実紀）

八月四日
徳川家光、前田利常の所領（加賀・能登・越中三ヶ国一一九万二七六〇石）を安堵する（御判物并領知目録、たもと草）

八月
前田利常、京都より金沢に帰る。次いで、金沢城玉泉院丸の庭園等を造営する（三壺聞書、菅君雑録）

## 寛永一二年（一六三五）

二月一日
前田利常、江戸城に登り参勤の挨拶をする（柳

営録）

二月九日

加賀藩重臣本多政重・横山長知、金沢町火災につき定書を下す（加藩国初遺文）

二月

江戸の前田利治（利常の三男）、新規に建築した書院の座敷の絵を狩野山楽に依頼する（古文書纂〔松平忠明書状〕）

五月九日

金沢河原町より出火。次いで前田利常、金沢城下の町割りを変更する（三壺聞書、菅君雑録）

六月三〇日

徳川家光、前田利常等二六名の大名に帰国を命じる（大名参勤交替の初め）（江戸幕府日記）

八月二六日

加賀藩重臣本多政重・横山長知、江戸城石垣普請のため、伊豆・江戸に出役する武家奉公人に関する法度を下す（加藩国初遺文、上梶家文書）

## 寛永一三年（一六三六）

正月八日

徳川家光、前田利常・利孝等に、江戸城外堀の造営を命じる（寛永間古文書写、徳川実紀、三壺聞書、菅君雑録）

二月一七日

前田利常、江戸城外堀普請の進捗を福井藩主松平忠昌に報じる（古文章大全）

三月二八日

前田利常、帰国を許可される。三月二九日、江戸城に登る。次いで六月六日、徳川家光に供奉して日光社参ののち帰国する（本多氏古文書等、寛永間古文書写、江戸幕府日記、天寛日記）

七月七日
前田利常、重臣安見元勝（隠岐）を能登に流す（古文章大全）
一一月一三日
加賀藩、作事資材の出納に関する法規を定める（万治以前御定書）

## 寛永一四年（一六三七）

三月二五日
加賀藩重臣本多政重・横山長知、金沢の町政に関する条書を町奉行に下す（加藩国初遺文）
閏三月一二日
前田利常、金沢を発し、江戸へ向かう（御歴代御書写）
閏三月一四日
加賀藩重臣本多政重・横山長知、火災時の金沢城内詰番を定める（万治以前御定書）
六月四日
前田利孝、江戸にて没する。次いで九月八日、前田利意（利豊）、利孝の跡を継ぎ、七日市藩主となる（天寛日記、壬子集録）
この年
飢饉につき、敷貸米の制度始まる（政隣記、三壺聞書）
この年
島原・天草一揆起こる。前田利常、この年から領内のキリシタン詮議を強め、これの密告を奨励する（寛永間古文書写、本多氏古文書等、加藩国初遺文）

## 寛永一五年（一六三八）

四月六日
普請奉行に普請場での家中役人等の不届・欠

勤・狼藉等の取り締まりを命じる（加藩国初遺文）

五月二日
前田利常、帰国を許可される。次いで同月一九日、江戸を発し、金沢に向う（加藩国初遺文、江戸幕府日記）

一二月七日
前田利常、金沢城二ノ丸の脇の数寄屋完成を江戸の光高に報じる（御歴代御書写）

## 寛永一六年（一六三九）

正月
前田利常、金沢城にて諸士の年頭礼を受ける（三壺聞書、菅家見聞集）

四月一八日
前田利常、参勤して江戸城に登る（国事雑抄、江戸幕府日記）

六月六日
加賀藩重臣本多政重・横山長知、金沢城附近の火災に際しての部署を定める（加藩国初遺文）

六月二〇日
前田利常、幕府より隠居を許される。光高、利常の家督を相続し、利次・利治、またその領知を分けられる。次いで、利常、加賀国小松へ隠居する（加藩国初遺文、前田家雑録、山崎文書〔前田利次書状〕、島田家文書〔前田利治書状〕、江戸幕府日記、三壺聞書）

七月二九日
前田光高、幕府のキリシタン禁令を領内に伝達し、励行を促す（万治以前御定書）

一一月二一日
前田光高、帰国を許可される。同月二六日・一二月一日、江戸城に登り、次いで帰国する（本多氏古文書等、江戸幕府日記）

閏一一月一三日
前田光高、藩主として初めて帰国し、金沢城に入る（後藤家文書、加藩国初遺文、有初有終録、江戸幕府日記）

この年
加賀藩、組頭あてに金沢城近辺火事等の際の心得を定める（万治以前御定書）

この年
前田利常、金沢城二ノ丸に三間の厩を造営して、光高に譲るという（夜話）

## 寛永一七年（一六四〇）

二月一一日
徳川家光、使者を加賀藩江戸藩邸へ送り、病気の前田利常を見舞う（江戸幕府日記）

二月一六日
前田光高、徳川家光から初入国の祝儀を贈られたことを謝す（加藩国初遺文）

三月二四日
前田光高、江戸に到着、同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（本多氏古文書等、江戸幕府日記）

三月二八日
徳川家光、加賀藩下屋敷に御成、前田利常に腰物を与える（本多氏古文書等、江戸幕府日記、寛永諸家系図伝）

四月
前田光高、徳川家光に従い、日光に社参する（湯浅家伝書）

五月一一日
前田利常、帰国を許可される。同月一三日、江戸城に登る。次いで六月一〇日、江戸を発し、

東海道を経由して同月二一日、普請中の小松城に到着する（旧藩遺文、加州家御次日記、江戸幕府日記、三壺聞書）

七月一三日

小堀政一（遠州）、前田利常に作事の進捗を尋ね、また利常から依頼のあった数寄屋の額について述べる（個人蔵文書〔小堀遠州書状〕）

七月二二日

加賀藩重臣本多政重・横山長知、小松城普請のため、羽咋郡滝村から庭石を求める。翌二三日、前田光高の命により、小松城普請用の木石を船持の村々に割り当てして輸送させる（加藩国初遺文、中山家文書）

八月二八日

加賀藩重臣横山長知・奥村易英、小松城に移築のため、金沢城玉泉院丸にあった「御足駄蔵」を解体し、材木ほか敷石まで宮腰に運び、当月中に安宅浦まで回漕することを命じる（中山家文書）

八月頃

前田利常、小松城の天守台や大手門の普請にあたり戸室石を回漕させる（落葉集）

一一月二八日

徳川家光、前田光高に、金沢における東照宮建立を許可する（寛永諸家系図伝）

一二月一八日

前田光高、金沢東照宮別当として、江戸上野常照院に一五〇石の知行を与える（袖裏雑記）

## 寛永一八年（一六四一）

正月二七日

前田利常、大老酒井忠勝にあて金沢東照宮勧請が許可されたことを謝す（加藩国初遺文）

二月二九日
天海、前田利常に前田氏の出自を源氏に改めるよう勧める（古文章大全）

四月二八日
前田利常、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（江戸幕府日記、三壺聞書）

## 寛永一九年（一六四二）

四月
前田光高・徳川義直（尾張藩主）ら、徳川家光に従って日光に社参する（国事雑抄、江戸幕府日記、徳川実紀）

五月二日
前田利常、帰国を許可される。同月三日、江戸城に登り、次いで江戸を発し、同月二一日、小松に到着する（沢存、江戸幕府日記、三壺聞書）

六月一日
町奉行長瀬五郎右衛門、金沢町に法度を下す（加藩国初遺文）

八月二二日
前田光高、金沢城中の鉄砲蔵の床下に塩を置かせる（前田因幡蔵文書）

八月二七日
富姫（前田利常の娘。真照院）、八条宮智忠親王に嫁ぐため江戸を発する（温故雑録、江戸幕府日記）

九月
前田利常の後援により、那谷寺三重塔、完成する（三重塔相輪露盤銘、本多氏古文書等）

この年
前田利常、小松城内（葭島）に「御花畠」（亭榭園囿）を造営する（三壺聞書）

この年
前年からの飢饉続く（新山田畔書、三壺聞書）

## 寛永二〇年（一六四三）

六月五日
加賀藩重臣横山康玄ら、野田山桃雲寺に前田家墓所の取締りを命じる（加藩国初遺文）

六月八日
前田光高、帰国を許可される。翌日、江戸城に登り、同月一二日、江戸を発す（万跡書帳、柳営録）

八月二〇日
東照宮の霊代、江戸を発して金沢に向う。翌九月、金沢城北ノ丸に東照宮が竣工し、同月一七日、東照宮の霊代を迎えて正遷宮が行われる（金沢尾崎神社文書、金沢東照宮造立棟札）

一〇月一八日
前田光高、金沢城番の勤務について指示する。次いで同月二二日、金沢を発ち、一一月一日、江戸に到着、加賀藩江戸藩邸「新屋敷」に入る（本多氏古文書等、万跡書帳、前田貞醇蔵文書、柳営録、菅君雑録）

一一月一六日
前田綱紀（光高の嫡男。犬千代）、加賀藩江戸藩邸（辰口邸）に生まれる（万跡書帳、本多氏古文書等、黄薇古簡集、柳営録）

この年
前田利常・光高、領国内のキリシタン吟味を強化する（本多氏古文書等、加藩国初遺文）

## 正保元年（寛永二一年。一六四四）

四月二六日
前田貞里、金沢城石垣の修築について、前田光高の指揮を仰ぐ（前田貞醇蔵文書）

四月二七日
前田利常、帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登る（江戸幕府日記）

五月七日
前田光高、金沢城石塁の修築について、国許の奉行等に指示する（前田貞醇蔵文書）

## 正保二年（一六四五）

二月一五日
前田利常、小松を発って江戸に向う。次いで三月二五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（江戸幕府日記、三壺聞書）

四月五日
前田光高、江戸にて急逝する。次いで同月一九日、光高の遺骸、金沢に到着する（古文章大全、龍谷大学図書館所蔵文書〔照円寺唯宣申状〕、江戸幕府日記、三壺聞書、加藩国初遺文）

六月一三日
前田綱紀（犬千代）、家督を相続する。幼少のため、幕府、祖父前田利常に後見させる（本多氏古文書等、思文閣古書資料目録〔前田綱紀印判状〕、江戸幕府日記、三壺聞書、加藩国初遺文）

八月二一日
前田利常・綱紀（犬千代）ら、就封の御礼のため江戸城に登る（後藤家文書、江戸幕府日記）

九月一二日
前田貞里、金沢城代を命ぜられる（前田貞醇蔵文書）

## 正保三年（一六四六）

六月三日

前田利常、江戸の石切十左衛門・五兵衛らに小判・銭を与える（参勤ニ付被遣物・被下物品々留帳）

七月九日

前田利常、帰国を許可される。同月一〇日、江戸城に登る。次いで九月二日、小松に到着する（本多氏古文書等、江戸幕府日記、三壺聞書）

九月上旬

前田利常、小松城に「御居間ノ脇」に「御座布」を造営する（新山田畔書）

この年

前田綱紀（犬千代）（前田利常）、加賀・能登・越中の郷帳を幕府に提出する（加越能三箇国高付帳）

## 正保四年（一六四七）

三月一九日

前田利常、小松を発する。次いで四月二三日、江戸に到着、同月二五日、江戸城に登り、徳川家光に参勤の挨拶をする（本多氏古文書等、江戸幕府日記、三壺聞書）

八月一三日

前田利常、火災時の金沢城警衛の部署を定める（加藩国初遺文）

一二月一六日

前田綱紀（犬千代）（前田利常）、越中・能登の国絵図を幕府に提出する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

## 慶安元年（正保五年。一六四八）

五月二三日
前田利常、帰国を許可される。同月二五日、江戸城に登る。次いで日光へ社参し、帰国する（加藩国初遺文、柳営録、三壺聞書）

六月二五日
加賀藩、家中の普請役につき細則を定める（典制彙纂）

## 慶安二年（一六四九）

三月二三日
前田利常、小松葭島亭において重臣等を饗応する（前田貞醇蔵文書）

三月中旬
前田利常、小松を発して江戸に向う。次いで四月二二日以前に江戸に到着し、同月二九日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（江戸幕府日記、菅綱記）

四月二八日
金沢城惣構の土居および堀の保全に関する法令を定める（加藩国初遺文）

一二月二九日
前田綱紀（犬千代）（前田利常）、加賀の国絵図を幕府に提出する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

## 慶安三年（一六五〇）

三月二九日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）、類焼にかかる。よって前田利常、大聖寺藩前田利治の邸に仮住する（水野家文書〔前田利治書状〕、御判物并領知目録、江戸幕

府日記、徳川実紀、三壺聞書）

四月

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）再建のため、領国より人足を動員する（加藤覚書）

五月一日

前田利常、帰国を許可される。同月四日、江戸城にて帰国の挨拶をする。次いで同月一九日、東海道より帰国の途に就き、同月二八日小松城に到着する（江戸幕府日記、三壺聞書）

六月

前田利常、小松城中土居の庭園を修造し、秋中に完成する。次いで金沢・小松の諸士の家計を調査し、救済の法を講ずる（三壺聞書、菅綱記）

一〇月三日

老中松平信綱ら、さきに大雨洪水で崩れた金沢城の石垣修理（三ヶ所）と堀浚渫（六ヶ所）普請を許可する（加藤国初遺文）

## 慶安四年（一六五一）

正月二日

前田利常、小松城にて能を行い、小松町中の人々に見物させる（小松旧記）

三月

前田利常、小松を発ち、四月一日以前、江戸に到着し、同月一〇日、江戸城に登る（江戸幕府日記、菅綱記）

四月二〇日

徳川家光、江戸城にて没する。前田利常、国許の軽挙を戒め、奥村栄政に金沢城の留守居を任せる（御判物并御書等写、本多氏古文書等）

八月二一日

前田利常、完成した加賀藩江戸藩邸（本郷邸）に移る（慶安四年抄、菅綱記）

一二月
前田貞里、無断で引き籠もり、閉門を命じられる（本多氏古文書等、私用覚書）

この年
前田利常、綱紀（犬千代）領・利常隠居領において、改作法に着手する（加藩十二冊定書、十村後藤家文書、十村田辺家文書、改作法勤仕帳、庁事通載、三壺聞書）

## 承応元年（慶安五年。一六五二）

四月
前田利常、江戸を発し、小松城に戻る（於江戸中納言様御在国中方々へ御音信御上屋敷より調被遣分、菅家見聞集、菅綱記）

八月
前田利常、江戸より石切を小松へ呼び寄せる（於江戸中納言様御在国中方々へ御音信御上屋敷より調被遣分）

秋
前田利常、小松城内葭島に数寄屋（茶屋）を造る（三壺聞書、菅君雑録）

この年
金沢城中に時鐘が設置される（菅綱記、菅君雑録、本藩歴譜、微妙院様御直之御意覚書）

## 承応二年（一六五三）

三月下旬
前田利常、小松を発し、四月一二日、江戸に到着する。同月二三日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（国事雑抄、徳川実紀、菅君雑録）

八月七日
金沢城本丸西（玉泉院丸付近）の石垣、風雨による倒木によって破損する（古ヨリ公儀江被上候御城

絵図御国絵図改申品々之帳）

## 承応三年（一六五四）

正月一二日

前田綱紀（犬千代）、江戸城において元服する。諱を綱利とし、正四位下左近衛権少将に叙任される（古文章大全、寛永間古文書写、前田育徳会所蔵文書、徳川実紀、三壺聞書）

四月二八日

前田利常、帰国を許可される。翌月小松城に戻る（中納言様御分御留守中方々御進物帳、徳川実紀、菅君雑録）

この年

前田利常、改作法実施の成果として、領内に村御印を下す（石川郡林村文書）

## 明暦元年（承応四年。一六五五）

四月一二日

前田利常、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（徳川実紀）

## 明暦二年（一六五六）

四月二九日

前田利常、帰国を許可される。閏四月一三日、江戸城に登る。次いで江戸を経ち、五月、小松城に到着する（柳営日次記、中納言様御在国中御進物帳、政隣記）

八月一日

前田利常、改作法を実施した村々に訂正した村御印を下す（加越能三箇国村御印之留）

九月二三日
清泰院（前田光高の正室）、江戸にて没する（大坪家文書〔徳川光貞書状、徳川光圀書状〕、寛永間古文書写、壬子集録、柳営日次記）

## 明暦三年（一六五七）

正月一九日
江戸の大火によって辰口の加賀藩上屋敷、類焼する。そのため五月一四日、幕府より上屋敷の替地を受ける（柳営日次記、政春古兵談、微妙院様御直之御意覚書、松雲公夜話）

三月二七日
前田利常、小松を発し、四月七日、江戸に到着する。同月一三日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（柳営日次記、菅綱記、政隣記）

四月
前田利常、村御印による年貢皆済を幕府へ報告する（改作成就）（本藩歴譜）

七月八日
清泰院の江戸牛込邸没収について加賀藩反論し、この日、替地として本郷金助町に屋敷地を与えられる（藤田内蔵允書状控、柳営日次記、松雲公夜話）

九月二七日
前田綱紀（綱利）ら諸大名、江戸城の石垣普請を命ぜられる。加賀藩は天守台石垣普請を担当する（江府天守台修築日記、柳営日次記）

一一月八日
小幡長次（加賀藩重臣）、江戸城天守台の普請のため、安井道卜・安井九兵衛に対し借銀を依頼する（安井家文書〔小幡長次書状〕）

一二月
江戸城天守台の普請につき、加賀藩領より四〇〇〇人の百姓人足を動員する（武部家文書、明暦期改作方留帳）

## 万治元年（明暦四年。一六五八）

二月一一日
江戸「御普請」（江戸城天守台石垣普請）への人夫派遣について、越中国砺波郡太田村肝煎らが連署して請書を差し出す（金子文書）

三月一一日
十村田井村五兵衛、金沢町に在住する江戸普請人足の身元保証は町方で行うべきとの意向を示す（明暦期改作方留帳）

三月一四日
江戸城天守台石垣の普請が開始される（江府天守台修築日記、菅君雑録、政隣記）

三月二九日
江戸三つ又の河口へ石一二〜三が到着したとの知らせが入る（江府天守台修築日記）

四月八日
江戸の波止場に石船六艘が着岸し、大角石を引き上げる（江府天守台修築日記）

四月二〇日
江戸普請の百姓役人に、給銀・賄銀が支給される（加藩国初遺文）

四月二六日
幕府老中、江戸城石垣普請に関する普請付・書付を加賀藩重臣に渡す（江府天守台修築日記）

五月四日
江戸城天守台石垣普請の鍬初につき、前田綱紀（綱利）ら天守台戌亥の角石を据える（江府天守台

修築日記）

五月三〇日
加賀藩、江戸城天守台普請の扶持米一五〇〇石を幕府から受け取る（江府天守台修築日記）

六月二日
前田綱紀（綱利）、江戸城天守台の石垣普請に関し、香需散を与えられる（江府天守台修築日記）

六月三日
前田利常、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。九月八日、江戸を発ち、同月二三日、小松城に到着する（那谷寺文書〔古市左近書状〕、中納言様御在国中御進物被下物之帳、柳営日次記、菅君雑録）

六月二八日
御大工・穴生衆、江戸城天守台石垣普請につき、水を見るため、万丈の立て方を確認する（江府天守台修築日記）

七月一日
江戸城天守台の丑寅の角石を置き始める（江府天守台修築日記）

七月二六日
前田綱紀（綱利）、摩須（会津藩主保科正之の娘）を娶る（江戸幕府日記、三壺聞書、壬申雑篇、古文章大全）

八月二八日
この日までに江戸城天守台石垣の角石・平石四方ともに築き終える（江府天守台修築日記）

九月二六日
江戸城天守台の石垣普請、完了する（大鋸コレクション〔前田綱紀書状〕、湯浅家伝書、江府天守台修築日記、江戸幕府日記、徳川実紀、菅君雑録）

一〇月一二日
前田利常、小松城にて没する（加藩国初遺文、古文章大全、江戸幕府日記、三壺聞書）

一〇月
加賀藩重臣前田孝貞ら、前田利常死去にともなう幕府上使小出尹貞の到着に先立ち、金沢城内および尾坂から二ノ丸迄の清掃・修繕を指示する（上使）

一一月九日
幕府上使小出尹貞、金沢城二ノ丸に到着、前田利次らを弔問する（上使）

一一月二一日
前田綱紀（綱利）、江戸城に登り、祖父利常の隠居領相続を命じられ、同月二八日に小松城支配を許可される（古今御定書、加藩国初遺文、江戸幕府日記）

閏一二月
鹿島郡十村、「江戸御普請役人付帳」を作成する（真館文書）

＊八月（※万治元年以前）
加賀藩重臣前田孝貞、金沢城九十間多門の瓦に詰める松脂の調達を指示する（天文年中以来之写）

## 万治二年（一六五九）

正月
幕府目付石川貴成（弥左衛門）・内藤正俊（新五郎）、金沢に下向し、金沢城新丸（前田利明邸・津田正忠邸）にて監国する（自他群書）

七月一一日
幕府目付石川貴成（弥左衛門）・内藤正俊（新五郎）、金沢を発ち江戸へ下向する（幕府御目付巡見接待等に付書上げ、自他群書）

八月一二日
由比勘兵衛、金沢城二ノ丸「御新宅」に植える松の木の伐採に関して指示する（改作所旧記）

一一月二五日
加賀藩重臣前田孝貞ら、藩士の屋敷拝領の規定を定める（古今御定書）

## 万治三年（一六六〇）

正月一四日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の表門・長屋、類火に罹る（自他群書、菅綱記、菅君雑録）

四月一五日
幕府目付能勢頼宗（次左衛門）・渡辺正（筑後守）、金沢に下向する（自他群書）

五月二三日
加賀藩、戸室石切丁場の再稼働にともない、石釣人足数等についての規則を定める（文禄年中以来等之旧記）

五月
金沢城の石川門等が補修される（書付之跡書）

六月一日
加賀藩重臣前田孝貞ら、家中普請役賦課・役引の規定を定める（古今御定書）

六月～一〇月
堂形新馬場が造営される（自他群書、菅綱記、越登賀三州志）

一〇月一三日
幕府目付能勢頼宗（次左衛門）・渡辺正（筑後守）、金沢を発ち江戸へ下向する（自他群書）

この年
前田綱紀（綱利）の帰国に備え、金沢城二ノ丸「御新宅」の作事が進められる（御横目書付留帳）

## 寛文元年（万治四年。一六六一）

正月一〇日
加賀藩、金沢城下に初めて火消役を設置する（自他群書、菅綱記）

五月一五日
前田綱紀（綱利）、改作奉行を再び任命する（三百二条旧記）

六月二九日
前田綱紀（綱利）、初めて帰国を許可され、七月一日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで同月八日、江戸を発し、同月一九日、金沢城に到着する（菅綱記、菅君雑録、柳営日次記、集珠、自他群書）

七月
加賀藩、金沢城河北・石川・橋爪門内における諸士の供連れの人数を定める（古今御定書）

閏八月一八日
前田綱紀（綱利）の入国を祝い、この日から翌日にかけて金沢城にて能が行われる（自他群書、菅綱記）

九月一八日
前田綱紀（綱利）、小松城に赴き、同月二〇日、金沢城に戻る（自他群書、菅綱記）

一〇月八日
前田綱紀（綱利）、金沢を発し、同月二五日、江戸に到着、同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（柳営日次記、松雲公日記、集珠、自他群書）

一〇月一六日
これ以前、金沢城新丸の津田正忠旧屋敷が修繕される（寛文元年二年日帳）

一〇月
金沢城玉泉院丸の厩造営に着手する。同月二一

日、普請奉行に戸室石を切り出すよう要請する。翌年四月、完成する（寛文元年二年日帳、菅君雑録、越登賀三州志、政隣記）

## 寛文二年（一六六二）

二月一五日
金沢城二ノ丸唐門造営のため、越中国から栃材の搬送を命じる（改作所旧記）

四月一日
算用場奉行、戸室石の石釣人足の賃金を一人銀九分と定める（改作所旧記）

五月一日
金沢城の石垣、地震によって破損する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳、国事雑抄）

六月二九日
さきの地震によって破損した金沢城本丸南面石垣（辰巳櫓～シノギ）・本丸南面石垣（申酉櫓下）・本丸附段・二ノ丸との間・三ノ丸・南門脇の各所の石垣、および小松城の石垣修理普請の申請が老中酒井忠清らから許可される（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳、後藤家文書）

八月
金沢城石垣が戸室石によって修築される。この月一三日、小幡長次（城造営惣奉行）、石引道の整備を急ぎ、算用場奉行・普請奉行に道幅拡幅のための現地視察を求める（改作所旧記、自他群書）

九月二六日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。次いで一〇月二日、江戸を発し、同月一三日、金沢城に到着する（柳営日次記、集珠、自他群書）

一一月八日
前田綱紀（綱利）、越中での放鷹のため金沢城を出発し、同月二四日、金沢城に戻る（自他群書）

## 寛文三年（一六六三）

二月一三日
前田綱紀（綱利）、小松に赴き、同月一七日金沢城に戻る（自他群書）

二月二五日
前田綱紀（綱利）、金沢城石川・河北両門及び橋爪門を通行できる供連れの数等を定める。また同日、城内の宿直に関する規定も定める（万治以前御定書）

四月二五日
前田綱紀（綱利）、金沢を出発し、日光社参のの ち、五月一二日、江戸に到着する。次いで同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（柳営日次記、集珠、自他群書）

この年
二十人石切の休日・欠勤返上銀等について定める（文禄年中以来等之旧記）

この年
穴生方後藤氏、金沢城の松原屋敷や石垣を修理するという（後藤家文書、菅綱記、菅君雑録）

## 寛文四年（一六六四）

四月五日
徳川家綱、前田綱紀（綱利）に加賀・能登・越中、および近江の内で一〇二万五千石余の領知判物を与える（寛文印知）（御判物并領知目録）

四月一一日
戸室石の石釣人足につき、「御定夫付」の追加令が出される（文禄年中以来等之旧記）

四月二九日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで五月一一日、江戸を発し、

東海道を経て同月二六日、金沢城に到着する（寛永間古文書写、本多氏古文書等、柳営日次記、万覚、集珠、自他群書）

五月二八日

加賀藩重臣横山正房（志摩）、小幡長次に対し、金沢城本丸の規模を示す指図の提出を求める（万覚）

閏五月一九日

加賀藩重臣横山正房（志摩）、小幡長次に対し、前田利常・光高時代の「御本丸御屋形」指図の提出を求める（万覚）

六月二一日

前田綱紀（綱利）、越中での放鷹のため金沢城を出発し、七月一三日、金沢城に戻る（万覚、自他群書）

八月一一日

越中井波より金沢に移された大工肝煎に屋敷地を与える（加藩国初遺文）

一〇月二五日

前田綱紀（綱利）、降雪の時期となるため、戸室山から石釣人足を引き上げさせる（万覚）

一一月一日

前田綱紀（綱利）、越中での放鷹のため金沢城を出発して今石動に入り、一二月二六日まで高岡に滞在、同月二七日、金沢城に戻る（自他群書）

この年

穴生方後藤氏、金沢城辰巳櫓下の「崩丁場」（鯉喉櫓台）の石垣を修理するという（後藤家文書）

## 寛文五年（一六六五）

正月

加賀藩、金沢城内における諸士の供連れの人数を定める（万覚）

二月二九日
鋳直された金沢城三ノ丸の早鐘が、本丸に懸けられる（諸事覚書）

三月二五日
前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月七日、江戸に到着、同月一〇日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（諸事跡書、柳営日次記、集珠、自他群書）

四月二日
金沢城土橋門左右の石垣普請を開始し、八月一七日に完了する。穴生方後藤氏、この修繕を担当するという（後藤家文書、自他群書）

七月二九日
伊予西条藩主一柳直興（監物）、改易のうえ前田綱紀（綱利）に預けられる（柳営日次記、一柳殿御預之記、自他群書）

## 寛文六年（一六六六）

四月二四日
前田綱紀（綱利）の正室摩須（会津藩主保科正之の娘）、江戸にて没する（柳営日次記、自他群書）

五月一三日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで同月二二日、江戸を発し、六月四日、金沢城に到着する（柳営日次記、集珠、自他群書）

五月
金沢城二ノ丸北面の石垣、崩落する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

九月一四日
戸室石の石釣人足につき、「御定夫付」の追加令が出される（文禄年中以来等之旧記）

この年
穴生方後藤氏、金沢城薪丸の石垣を修理するという（後藤家文書）

## 寛文七年（一六六七）

三月二一日
前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月一日、江戸に到着、同月八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（湯浅家伝書、柳営日次記、集珠、自他群書）

五月一一日
前田綱紀（綱利）、前年五月に崩落した金沢城の石垣修理普請を申請し、同月二八日に許可される（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

八月一九日
前田綱紀（綱利）、長元連に蟄居、浦野孫右衛門ら長家家臣に切腹を命じる（浦野事件）（長家文書、自他群書）

## 寛文八年（一六六八）

正月二三日
金沢城石垣普請にあたり、戸室山奉行三名・石垣築前奉行四名の任命を郡方に伝達する（改作所旧記）

四月七日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで同月二六日、江戸を発し、五月七日、金沢城に到着する（柳営日次記、集珠、自他群書）

八月一〇日
白山麓の一八ヶ村、幕府直轄領となる（白山争論）（柳営日次記）

この年

穴生方後藤氏、金沢城二ノ丸北面能舞台下の石垣（北面石垣）を修理するという（後藤家文書）

## 寛文九年（一六六九）

三月一二日

前田綱紀（綱利）、今枝近義（民部）に親政の意を告げる（前田育徳会所蔵文書〔前田綱紀書状〕）

三月二五日

前田綱紀（綱利）、新たに若年寄を設置・任命する（菅綱記、菅君雑録）

四月二日

前田綱紀（綱利）、金沢を発し、同月一二日、江戸に到着、同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（公儀御用留書、柳営日次記、集珠、自他群書）

六月

金沢城石垣修理に用いる戸室石を、中山村領内に集積する（改作所旧記、穴太政洋氏所蔵文書）

## 寛文一〇年（一六七〇）

四月一八日

前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで五月四日、江戸を発し、同月一五日、金沢城に到着する（柳営日次記、自他群書、菅綱記）

五月一日

加賀藩割場、戸室山の「二十人石切」の配置を普請奉行に伝える（文禄年中以来等之旧記）

九月七日

前田綱紀（綱利）、村御印を更新する（改作方勤仕帳、加能越三箇国高物成帳）

一二月

金沢城三ノ丸東南の石垣、崩落する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

## 寛文一一年（一六七一）

正月

金沢城二ノ丸北西の石垣、崩落する（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

三月二五日

前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月七日、江戸に到着、同月一〇日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（柳営日次記、自他群書、菅綱記）

六月一一日

前田綱紀（綱利）、前年一二月およびこの年正月に崩落した金沢城の石垣修理普請を申請し、同月一九日に許可される（古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳）

## 寛文一二年（一六七二）

四月一二日

前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同月一三日、江戸城に登る。次いで五月二日、江戸を発し、同月一五日、金沢城に到着する（菊池文書、柳営日次記、自他群書、菅綱記）

八月二四日

前田綱紀（綱利）の所望により、鷹巣山・鶴来小原山の石に代えて、清瀬山の石を二ノ丸御用石と定める（改作所旧記）

この年

算用場、金沢城西丁口門の外に移転する（自他群書、文禄年中以来等之旧記）

この年

穴生方後藤氏、蓮池・水の手・鐘つき堂の下（甚右衛門坂）の石垣を修理するという（後藤家文書）

## 延宝元年（寛文一三年。一六七三）

三月二六日

前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月七日、江戸に到着、同月九日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（柳営日次記、自他群書、菅綱記）

＊この頃

中山村の石置場に四〇〇〇以上の石材が集められたため、安永年間まで戸室山での藩直営の石切作業が停止される（文禄年中以来等之旧記）

## 延宝二年（一六七四）

正月

前田綱紀（綱利）、恭姫（七日市藩主前田利意の娘）を養女とする。次いで綱紀（綱利）、重臣等に恭姫を金沢へ遣すべきことを告げ、四月二二日、恭姫、金沢に到着する（袖裏雑記、本藩歴譜）

四月七日

前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同月八日、江戸城に登る。次いで同月一五日、江戸を発し、同月二七日、金沢城に到着する（柳営日次記、自他群書、菅綱記）

## 延宝三年（一六七五）

三月二六日

前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月七日、江戸に到着、同月一二日、江戸城に登り、参勤の挨

挨拶をする（御代々御書等、柳営日次記、自他群書、菅綱記）

三月二七日
加賀藩、金沢城火災時、藩主子女の避難すべき場所を定める（袖裏雑記）

## 延宝四年（一六七六）

四月一五日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで五月一六日、江戸を発ち、同月二八日、金沢城に到着する（柳営日次記、自他群書、菅綱記）

九月
金沢城外の蓮池（元作事所の跡地）に「御座敷」を造営する（兼六園のはじまり）（自他群書、菅君雑録）

## 延宝五年（一六七七）

四月二日
前田綱紀（綱利）、金沢を発し、同月一三日、江戸に到着する。次いで同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（葛巻昌興日記、徳川実紀、自他群書、菅綱記）

四月
算用場、石川郡坪野石の採石について「縮方」を厳重にするよう下達される（改作所旧記）

## 延宝六年（一六七八）

四月二九日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。五月一日、江戸城に登る。次いで六月二八日、江戸を発ち、七月一一日、金沢城に到着する（御代々御書等、葛巻昌興日記、柳営日次記）

一二月二日
前田綱紀（綱利）、蓮池「御館」にて本多政長（安房守）らを饗応する（葛巻昌興日記）
一二月二一日
蓮池「高御屋舗」辺りの普請所から出火あり（葛巻昌興日記）

## 延宝七年（一六七九）

三月二六日
前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月九日、江戸に到着する。次いで同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御代々御書等、横山家古文書等、葛巻昌興日記、柳営日次記、菅綱記）
この年
加賀藩、小松城番を設置、任命する（小松御城番勤方帳）

## 延宝八年（一六八〇）

五月八日
徳川家綱、江戸城にて没する。前田綱紀（綱利）、江戸城に登る（御代々御書等、葛巻昌興日記）
閏八月二五日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで九月九日、江戸を発し、同月二二日、金沢城に到着する（御代々御書等、御在国覚書、葛巻昌興日記、柳営日次記、菅綱記、改作所旧記）
九月二二日
加賀藩重臣前田孝貞、金沢城近辺火災時における警鐘の規則を定める（国事雑抄）
九月二五日
加賀藩、年寄の勤務につき規則を定める（袖裏雑記）

一〇月一九日
前田綱紀（綱利）、金谷御殿・蓮池屋敷等を訪れる（葛巻昌興日記）

一一月四日
前田綱紀（綱利）、金谷屋敷および同地の文庫を訪れる（葛巻昌興日記）

一一月一四日
前田綱紀（綱利）、前田利明（大聖寺藩主）見舞いのため、金沢城を発し、小松を経て翌日、大聖寺城を訪れる。同月一六日に金沢城に帰着する（葛巻昌興日記、御在国覚書）

## 天和元年（延宝九年。一六八一）

三月二五日
前田綱紀（綱利）、金沢を発し、四月六日、江戸に到着する。次いで同月一一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（葛巻昌興日記、袖裏雑記、徳川実紀、自他群書、菅綱記）

## 天和二年（一六八二）

六月一八日
前田綱紀（綱利）、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで七月一三日、江戸を発ち、同月二五日、金沢城に到着する（御代々御書等、御在国覚書、葛巻昌興日記、徳川実紀、自他群書、菅綱記）

九月四日
前田綱紀（綱利）、恭姫とともに蓮池屋敷を訪れる（御在国覚書、葛巻昌興日記）

一二月二八日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸等）、江戸大火によりことごとく焼失する。次いで翌年正月五日、江戸藩邸火災の報、金沢に達する（御在国覚書、葛巻昌

興日記、自他群書、菅綱記、高卑雑談、菅君雑録）

## 天和三年（一六八三）

正月一五日

江戸駒込邸の長屋より出火、長屋少々焼失するという（御在国覚書、葛巻昌興日記）

三月二一日

前田綱紀（綱利）、江戸本郷邸を上屋敷、駒込邸を中屋敷、平尾邸を下屋敷と改める（国事雑抄、自他群書、菅綱記、袖裏雑記、前田家雑録）

四月二日

前田綱紀（綱利）、金沢を出発し、同月一三日、江戸に到着する。次いで同月二二日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御判物并御書等写、湯浅家伝書、御在国覚書、葛巻昌興日記、徳川実紀、自他群書、菅綱記）

## 貞享元年（天和四年。一六八四）

正月一日

前田綱紀、諱を綱利から綱紀に改める（葛巻昌興日記、参議公年表、前田家雑録）

四月七日

前田綱紀、江戸城に登り、帰国を許可される。次いで同月二六日、江戸を出発し、五月九日、金沢に到着する（御代々御書等、葛巻昌興日記、自他群書、菅綱記）

六月二七日

前田綱紀、金谷御殿に文庫の新造を命じる（葛巻昌興日記）

一一月二一日

徳川綱吉、前田綱紀ら諸大名に領知判物を発給する。一二月一〇日、この判物が金沢城に到着する（御判物并領知目録、菅綱記、葛巻昌興日記、徳川

実紀）

## 貞享二年（一六八五）

三月一日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸。上屋敷）の再建にあたり、普請奉行等を任命する。以後、作事が翌年九月まで行われる（前田貞親手記、参議公年表、菅君雑録）

三月二六日

前田綱紀、金沢を出発し、四月六日、江戸に到着する。次いで同月九日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御判物并御書等写、葛巻昌興日記、菅綱記、参議公年表）

四月二五日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の作事が開始される（聞書、参議公年表）

五月九日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の仮屋を大門の傍に移築する。次いで同月一五日、前田綱紀、江戸本郷邸の仮屋に入る（葛巻昌興日記、参議公年表、菅君雑録）

一一月二八日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）にて御殿の柱建が行われる。次いで一二月一九日に棟上が行われる（参議公年表、菅君雑録）

## 貞享三年（一六八六）

四月一二日

前田綱紀、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで五月四日、江戸を発し、同月一五日に金沢城に到着する（藩侯御書写、御代々御書等、参議公年表、葛巻昌興日記、丙寅旅中雑記、徳川実紀）

六月五日
前田綱紀、蓮池上の御亭の馬場に「あつち」（垜）の設置を命じる（葛巻昌興日記）

七月二六日
前田綱紀、金沢城二ノ丸「白書院」・「御奥方之内」の作事を命じる（葛巻昌興日記）

八月一五日
前田綱紀、本多政長らを蓮池上の御亭に招き、料理等を振る舞う（葛巻昌興日記、雑録備考抄附録、参議公年表、菅君雑録）

八月二五日
これより先、前田綱紀の意向にかなわず建て直しになった金沢城二ノ丸御居間前の能舞台がこの日、ほぼ完成する（葛巻昌興日記）

八月二五日
前田綱紀、前田了心（元小松城代）を蓮池上の御亭にて饗応する（葛巻昌興日記）

八月二七日
前田綱紀、芳春院住持を蓮池上の御亭にて饗応する（葛巻昌興日記、菅君雑録）

九月一五日
前田綱紀、前田直作・長尚連を蓮池上の御亭に招き、料理等を振る舞う（葛巻昌興日記、菅君雑録）

九月一五日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の作事が完了する（菅君雑録）

九月二五日
前田綱紀、金沢城二ノ丸「御新宅」に移徙する（葛巻昌興日記）

一一月一三日
前田綱紀、職制改革を行い、大老・人持組頭・家老・若年寄を任命する（前田貞親手記、葛巻昌興日記、松雲院様御近習向留帳抜粋、菅綱記、菅君雑録）

一一月一七日
金沢城内七十間長屋続石垣が一部崩落する（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一一月二〇日
前田綱紀、金沢城廻りの石垣・堀際の石や土、玉泉院丸の辺りの柵に関し、「心得がたき」意向を示す（前田貞親手記）

一一月二五日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一二月二日
前田綱紀、金沢城「新御舞台」にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一二月六日
前田綱紀、金沢城「新御舞台」にて能を行う。次いで綱紀、これ以降、能を行わないため、「新御舞台」に雪垣等を行うよう指示する（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

## 貞享四年（一六八七）

二月一日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

二月九日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

三月二六日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

四月一日
前田綱紀、金沢を発し、同月一〇日、江戸に到着する。次いで同月一四日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、葛巻昌興日記、菅綱記、

参議公年表）

四月一二日

前田綱紀、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の「御新殿」を巡見する（前田貞親手記）

六月一七日

前田綱紀、金谷屋敷における豊姫（綱紀の娘）居所の絵図を確認し、できるだけ「軽少ク」作事を行うよう指示する（前田貞親手記）

九月一三日

前田綱紀、落成した加賀藩江戸藩邸（本郷邸）に移る（前田貞親手記、葛巻昌興日記、菅綱記）

## 元禄元年（貞享五年。一六八八）

三月七日

前田綱紀、「蓮池之上御座敷」の畳、および金谷屋敷の修繕延引を指示する（前田貞親手記）

四月二日

豊姫（前田綱紀の娘）、前田孝貞邸から金谷屋敷に移る（松雲院他書簡写、前田貞親手記、参議公年表、菅君雑録）

四月二八日

前田綱紀、帰国を許可される。翌日、江戸城に登る。次いで六月四日、江戸を発し、同月一五日に金沢城に到着する（前田貞親手記、葛巻昌興日記、徳川実紀、菅綱記）

六月一五日

前田綱紀、金沢城玉泉院丸の番所を取り壊し、細工所の設置を命じる（前田貞親手記、葛巻昌興日記、参議公年表）

六月二四日

千宗室に命じ、金沢城玉泉院丸に庭園を築造させる。九月二六日に完成する（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

七月三日
金沢城内の時鐘を東照宮付近から越後屋敷付近に移す（前田貞親手記、葛巻昌興日記、参議公年表）

九月一〇日
金谷屋敷に、七間の廐を設ける。翌日、金沢城玉泉院丸の十間の厩を壊す（葛巻昌興日記）

九月二一日
金沢城玉泉院丸の御亭が完成する（葛巻昌興日記、菅君雑録）

九月二四日
金沢城「御舞台」「御風呂屋」および玉泉院丸の普請に携わった千宗室らに白銀等が与えられる（前田貞親手記、参議公年表）

一〇月四日
前田綱紀、金沢城玉泉院丸の「新御亭」を初めて訪れ、次いで蓮池御亭にも赴く（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一〇月九日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一〇月二七日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一一月六日
前田綱紀、豊姫（綱紀の娘）の本復を祝い、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一一月二四日
前田綱紀、金沢城玉泉院丸の堀の潰れた箇所につき、来春の修復を指示する（前田貞親手記）

## 元禄二年（一六八九）

閏正月一五日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛

巻昌興日記）

三月二九日

前田綱紀、金沢を発し、四月九日、江戸に到着する。次いで同月一二日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御代々御書等、御判物并御書等写、前田貞親手記、葛巻昌興日記、徳川実紀、菅綱記）

五月一三日

普請奉行・作事奉行・横目ら、金沢城土橋番所続石垣の崩壊箇所を見分する（参議公年表）

七月一六日

前田綱紀、江戸駒込邸（中屋敷）の庭園を訪れる（葛巻昌興日記）

八月九日

幕府、前田綱紀の席次を御三家の次と定める（政隣記、葛巻昌興日記、徳川実紀、参議公年表、菅君雑録）

## 元禄三年（一六九〇）

三月一六日

金沢城下に大火あり、翌日にかけて竪町・新竪町などから出火。堂形の塀・土蔵、金沢城本丸高石垣の塀などに類焼あり（葛巻昌興日記、菅綱記、参議公年表、聞書）

四月二九日

前田綱紀、帰国を許可され、五月一日、江戸城に登る。次いで五月二二日、江戸を発ち、六月六日、金沢城に到着する（御代々御書等、前田貞親手記、葛巻昌興日記、徳川実紀、菅綱記）

八月八日

前田吉徳（綱紀の四男。勝次郎）、江戸で生まれる（菅綱記、護国公年譜、参議公年表）

九月二九日

村井親長（出雲）、人持組頭に加えられる（前田

貞親手記、葛巻昌興日記、参議公年表）

一〇月六日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記、参議公年表）

一〇月二六日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

一〇月二九日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（葛巻昌興日記）

一一月一三日
前田綱紀、この日および翌日、金沢城にて能を行う（葛巻昌興日記）

一一月二一日
金沢城東ノ丸獅子土蔵の金銀紛失する（参議公年表、聞書）

## 元禄四年（一六九一）

二月九日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

二月一三日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（葛巻昌興日記）

三月一九日
前田綱紀、宝円寺・如来寺の住持らを招き、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記、参議公年表）

三月二一日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛巻昌興日記）

三月二六日
前田綱紀、金沢城にて能を行う（前田貞親手記、葛

巻昌興日記）

三月二九日

前田綱紀、金沢を発し、四月一〇日、江戸に到着する。次いで同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御代々御書等、御親翰写、前田貞親手記、葛巻昌興日記、徳川実紀）

六月四日

金沢に大雷雨あり、奥村時成（伊予）屋敷の石垣が崩落する（参議公年表）

一二月二六日

幕府、前田綱紀の家臣二人の叙爵を認め、本多政長の従五位下安房守、前田孝貞の従五位下駿河守叙任が命じられる（前田家雑録、御代々御書等、葛巻昌興日記、徳川実紀、参議公年表）

## 元禄五年（一六九二）

正月一〇日

馬廻頭半田景徳、金沢城番所の番人の職務につき定める（参議公年表）

八月二二日

幕府、加賀藩に飛騨国高山の在番を命じ、一〇月三日、加賀藩兵、高山城を請け取る（～元禄八年まで）（葛巻昌興日記、徳川実紀、改作所旧記、参議公年表）

九月四日

前田綱紀、帰国を許可され、江戸城に登る。次いで同月二七日、江戸を発ち、一〇月九日、金沢城に到着する（御代々御書等、前田貞親手記、葛巻昌興日記、徳川実紀、菅綱記）

一二月

金沢城蓮池道通りの石垣、修復完了する（奥村尚

寛御城方覚書）

## 元禄六年（一六九三）

七月九日

前田綱紀、金沢を発し、同月二一日、江戸に到着する。次いで同月二七日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御代々御書等、前田貞親手記、徳川実紀、菅綱記）

一二月一日

前田綱紀、参議に昇任する（前田育徳会所蔵文書〔口宣案〕、徳川実紀、菅綱記、参議公年表）

## 元禄七年（一六九四）

四月三〇日

前田綱紀、家臣出口弥市左衛門に命じて下屋敷に苺（覆盆子）を植えさせる（元禄雑記）

六月一五日

金沢城二ノ丸御殿の普請・作事が九月五日まで行われる（菅君雑録）

六月三〇日

前田綱紀、帰国を許可され、七月一日、江戸城に登る。次いで八月一三日、江戸を発ち、同月二五日、金沢城に到着する（松雲公御書翰写、御代々御書等、前田貞親手記、菅綱記）

## 元禄八年（一六九五）

七月六日

前田綱紀、金沢を発し、同月一八日、江戸に到着する。次いで同月二五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、前田貞親手記、元禄雑記、徳川実紀、菅綱記）

一二月一八日
幕府、前田綱紀の家臣一人の叙爵を認め、長尚連（九郎左衛門）の従五位下大隅守叙任が命じられる（徳川実紀、菅君雑録）

## 元禄九年（一六九六）

三月
金沢城二ノ丸御殿の増改築にあたり、造営費用を調査する（元禄雑記）

六月一五日
金沢城二ノ丸御殿の普請が始められるという（菅君雑録）

六月三〇日
前田綱紀、帰国を許可され、七月一日、江戸城に登る。次いで同月二九日、江戸を発ち、八月一一日、金沢城に到着する。ただし、二ノ丸作事中につき綱紀は「蓮池之上御殿」に入る（御親翰写、前田貞親手記、御親翰類、菅綱記、聞書）

八月一〇日
前田綱紀らの金沢城到着まで、藩士に石川門の通行を禁じ、河北門からの往来等を指示する（菅君雑録）

八月二八日
金沢城二ノ丸の柱立を行う。次いで九月二六日、二ノ丸の棟上を行う（元禄雑記、菅君雑録、政隣記）

## 元禄一〇年（一六九七）

四月一日
金沢城付近の火災時における対応につき定める（加藩十二冊定書）

五月二日
前田綱紀、蓮池「御殿」を訪れる（前田貞親手記、聞書、菅君雑録）

五月一三日
前田綱紀、蓮池「御殿」を訪れる（前田貞親手記）

六月六日
金沢城二ノ丸御殿が竣工する。同月二六日にはこれを祝い、金沢城にて能が行われる（前田貞親手記、聞書、政隣記）

七月一三日
前田綱紀、金沢を発し、同月二五日、江戸に到着する。次いで同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、前田貞親手記、徳川実紀、菅綱記）

## 元禄一一年（一六九八）

六月二九日
前田綱紀、帰国を許可され、七月一日、江戸城に登る。次いで八月一九日、江戸を発ち、同月三〇日、金沢城に到着する（御親翰写、前田貞親手記、菅綱記）

## 元禄一二年（一六九九）

三月七日
堂形御厩の横目足軽詰所の桶（消炭入り）から煙が出る。翌日この件につき吟味あり（菅君雑録）

七月一六日
前田綱紀、金沢を発し、同月二六日、江戸に到着する。次いで八月一三日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

一二月二三日
金沢茶臼山が崩落、浅野川や人家を埋める。翌年二月二日にも再び崩落あり（前田貞親手記、御用所日記抄、聞書、菅君雑録）

## 元禄一三年（一七〇〇）

五月一八日
金谷御殿広式の作事が行われ、前田綱紀の子女が二ノ丸広式へ移るという（菅君雑録）

六月三〇日
前田綱紀、帰国を許可され、七月一日、江戸城に登る。次いで九月四日、江戸を発ち、同月一五日、金沢城に到着する（藩侯御書写、前田貞親手記、前田貞親手記、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

## 元禄一四年（一七〇一）

三月一六日
節姫（前田綱紀の娘。広島藩主浅野吉長の正室源光院）の出産を祝い、金沢城にて能が行われる（前田貞親手記、菅綱記、菅君雑録）

七月九日
年寄村井親長（出雲）、金沢城代となる（選仏院様御代、菅綱記、菅君雑録）

七月一〇日
前田綱紀、金沢を発し、同月二一日、江戸に到着する。次いで八月一八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、前田貞親手記、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

八月一五日
大雨のため、金沢城下の奥村有輝上屋敷付近にある修理谷坂の土居が崩れる（菅君雑録）

八月一八日
風雨のため金沢城石川門の外柵門にある足軽番所の後土居が崩れ、出口弥市左衛門宅の勝手の方・土蔵が潰される（前田貞親手記、菅君雑録）

九月五日
前田綱紀、領内の古城等について諮問をする（前田貞親手記）

九月一五日
前田綱紀、加賀・越中・能登の国絵図を幕府へ提出する（前田貞親手記、政隣記）

一〇月一二日
大雨により金沢の修理谷坂が崩れたため、宮井武兵衛（横目）や本多政長（月番年寄）がこれを巡見する（菅君雑録、政隣記）

一一月二〇日
前田綱紀、領内の古城・端城等について諮問する（前田貞親手記）

一二月二二日
前田綱紀、江戸城に登り、来年の将軍御成の上意を受ける（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

## 元禄一五年（一七〇二）

正月五日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）における御成御殿の作事を幕臣間宮信明（小普請奉行）に依頼する。次いで同月六日、惣奉行前田孝行等を任命する（菅綱記）

二月四日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）において、御成御殿の手斧初めが行われる。次いで同月二一日に柱立、同月二九日に棟上げが行われる（御用所日記抄、菅君雑録）

二月一四日
前田吉徳（勝次郎）、名を勝丸と改める。さらに同月一五日に松平犬千代丸、同月二一日に又左衛門利興と改め、同月二八日、前田綱紀とともに江戸城に登り、初めて徳川綱吉に拝謁する（前田貞親手記、御用所日記抄、徳川実紀、護国公年譜）

四月二五日
幕府、前田綱紀の家臣四人の叙爵を認め、新たに前田直堅（主税）の従五位下近江守、横山任風（左衛門）の従五位下山城守叙任が命じられる（藩侯御書写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

四月二六日
徳川綱吉、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）を訪問する（御用所日記抄、徳川実紀、松雲公夜話、菅綱記）

六月九日
前田吉徳（利興）、江戸城において元服し、吉治と名乗る。同日、正四位下左近衛権少将に叙任される（藩侯御書写、前田家雑録、前田貞親手記、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、護国公年譜）

七月一〇日
前田綱紀、帰国を許可される。翌日、江戸城に登る。次いで閏八月九日、金沢城に到着する（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

## 元禄一六年（一七〇三）

七月一一日
前田貞親（備前）、小松城代を命じられる（菅綱記、菅君雑録）

七月一四日
前田綱紀、金沢を発し、同月二五日、江戸に到着する。次いで同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（藩侯御書写、徳川実紀、菅綱記）

七月二五日
金沢城河北門の外の石垣、「少々破損」のため城代村井親長（出雲）が見分する（菅君雑録）

一一月二二日
江戸にて大地震あり。加賀藩の本郷・巣鴨・深川・平尾の四藩邸いずれも被害あり。金沢でも地震ありという（菅綱記、菅君雑録）

一一月二九日
江戸小石川の水戸徳川邸より出火、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）も類焼、御成御殿も焼失する（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、菅君雑録、老翁雑記）

一二月二一日
幕府、前田綱紀の家臣一人の叙爵を認め、前田孝行の従五位下美作守叙任が命じられる（徳川実紀、菅君雑録）

## 宝永元年（元禄一七年。一七〇四）

二月二一日
金沢城九十間長屋石垣の際の土手が崩れたため、城代村井親長（出雲）や作事奉行・普請奉行・横目役等が見分する（菅君雑録）

四月二〇日
金沢城内掃除小屋に賊が入ったため、城代村井親長（出雲）らが見分する（菅君雑録）

六月二八日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の仮屋等が完成し、町方の借家から家臣らが移住する（聞書）

六月三〇日
前田綱紀、帰国を許可され、七月一一日、江戸城に登る。次いで同月二五日、江戸を発ち、八月九日、金沢城に到着する（藩侯御書写、御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

七月八日
前年一一月二九日に焼失した作事中の加賀藩江戸藩邸（本郷邸）を「御殿」と称することとする（菅君雑録）

七月二八日
江戸に大風雨あり、加賀藩邸（本郷邸・駒込邸）が破損する（菅君雑録）

八月六日
金沢城代村井親長（出雲）、金沢城二ノ丸御殿を見分する（菅君雑録）

八月二七日
前田綱紀、前田利直（大聖寺藩主）を金沢城奥書院にて饗応する（菅綱記、菅君雑録）

## 宝永二年（一七〇五）

正月四日
前田綱紀、本多政長・前田孝貞両人が乗輿のまま城内の一部へ入ることの規定を定める（袖裏雑記、聞書）

三月一六日
前田利直（大聖寺藩主）、江戸への参勤途中に金沢に止宿、金沢城に登城して前田綱紀に対面する（菅綱記、菅君雑録）

閏四月
高岡瑞龍寺の修理のため若松村山の丁場で戸室青石を採石した石屋三右衛門と、戸室山周辺を管理する若松村の村人との間に紛議が起こる（改作所旧記）

七月四日
前田綱紀、金沢を発し、同月一三日、江戸に到

着する。次いで八月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

一〇月一七日
金沢城内の会所土蔵に賊が侵入し、銀一〇貫目を盗む（菅綱記）

一〇月二三日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の厩、完成するという（菅君雑録）

## 宝永三年（一七〇六）

六月二九日
前田綱紀、帰国を許可される。七月一日、江戸城に登る。次いで八月四日、江戸を発ち、八月一五日、金沢城に到着する（藩侯御書写、徳川実紀、菅綱記）

八月一六日
前日に大風あり。城代村井親長（出雲）、金沢城内を巡見し、所々の破損を確認するという（菅君雑録）

一〇月二日
前田綱紀、金沢城内「大御色代」外より向かい側左右の石垣の間尺を計測させる（御横目方抜書之内覚）

## 宝永四年（一七〇七）

二月一日
前田綱紀、金沢城内「大御色代」脇の開戸が開閉しないとして、以後立て置かせるよう指示する（御横目方抜書之内覚）

四月一六日
前田利章（のち大聖寺藩主。綱紀の五男）、金沢城

から小立野の新宅へ移る（菅綱記、菅君雑録）

四月二六日

豊姫（前田綱紀の娘）、前田孝資に嫁ぐ。これを祝い、翌月一四日、金沢城にて能が行われる（菅綱記、菅君雑録）

七月一三日

前田綱紀、金沢を発し、同月二五日、江戸に到着する。次いで同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

八月一九日

前田孝貞（小松城代・金沢城代）、没する（菅綱記、菅君雑録）

一〇月一日

前田利章（のち大聖寺藩主）と、敬姫（綱紀の娘、後の鳥取藩主池田吉泰の正室）が、金沢を発し、同月二一日に江戸に到着する（菅綱記、菅君雑録）

一〇月四日

京・大坂及び諸国に地震が発生し、江戸へ向かっていた前田利章（のち大聖寺藩主）ら、越中境にしばらく逗留する（菅君雑録）

一二月二八日

前田綱紀、従三位に昇進する（前田育徳会所蔵文書〔口宣案〕、御用所日記抄、徳川実紀）

## 宝永五年（一七〇八）

三月二九日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の作事が完成し、前田綱紀が移徙する（菅君雑録、政隣記）

四月九日

徳川綱吉、前田吉徳（吉治）と松姫（尾張藩主徳川綱誠の娘。綱吉の養女）との縁組を命じる。同月一五日、来る一一月の輿入れが決まる（御用所

日記抄、徳川実紀、護国公年譜）

七月一九日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の御守殿築造が開始される（御用所日記抄、護国公年譜、政隣記）

一一月一五日
前田吉徳（吉治）、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）に移る（御用所日記抄、菅綱記、護国公年譜）

一一月一八日
松姫（徳川綱吉の養女）、前田吉徳（吉治）に輿入れし、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の御守殿に入る（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、護国公年譜）

一二月一八日
幕府、前田利章（のち大聖寺藩主。綱紀の五男）の従五位下備後守、村井親長（出雲。金沢城代）の従五位下豊後守への叙任を命じる（御用所日記抄、選仏院様御代、徳川実紀、菅綱記）

## 宝永六年（一七〇八）

正月九日
徳川綱吉、江戸城にて没する。同月一〇日に前田吉徳（吉治）、同月一一日に前田綱紀・吉徳（吉治）、江戸城に登る（御用所日記抄、菅君雑録）

七月九日
土清水の塩硝蔵から出火する（菅綱記、菅君雑録、前田家雑録）

七月一一日
前田綱紀・利章（のち大聖寺藩主）、帰国を許可される。同月一二日、江戸城に登る。次いで八月二一日、江戸を発し、九月四日に金沢城に到着する（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、菅君雑録）

九月
徳川家宣の将軍宣下・松姫の入輿・豊姫（前田

綱紀の娘）の婚礼を祝い、九月一九日・二一日・二五日・二六日・二八日に金沢城にて能が行われる（菅綱記、政隣記）

## 宝永七年（一七〇九）

二月一五日

前田利直（大聖寺藩主）の使者家老神谷外記が金沢城へ登城し、家老村井主殿の罪状を前田綱紀に告げる（菅綱記、参議公年表）

六月二一日

幕府の巡見使島田守恒（藤十郎）・高井端清（作左衛門）・筧為勝（助兵衛）が金沢へ入る（菅綱記、参議公年表、菅君雑録）

八月二五日

前田綱紀、金沢を発し、閏八月七日、江戸に到着する。次いで同月一一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、菅君雑録）

一〇月四日

江戸藩邸「中ノ口御門向御厩」の普請が始まる（参議公年表、菅君雑録）

一〇月二一日

金沢城東ノ丸土蔵番渡辺安右衛門（割場足軽）、同土蔵際において自害する（参議公年表、菅君雑録）

## 正徳元年（宝永八年。一七一〇）

七月二五日

前田綱紀、帰国を許可される。同月二六日に江戸城に登る。次いで九月七日に江戸を発し、同月一九日に金沢城に到着する（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、菅君雑録）

一一月二日
金沢城七十間長屋門から金谷門まで在郷の馬が駆け込む（参議公年表、菅君雑録）
一二月二七日
幕府、前田綱紀の家臣一人の叙爵を認め、同日、奥村有輝に従五位下伊予守叙任が命じられる（徳川実紀、菅綱記、参議公年表）

## 正徳二年（一七一一）

四月一一日
徳川家宣、前田綱紀ら諸大名に領知判物を発給する（同月一九日、江戸城にて交付）。五月一日、この判物が金沢城に到着する（御判物并領知目録、徳川実紀、参議公年表、菅君雑録）
四月一五日
津田弥市右衛門（鳥取藩主池田吉泰の正室附物頭）、金沢城登城中に蓮池御堀の内に馬ごと落ちる（参議公年表、菅君雑録）
四月二四日
金沢城内権現堂の土蔵に侵入した賊（富山の者）を加藤五太夫が召し捕り禁牢にする（参議公年表）
六月二四日
前田綱紀の息女が表向に出遊するため、金沢城の警備を厳しくさせる（参議公年表）
七月一三日
直姫（前田綱紀の娘。栄君・泰真院）、権大納言二条吉忠へ輿入れのため、金沢城を出発する。次いで同月二六日、二条家へ輿入れする（菅綱記、護国公年譜）
七月一五日
前田綱紀、参勤発足に先立ち、前田孝行（美作守）を留守中の金沢城代に任命する。綱紀出発後、前田孝行ら、金沢城内を巡見する（参議公年

表）

七月一五日

前田綱紀、金沢城を発し、同月二六日に江戸に到着する。次いで同月三〇日、江戸城に登り参勤の挨拶をする（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

一〇月一四日

徳川家宣、江戸城にて没する。前田綱紀・吉徳（吉治）、江戸城に登る（御用所日記抄、参議公年表）

一〇月

大聖寺藩領に一揆あり。金沢から原九左衛門（馬廻頭）・長屋八郎右衛門（足軽頭）が派遣される（参議公年表）

## 正徳三年（一七一二）

七月一一日

前田綱紀、江戸城にて帰国を許可される。次いで八月一一日、駒込邸を発し、本郷邸御守殿を経て金沢に向かい、同月二二日、金沢城に到着する（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

九月四日

前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、参勤のため大聖寺を発ち、金沢城に立ち寄る（菅綱記、参議公年表）

九月五日

佐分舎人・生駒源五兵衛（大聖寺藩家老）を金沢城越後屋敷に召し、同月九日、誓紙を提出させる（菅綱記、参議公年表）

## 正徳四年（一七一三）

正月二八日

前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、金沢城に立ち寄る（参議公年表）

二月二一日
徳川家継の将軍宣下を祝い、金沢城にて能が行われる（参議公年表）

二月二九日
前田利長の一〇〇回忌法会が終り、金沢城にて能が行われる（参議公年表）

三月一日
金沢城橋爪門の番所後ろの「御厩粥焼所」に出火あり（菅綱記、参議公年表）

七月一八日
前田綱紀、金沢を発し、同月二九日、江戸に到着する。次いで八月一一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

## 正徳五年（一七一五）

七月二七日
加賀藩重臣前田孝行（美作守）・奥村有輝（伊予守）、金沢城中を巡見する（参議公年表）

七月二八日
前田綱紀、帰国を許可される。同日、江戸城に登る。次いで九月四日、江戸を発し、同月一五日、金沢城に到着する（御親翰写、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、参議公年表）

八月四日
加賀藩重臣前田孝行（美作守）、金沢城内の足軽番人が夜中に病気等の場合の規定を三ノ丸の番人に下す（加藩十二冊定書）

九月一九日
前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、帰国の途上、金沢城に立ち寄る（菅綱記、参議公年表）

一一月二六日
前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、金沢城に立ち寄る（参議公年表）

一二月一八日
幕府、前田綱紀の家臣一人の叙爵を認め、本多政質（安房守）に従五位下周防守叙任が命じられる（徳川実紀、菅綱記、参議公年表）

## 享保元年（正徳六年。一七一六）

四月三〇日
徳川家継、江戸城にて没する。五月一日、前田吉徳（吉治）、江戸城に登り、家継死去を伝えられる（参議公年表）

七月一八日
前田綱紀、金沢を発し、同月二八日、江戸に到着する。次いで八月九日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（中川長定覚書、大野木日記、御用所日記抄、徳川実紀）

## 享保二年（一七一七）

四月二五日
幕府上使鳥居成豊（権之助）・小菅正親（猪右衛門）、目付天野規重（伝兵衛）、金沢に到着し、同月二七日まで金沢城下に滞在する（大野木日記）

七月二七日
前田綱紀、帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登る。次いで九月二七日、江戸を発し、中山道（木曽路）を通って一〇月一三日、金沢城に到着する（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、御用所日記抄、徳川実紀）

八月一一日
徳川吉宗、前田綱紀ら諸大名に領知判物を発給

する（九月一一～一二日、江戸城にて交付）（前田育徳会所蔵文書、徳川実紀）

## 享保三年（一七一八）

七月一六日

前田綱紀、金沢城内外における寛文年間以来の破損石垣につき、翌年二～三月頃からの修復普請を指示する（中川長定覚書）

七月一六日

前田綱紀、金沢を発し、同月二七日、江戸に到着する。次いで八月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

八月二七日

金沢城本丸の石垣の孕み等、現状・修復すべき箇所につき、大工方より作事奉行に宛て、紙面・絵図が提出される（中川長定覚書）

閏一〇月一四日

加賀藩重臣前田孝行（美作守）、金沢城本丸櫓下の石垣のはらみにつき、作事奉行に応急処置を指示する（中川長定覚書）

一一月七日

加賀藩江戸藩邸の中川長定（家老役）ら、金沢城本丸鉄門続申酉櫓下の石垣の張出対応につき国許からの書面を前田綱紀に提出する（中川長定覚書）

## 享保四年（一七一九）

七月二七日

前田綱紀、帰国を許可される。八月二五日、江戸城に登るが、帰国せず翌年四月まで江戸にとどまる（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日

記、御用所日記抄、徳川実紀）

## 享保五年（一七二〇）

四月二日

前田綱紀、江戸を発して京都に向かう。同月一五日、京都に到着し、二条邸等を訪問する。次いで同月一六日に京都を発し、近江国大津を経由して、同月二三日に金沢城に到着する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、京都御立寄之一巻、御用所日記抄、菅綱記）

九月二〇日

松姫（前田吉徳の正室）、江戸にて没する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、菅綱記、護国公年譜）

九月二二日

前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、参勤の途上、金沢城に立ち寄る（大野木日記）

九月二三日

前田綱紀、金沢を発し、一〇月六日、江戸に到着する。次いで一二月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

## 享保六年（一七二一）

二月二四日

幕府、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の松姫（前田吉徳の正室。光現院）の御守殿撤去を許可する（御用所日記抄）

三月四日

加賀藩江戸藩邸（駒込邸）、類焼する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、護国公年譜）

三月九日
加賀藩江戸藩邸（駒込邸）の類焼にともない、江戸藩邸（本郷邸）御守殿内に、浅野吉長夫人（前田綱紀の娘）および窕姫（浅野吉長の娘。綱紀の養女）の居所造営が指示される。同日、浅野吉長夫人・窕姫、御守殿内に移る（中川長定覚書、遠田日記）

三月二九日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）御守殿内の浅野吉長夫人（前田綱紀の娘）および窕姫（浅野吉長の娘。綱紀の養女）居所が完成する（中川長定覚書）

四月一日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）広式の修理が始まる（中川長定覚書）

五月一三日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）御守殿の取り壊しが始まり、閏七月二一日までに完了する（中川長定覚書）

七月二七日
前田綱紀、帰国を許可され、同月二八日、江戸城に登るが、一〇月二五日、体調不良により来春までの帰国延期が許可される（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

## 享保七年（一七二二）

五月六日
幕府、前田綱紀の当秋までの帰国延期を許可する（遠田日記、大野木日記、御用所日記抄）

五月二九日
加賀藩郡奉行等、金沢城内の時鐘鋳直しのため、その音が聞こえる範囲について報告する（温故集録）

六月二八日
幕府、能登の幕領を加賀藩「御預地」とする（御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記）

## 享保八年（一七二三）

三月一三日
前田綱紀、帰国を許可され、同月一五日、綱紀の名代として前田吉徳（吉治）が江戸城に登る（大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

五月九日
前田綱紀の隠居と吉徳（吉治）の家督相続が許される。同月二一日に金沢城二ノ丸小書院において、家中に披露する（大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

六月一五日
前田綱紀は肥前守、前田吉徳（吉治）は加賀守とそれぞれ改める（遠田日記、御用所日記抄、大野木日記）

六月二八日
前田吉徳（吉治）、家督相続の御礼のため江戸城に登る（大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

八月一八日
前田吉徳（吉治）、左近衛権中将に昇進する（大野木日記、御用所日記抄、徳川実紀）

九月一二日
前田吉徳（吉治）、帰国を許可され、同月一三日、江戸城に登るが、同月二九日、綱紀の体調不良による帰国延引を許される（大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀）

一二月一八日
幕府、前田吉徳（吉治）の家臣二人の叙爵を認める。次いで翌年正月一日、金沢城において、横

山貴林（監物）の従五位下大和守、本多政昌（嘉藤次）の従五位下安房守叙任が伝達される（遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

## 享保九年（一七二四）

五月九日

前田綱紀、江戸にて死去する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀、菅綱記、護国公年譜）

五月二〇日

前田綱紀の遺骸が江戸を発し、六月七日に金沢に到着、同月一〇日に天徳院にて葬儀、野田山に葬られる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄）

七月一一日

前田吉徳（吉治）、初入国のため江戸を発し、同月二二日、金沢城に到着する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、護国公年譜）

七月二一日

前田吉徳（吉治）の初入国に先立ち、中川長定（家老役）、金沢城二ノ丸「御居間」のほか、新たに完成した鷹部屋などを見分する（中川長定覚書）

九月一八日

前田吉徳（吉治）、本多政敏屋敷向の明地の竹木伐採を命じる（袖裏雑記）

一〇月二一日

前田吉徳（吉治）、金沢を発し、一一月四日、江戸に到着する。次いで同月一一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、護国公年譜、徳川実紀）

一二月六日

加賀藩江戸藩邸（駒込邸）の「御新宅」が竣工す

る（御用所日記抄）

一二月

釜屋彦九郎、時鐘の改鋳を命じられる。翌年四月二六日、鋳造した時鐘を金沢城へ納める（加州郡方旧記）

## 享保一〇年（一七二五）

二月五日

金沢城越後屋敷の時鐘改鋳のため、鶴ノ丸の早鐘を代用する（護国公年譜）

三月一一日

前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。同月一二日、江戸城に登る。次いで同月一八日、江戸を発し、四月四日、金沢城に到着する（大野木日記、遠田日記、御用所日記抄、徳川実紀、護国公年譜）

四月二五日

金谷広式にて前田宗辰（吉徳の嫡男。勝丸）、生まれる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

五月二二日

中川長定（家老役）、奥村有輝（伊予守）らと蓮池庭の露地を見分し、露地・泉水のことを相談する（中川長定覚書）

六月一四日

中川長定（家老役）、蓮池庭の御亭取り壊しにつき、部材の処置等を三十人頭に指示する（中川長定覚書）

六月一七日

中川長定（家老役）・奥村有輝（伊予守）ら、堂形馬場に見物所の設置を検討する（中川長定覚書）

九月一八日

金沢城二ノ丸御殿広式の普請が完了し、前田宗

辰（勝丸）が金谷広式から同所へ移る（中川長定覚書、村井長堅覚書、護国公年譜、大応公御年譜）

九月二八日

この日以降、前田吉徳（吉治）の入国と前田宗辰（勝丸）の誕生を祝い、金沢城にて能が行われる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜）

一〇月一日

前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（遠田日記）

一〇月四日

前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（遠田日記）

一〇月四日

前田吉徳（吉治）、金沢城近辺「蓮池向」の奥村有輝（伊予守）らの「先屋敷」を、他の大身に与える意向を示す（中川長定覚書）

一〇月六日

前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（遠田日記）

一〇月一五日

前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（遠田日記）

一〇月二一日

前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（遠田日記）

一〇月二五日

前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（遠田日記）

## 享保一一年（一七二六）

正月一六日

中川長定（家老役）、蓮池庭の泉水に浮かべる「御召船」につき、高欄を取り付け、あわせて「掃除舟」も仕立てるよう指示する（若年寄方諸事控）

二月二六日
前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、参勤の途上、金沢城に立ち寄り、前田吉徳（吉治）に対面する（遠田日記、護国公年譜）

四月一日
蓮池庭の改修がおおよそ完了する。前田吉徳（吉治）、中川長定（家老役）の進言により、同所に御亭・腰掛の設置を命じる（中川長定覚書）

四月七日
横井時意ら武具奉行、金沢城本丸高石垣下の「四番目」の土蔵（武具土蔵）破損につき、修復を願い出る（中川長定覚書）

四月一〇日
前田吉徳（吉治）、蓮池庭の御亭・腰掛の指図を確認し、翌日、御亭の仕様につき指示を与える（中川長定覚書）

五月一日
前田宗辰（勝丸）の幟が金沢城土橋門三之間に建てられる（遠田日記、護国公年譜）

五月一六日
前田吉徳（吉治）、蓮池庭の御亭建設につき、見積費用を確認し、建設を許可する。同月一七日、中川長定（家老役）、これを作事奉行大橋信成に指示する（中川長定覚書）

五月一九日
前田吉徳（吉治）、金沢城二ノ丸御居間廻の「少々」普請を指示する（中川長定覚書）

六月七日
金沢城二ノ丸御居間の「普請」につき、この日より近習部屋が入れ替えられる（遠田日記）

六月二八日
京都の加賀藩邸の長屋等が焼失する（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

八月二二日
前田吉徳（吉治）、金沢を発し、九月四日、江戸に到着する。次いで同月一一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

八月二八日
金沢城二ノ丸「御居間廻」等の作事が開始される。これにともない、前田宗辰（勝丸）、金谷広式へ移る（中川長定覚書、大応公御年譜）

九月五日
蓮池御亭が完成する。中川長定（家老役）、見分のうえ江戸の前田吉徳（吉治）に報告する（若年寄方諸事控）

## 享保一二年（一七二七）

二月二八日
中川長定（家老役）ら、金沢城二ノ丸「御居間先御露地」の普請につき、翌日から人足を増員して急がせるよう指示する（中川長定覚書）

三月一一日
中川長定（家老役）、金沢城二ノ丸「御居間前御庭入口番人」を、普請終了につき作事奉行差配から割場奉行差配の足軽に交代させる（中川長定覚書）

三月一三日
前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。同月一五日、江戸城に登る。次いで同月二五日、江戸を発し、四月七日、金沢城に到着する（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

三月二六日
前田宗辰（勝丸）、金谷広式から金沢城二ノ丸広式へ移る（大応公御年譜）

五月二二日
前田宗辰（勝丸）、初めて蓮池庭を訪れる（中川長定覚書、大応公御年譜）

八月二〇日
金沢城越後屋敷の時鐘鋳直しのため、三ノ丸の早鐘と交換する。次いで一〇月一一日、新たな時鐘が完成し、金沢城内へ搬入、同月一八日に懸けられ、同月一九日から撞き始める（遠田日記、護国公年譜）

九月二〇日
金沢城玉泉院丸に「三十人方役所」が完成する（中川長定覚書）

一〇月一一日
加賀藩年寄・家老・若年寄ら、蓮池庭にて紅葉を見物する（中川長定覚書、護国公年譜）

一一月二日
石川郡・河北郡の村々、新たに鋳造した金沢城の時鐘が聞こえる範囲について報告を行う（加州郡方旧記）

一一月一九日
金沢城「七十間御厩」が完成する（中川長定覚書）

一二月二六日
前田吉徳（吉治）、江戸藩邸での広式造営、および「御居間廻」の「御住居替」を命じる（中川長定覚書）

一二月二九日
前田吉徳（吉治）、享保一三年正月以降、金沢城二ノ丸御居間書院での年寄・家老などとの対面日を毎月一〇日・一七日・二四日に定める（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

## 享保一三年（一七二八）

二月一九日

前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、金沢城に登り、前田吉徳（吉治）と対面する。また、利章饗応のため金沢城にて能が行われる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

三月一日

前田吉徳（吉治）、金沢城二ノ丸小書院・大書院にて、大老・年寄・家老・若年寄以下の家臣に判物を与える（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

四月六日

前田吉徳（吉治）、蓮池庭に赴き、次いで奥村有輝（伊予守）の新邸を訪れる（遠田日記、護国公年譜）

四月二二日

紫衣を許された京都紫野芳春院の住僧、金沢へ下向し、この日、金沢城二ノ丸小書院にて前田吉徳（吉治）と対面する（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

五月一五日

徳川吉宗の日光社参および徳川家重の疱瘡平癒を祝い、金沢城にて能が行われる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

五月二一日

前田宗辰（勝丸）、金沢城二ノ丸松の間にて町人の子供による狂言を見物する（遠田日記、護国公年譜）

八月一八日

前田吉徳（吉治）、金沢城を発し、日光社参を行って九月六日、江戸に到着する。次いで九月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（中川長定

覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

## 享保一四年（一七二九）

二月一三日
江戸に火事あり、深川の加賀藩土蔵が焼失する（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

三月一三日
前田吉徳（吉治）、帰国を許可され、同月一五日、江戸城に登る。次いで同月二八日、江戸を立ち、四月一一日、金沢城に到着する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

四月二六日
前田宗辰（勝丸）の着袴を祝い、金沢城にて能が行われる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜）

七月七日
能登に大地震あり（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

七月二四日
前田重熙（前田吉徳の次男。亀次郎）、江戸にて生まれる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜、謙徳公御年表）

## 享保一五年（一七三〇）

正月一二日
江戸の大火により、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）が類焼する。次いで二月一六日、再建に着手する（中川長定覚書、大野木日記、村井長堅覚書、遠田日記、聞書、護国公年譜）

二月一五日
長高連（甲斐守）、さきに従五位下甲斐守に叙任

された御礼のため、金沢城に登る（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

二月二二日

前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、参勤の途上、金沢城に立ち寄り、前田吉徳（吉治）に対面する（中川長定覚書、村井長堅覚書、遠田日記、護国公年譜）

三月七日

前田宗辰（勝丸）、蓮池庭にて「羽合」を行い、同月一六日、石川郡十一屋村辺りにて初めて放鷹を行う（中川長定覚書、村井長堅覚書、遠田日記、護国公年譜）

三月

金沢城「蓮池道通」の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

五月八日

この日から翌日にかけて前田綱紀の七回忌法会が天徳院にて行われる。同月一八日、その慰労のため、天徳院・宝円寺・瑞龍寺等の僧を招き、金沢城にて能が行われる（中川長定覚書、遠田日記）

五月

前田宗辰（勝丸）のために金沢城土橋門外に幟を立てる（護国公年譜）

八月一六日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）が竣工し、表向の諸役所が移される。また、前田重熙（亀次郎）も同広式へ移徙する（中川長定覚書、護国公年譜）

八月二四日

前田吉徳（吉治）、金沢を発し、九月一〇日、江戸に到着する。次いで同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

一二月五日
奥村有輝（金沢城代。伊予守）、没する（中川長定覚書）

## 享保一六年（一七三一）

七月二七日
前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登る。次いで八月一六日、江戸を発し、同月二七日、金沢城に到着する（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

一二月二三日
幕府、前田吉徳（吉治）の家臣一人の叙爵を認め、翌年正月四日、金沢城において前田直躬（主税）に従五位下土佐守叙任が命じられる（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

## 享保一七年（一七三二）

三月七日
前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（中川長定覚書、遠田日記）

五月一五日
金沢城本丸高石垣の下の土蔵（武具土蔵）修復につき、腰廻りに従来の腰瓦ではなく切石を採用することが決められる（中川長定覚書）

七月六日
前田吉徳（吉治）、金沢を発し、同月一八日、江戸に到着する。次いで同月二一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

一〇月
金沢城河北門「頬当」の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

## 享保一八年（一七三三）

四月二六日

午刻、金沢伝馬町の伊藤正純（内膳）小者宅より出火、大火となる。七九五軒が焼失し、申下刻に鎮火する。翌日、長高連（甲斐守。年寄役）・横山貴林（大和守。金沢城代）ら、焼跡を見分する（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記）

四月

金沢城本丸高石垣の下、南から二筋目の土蔵（武具土蔵）修復が完了する。次いで翌五月、前年の雪で破損した南から三筋目の土蔵修復が武具奉行に指示される（中川長定覚書）

五月

金沢城「水ノ手御門台続添」の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

七月二七日

前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登る。次いで八月一九日、江戸を発し、九月一日に金沢城に到着する（御親翰写、中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

九月八日

津田敬脩（家老役）、不破孝豊（武具奉行）に玉泉院丸土蔵の「窓ふた」撤去を許可する（中川長定覚書）

この年

金沢城本丸高石垣の下の土蔵（武具土蔵）の修復が翌年にかけて行われる（前田貞直手記）

## 享保一九年（一七三四）

正月一日
前田直躬（土佐守）、剣梅鉢の大紋を着用して金沢城に登る。その後、諸道具にも剣梅鉢を用いて物議を醸す（浚新秘策）

三月一一日
前田吉徳（吉治）、金沢城にて能を行う（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

三月
金沢城本丸高石垣の下、南から三筋目の土蔵（武具土蔵）修復が完了する。次いで武具奉行、南から四筋目の土蔵修復を願い出る（中川長定覚書）

四月一三日
前田宗辰（勝丸）、金沢城堂形馬場にて初めて乗馬を行う（護国公年譜）

四月二五日
この日および同月二八日、前田吉徳（吉治）・宗辰（勝丸）、金沢城にて能を行う（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜）

五月一三日
金谷広式の修復が完了し、前田宗辰（勝丸）「御部屋」の造営も大方完了する（遠田日記）

五月二八日
金谷広式の前田宗辰（勝丸）「御部屋」の造営が完了する（遠田日記）

六月一六日
前田宗辰（勝丸）とその生母（浄珠院）、金沢城二ノ丸から普請が完了した金谷広式に移る（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜）

七月一日
前田宗辰（勝丸）、金谷御殿にて能を行う（遠田日記）

七月六日
前田吉徳（吉治）、金沢を発し、同月一八日、江戸に到着する。次いで同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（大野木日記、前田貞直手記、遠田日記、護国公年譜）

## 享保二〇年（一七三五）

正月二二日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の「八筋御長屋明小屋」に放火あり（護国公年譜）

三月二二日
金沢城「高石垣御土蔵」（武具土蔵）、武具奉行の求めにより応急的な修復が指示される（前田貞直手記）

四月二八日
金沢城玉泉院丸武具方役所の「縁取」、武具奉行の求めにより今後、畳表に順次取り換えられることになる（前田貞直手記）

六月
甚右衛門坂「続宮前鐘つき堂後」の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

七月二七日
前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。翌日、江戸城に登る。次いで八月二五日、江戸を発し、九月七日に金沢城に到着する（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

九月一七日
前田利和（前田吉徳の三男。勢之佐）、江戸にて生まれる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

九月一九日
前田宗辰（勝丸）、金沢城にて弓初を行う（遠田日記、護国公年譜）

九月二八日
前田宗辰（勝丸）、「蓮池御馬場」にて乗馬初を行う（中川長定覚書、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜）

九月
前田吉徳（吉治）、在国中の金沢城表向出座について、今後定日を設けることを廃止する（護国公年譜）

一一月八日
前田重靖（吉徳の五男。嘉三郎）、金沢城二ノ丸にて生まれる（中川長定覚書、大野木日記、遠田日記、護国公年譜、天珠公御年表）

一一月二五日
前田宗辰（勝丸）、金谷御殿にて読書初を行う（護国公年譜）

一二月一六日
前田孝資（大炊）、従五位下対馬守に叙任される（遠田日記、護国公年譜）

この年
金沢城石川門外左柵下の石垣崩落個所につき、修復願いが出される（御城御巡見御道筋）

## 元文元年（享保二一年。一七三六）

二月
金沢城尾坂門脇の足軽番所の後石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

三月二五日
前田利章（大聖寺藩主。綱紀の五男）、参勤の途上、金沢城に立ち寄り、前田吉徳（吉治）・宗辰（勝丸）と対面する（遠田日記）

三月二八日
前田宗辰（勝丸）、金谷御殿にて能の稽古をする（遠田日記）

五月九日
天徳院にて前田綱紀の一三回忌法会が行われ、同月一五日、その慰労のため、天徳院・宝円寺・瑞龍寺等の僧を招いて、金沢城にて能が行われる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

五月上旬
前田宗辰（勝丸）の居宅作事が加賀藩江戸藩邸（本郷邸）において始まり、同年七月上旬に完了するという（政隣記）

五月
金沢城辰巳櫓下の石垣の張出修復が完了する（文禄年中以来等之旧記、勤方之覚、政隣記）

七月六日
前田吉徳（吉治）、金沢を発し、同月一八日、江戸に到着する。次いで八月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、大野木日記、前田貞直手記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

九月二一日
前田宗辰（勝丸）、金沢城を発し、一〇月七日、江戸に到着する（大野木日記、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

## 元文二年（一七三七）

四月六日
繁姫（前田吉徳の養女。大聖寺藩主前田利章の娘）、江戸の大聖寺藩邸を発し、同月二六日、金谷広式に到着する（遠田日記、大野木日記、政隣記）

四月六日
前田宗辰（勝丸）、名を犬千代と改め、さらに翌日、又左衛門利雄と改める（大野木日記、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

四月二八日
前田宗辰（利雄）、父吉徳（吉治）に伴われ、初

めて江戸城に登り、徳川吉宗に拝謁する（大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

六月二八日

前田宗辰（利雄）、江戸城に登り元服、諱を宗辰と改め、従四位下少将に叙される（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、大応公年表）

七月二七日

前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。翌日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで九月四日、江戸を発し、同月一六日、金沢城に到着する（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

八月

金沢城辰巳櫓下・蓮池堀縁の石垣、修復完了する（勤方之覚）

八月

金沢城辰巳櫓下・蓮池堀縁の石垣続きの石垣、修復完了する（勤方之覚）

一〇月

金沢城「蓮池道通御堀縁」の石垣、修復完了する（勤方之覚）

## 元文三年（一七三八）

正月

金沢城石川門与力番所の後、左脇の石垣、修復完了する（勤方之覚）

正月二九日

江戸無縁坂町屋より出火し、大聖寺藩邸や加賀藩邸（本郷邸）の作事門・割場役所等も焼失する（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

七月六日
前田吉徳（吉治）、金沢を発し、同月一八日、江戸に到着する。次いで同月二三日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、前田貞直手記、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

七月一〇日
加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の大書院・小書院・舞台・楽屋の普請が完了するという（政隣記）

一二月一日
金沢に深雪あり。三〇〇〇余りの人夫を動員して金沢城中の除雪を行う（改作方雑留）

## 元文四年（一七三九）

正月一八日
金沢城紺屋坂上の「ヤライ御門」等、暴風のため破損する（大野木日記）

四月
金沢城「蓮池道通御堀縁」の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

七月二七日
前田吉徳（吉治）、帰国を許可される。翌日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで八月二二日、江戸を発し、九月四日、金沢城に到着する（御代々御書等、遠田日記、大野木日記、徳川実紀、護国公年譜）

一一月
金沢城玉泉院丸泉水の高石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

## 元文五年（一七四〇）

正月一九日
鳥取藩主池田吉泰の嫡男宗泰の使者として福田

筑前が到着し、金沢城へ登城する（大野木日記、遠田日記）

三月一八日

金谷門前の空地へ、厩並びに近辺の面々がごみ等を捨てること等に関して令す（加藩十二冊定書）

四月一五日

大坂町人鴻池喜七郎、金沢城二ノ丸矢天井の間にて前田吉徳（吉治）と対面する（大野木日記、遠田日記）

五月八日

前田綱紀の十七回御忌の法会が天徳院にて行われる。同月一五日、その慰労のため、天徳院・宝円寺・瑞龍寺等の僧を招き、金沢城にて能が行われる（前田貞直手記、大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

五月一九日

前田吉徳（吉治）、婚礼を控えた繁姫（前田吉徳の養女）を招き、金沢城の表にて能を行う（前田貞直手記、大野木日記、遠田日記）

五月二七日

前田吉徳（吉治）、金谷屋敷において保寿院（前田綱紀の側室）を饗応する（大野木日記、遠田日記）

七月三日

寿清院（前田吉徳の側室）、金沢城二ノ丸広式において斐（暢）姫を出産する（大野木日記、遠田日記、政隣記）

七月六日

前田吉徳（吉治）、金沢を発し、同月一八日、江戸に到着する。次いで閏七月一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、前田貞直手記、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

七月

金沢城七十間門の外、松原屋敷下の石垣、修復完了する（勤方之覚）

七月
金沢城車橋の下続石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）
九月二一日
繁姫（前田吉徳の養女）、金沢城を発し、一〇月一三日、江戸に到着する。次いで一一月一九日、繁姫、南部利雄（信貞。盛岡藩主南部利視の養嗣子）へ輿入れする（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）
一一月二日
前田宗辰より常姫（前会津藩主保科正容の娘）へ結納の祝儀を送る（遠田日記、大野木日記、護国公年譜、大応公御年譜）
一二月一日
前田吉徳（吉治）、参議に任官する（遠田日記、大野木日記、徳川実紀、護国公年譜）
一二月一六日
前田吉徳、徳川家治（家重の嗣子）を憚り、諱を吉治から吉徳に改める（遠田日記、護国公年譜）
一二月二一日
前田重熙（亀次郎）、名を亀次郎から利安に改める（遠田日記、護国公年譜）

## 寛保元年（元文六年。一七四一）

四月二二日
喜代姫（前田吉徳の娘）と広島藩主浅野宗恒の婚礼が江戸にて行われる（遠田日記、大野木日記、護国公年譜）
四月
金沢城本丸「鉄門続小門脇」の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）
七月二七日
前田吉徳、帰国を許可される。翌日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで八月二二日に

江戸を発し、九月四日、金沢城に到着する（御親翰写、遠田日記、大野木日記、徳川実紀、護国公年譜）

七月

金沢城松坂（本丸・二ノ丸間）の石垣、修復完了する（勤方之覚）

一〇月二一日

金沢城二ノ丸にて前田重教（吉徳の七男。健次郎）、生まれる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜、泰雲公御年表）

## 寛保二年（一七四二）

四月一五日

前田吉徳の参議昇進を祝い、金沢城にて能が行われる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

四月一八日

前田宗辰の結納および喜代姫（前田吉徳の娘）の婚礼を祝い、金沢城にて能が行われる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

七月一三日

前田吉徳、金沢を発し、同月二五日、江戸に到着する。同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、大野木日記、前田貞直筆記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

八月一日

江戸に大風雨あり。加賀藩邸の囲い等が崩れ、屋根も破損する（大野木日記）

八月九日

前田宗辰、帰国を許可される。同月一一日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで九月二日、江戸を発し、東海道を通って同月一六日、金沢城に到着する（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

## 寛保三年（一七四三）

三月一一日
前田宗辰、金沢を発し、三月二四日に江戸に到着する。四月一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（大野木日記、徳川実紀、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

四月一三日
前田吉徳、帰国を許可される。同月一五日、江戸城に登る。次いで閏四月一三日、金沢城に到着する（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

四月一四日
金沢城二ノ丸御居間等の畳替えが、この日から翌日にかけて行われる（遠田日記）

六月一五日
前田吉徳、金沢城二ノ丸矢天井の間にて江戸町人と対面する（大野木日記、遠田日記）

七月
金沢城「蓮池道通御堀縁」の石垣、修復が命じられる（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

八月
金沢城土橋門続きの石垣、修復完了する（勤方之覚）

九月一九日
徳川吉宗の昇進等を祝い、金沢城にて能が行われる（大野木日記、遠田日記）

一〇月一五日
前田吉徳、金沢城二ノ丸の矢天井の間にて大坂町人鴻池吉右衛門と対面する（大野木日記）

一二月一日
前田利実（吉徳の九男。喜六郎）、金谷広式にて生まれる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

一二月二一日
前田重熙（利安）、従五位下但馬守に叙任される（大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、謙徳公御年表）

## 延享元年（寛保四年。一七四四）

二月四日
この日から翌日にかけて前田光高の一〇〇回忌法会が天徳院にて行われる。同月一一日、その慰労のため、天徳院・宝円寺・瑞龍寺等の僧を招き、金沢城にて能が行われる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）

三月二九日
前田吉徳、金沢を発し、四月一一日江戸に到着する。次いで同月一五日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜）

四月二二日
加賀藩江戸藩邸にて、前田宗辰と常（前会津藩主保科正容の娘）の婚礼が行われる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜、大応公御年譜、大応公年表）

四月二九日
前田宗辰、帰国を許可され、五月一日、江戸城に登る。次いで同月二五日、江戸を発し、六月七日、金沢城（金谷御殿）に到着する（大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、大応公御年譜）

六月二四日
加賀藩士原田又兵衛（馬廻組）、前日に酩酊して金沢城橋爪門の勤番に就いたとして蟄居を命じられる（護国公年譜）

七月二日
前田宗辰、金沢城内にて能の稽古をする（遠田日記）

九月四日
前田宗辰、金沢城二ノ丸表舞台にて能の稽古をする（大野木日記、遠田日記）
一一月一日
前田宗辰、金谷御殿にて能の稽古をする（遠田日記）
一一月二二日
前田宗辰、「御舞台」（金沢城二ノ丸）にて能の稽古をする（遠田日記）
一二月一八日
前田宗辰、金谷御殿にて能の稽古をする（遠田日記）

## 延享二年（一七四五）

正月四日
前田治脩（吉徳の一〇男。時次郎）、金沢城二ノ丸広式にて生まれる（大野木日記、遠田日記、護国公年譜）
二月一日
前田宗辰、金谷御殿にて能を行う（遠田日記）
二月四日
前田宗辰、金谷御殿にて能の稽古をする（遠田日記）
二月一五日
横山貴林（大和守。金沢城代）および作事奉行、畳替え等修復の必要有無を判断するため金沢城二ノ丸御居間廻りを見分する（遠田日記）
三月一一日
前田重靖（嘉三郎）金沢を発し、同月二三日、江戸に到着するという（政隣記）
三月一五日
前田宗辰、金沢を発し、同月二六日、江戸に到

着する。次いで四月一日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、大応公年表）

四月九日
金沢城二ノ丸御居間廻りの畳替えが行われる。また、明後日から金沢城内の土蔵修復開始との案内あり（遠田日記）

四月一二日
金沢城二ノ丸御居間廻り・御次廻り等の「畳修覆」が開始され、同月二六日に完了する（遠田日記）

四月一六日
前田吉徳、帰国を許可され、同月一八日、江戸城に登る。同日、前田重熙(利安)にも帰国が許可される。次いで同月二一日、吉徳・重熙、江戸を発し、五月六日、金沢城に到着する（大野木日記、遠田日記、徳川実紀、護国公年譜、謙徳公御年表）

六月一二日
前田吉徳、金沢城にて没する（大野木日記、遠田日記、御留守中留、徳川実紀、護国公年譜）

六月二六日
前田吉徳の葬儀が宝円寺にて行われる。次いで野田山に葬られる（大野木日記、遠田日記）

七月一日
前田宗辰、代替りのため、金沢城中の留守を厳重にすべきことを通達する（大応公年表）

七月一五日
前田重熙、金沢を発し江戸へ向かう（遠田日記）

七月一五日
前田宗辰、江戸の駒込邸から本郷邸に移り、前田利和（勢之佐）や女中方は本郷邸から駒込邸へ移る。これにともない、両藩邸の普請が行われる（大野木日記、大応公年表）

七月二五日
前田宗辰、江戸城に登城、御座の間にて徳川吉宗に拝謁し、家督相続を認められる（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、大応公年表）

七月二六日
金沢城「御居間筋御住居替」の「普請」が命じられ、九月一六日以前に完成する（御在国中御用留、遠田日記、大応公年表）

八月四日
前田宗辰、佐渡守から加賀守に改めることを幕府へ願い、認められる（大野木日記、遠田日記）

八月一一日
前田宗辰、家督相続の御礼のため江戸城に登る。横山貴林（大和守）等家来七名もこれに随う（大野木日記、遠田日記、徳川実紀、大応公年表）

九月一三日
幕府、総姫（前田吉徳の娘）と富山藩主前田利幸の縁組を許可する。次いで一〇月一日、金沢城で披露される（御親翰写、大野木日記、政隣記）

一一月一三日
二条宗基、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）を訪問する（大野木日記、大応公年表）

一一月二七日
江戸にて常（前田宗辰の正室）、流産し、同月三〇日に没する（遠田日記、大野木日記）

## 延享三年（一七四六）

正月二七日
前田宗辰、徳川家重の将軍宣下を祝い、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）に老中堀田正亮（相模守）らを招いて能を行う（遠田日記、大野木日記）

四月二日
総姫（前田吉徳の娘）と富山藩主前田利幸との婚

礼が行われる（大野木日記、遠田日記）

四月二三日

幕府の巡見上使幕府の巡見上使大久保教平（江七兵衛）・筑紫通門（宇兵衛）・山岡景之（五郎作）、金沢に到着し、翌日まで滞在する（大野木日記、遠田日記、大応公年表）

五月一日

金沢城にて前田治脩（時次郎）が越中国勝興寺の後住職となることが披露される（大野木日記、遠田日記）

七月二日

大槻朝元（伝蔵・内蔵允）、本多政昌（安房守）邸に赴き、蟄居を命じられる（大野木日記、遠田日記、大応公年表）

八月二六日

前田宗辰、家督相続を祝い、加賀藩江戸藩邸に老中を招いて能を行う（大応公年表）

一〇月一一日

徳川家重、前田宗辰ら諸大名に領知判物を発給する（御判物并領知目録、徳川実紀）

一二月八日

前田宗辰、江戸にて没する（前田貞幹手記、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、大応公年表）

一二月二八日

前田宗辰の遺骸、江戸を出棺し、翌年正月一七日、金沢天徳院に着棺する（大野木日記、前田貞幹手記、大応公年表）

## 延享四年（一七四七）

正月一九日

前田宗辰の葬儀が天徳院にて行われる。次いで野田山に葬られる（大野木日記、遠田日記、大応公年表）

正月二六日
前田重熙（利安）、江戸城に登り、家督相続が認められる（御親翰写、前田貞幹手記、遠田日記、徳川実紀）

二月四日
前田重熙（利安）、但馬守から加賀守に改める（前田貞幹手記、遠田日記、謙徳公御年表）

二月七日
江戸から金沢城二ノ丸御居間「御住居替」につき指示があり、金沢城にて作事奉行らが検討を行う。次いで同月一一日から「御住居御修覆」が開始される（遠田日記）

二月一二日
前田重熙（利安）、家督相続の御礼のため、江戸城に登る。次いで同月一九日にも登城し、徳川家重から一字を与えられ、諱を利安から重熙と改め、正四位下左近衛権少将に叙任される（御親翰写、前田貞幹手記、大野木日記、遠田日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御年表）

四月四日
前田重熙、家督相続の祝儀として、老中酒井忠恭（雅楽頭）・松平武元（右近将監）らを江戸藩邸に招く（大野木日記、政隣記）

四月一五日
前田重熙、藩主として初めて帰国を許可される。同月一九日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで同月二五日、江戸を発し、五月六日、金沢城に到着する（御親翰写、前田貞幹手記、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、謙徳公御年表）

四月二〇日
金沢城二ノ丸御居間の修理が完了する（遠田日記）

四月
金沢城車橋下の土留石垣、修復が命じられる（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

四月
金沢城河北門台「石垣続三之御丸腰掛後」の土留石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

四月
前田重熙の初入国に先立ち、金沢城中の畳替・壁塗等の「普請」が行われ、毎日職人三〇〇人余が動員されたという（謙徳公御年表）

五月一五日
金沢城にて前田重熙の代替・初入国の御礼が行われる。同月二一日にも同様の御礼が行われる（大野木日記、遠田日記、謙徳公御年表）

六月二日
前田重熙、金谷御殿に赴き、斐（暢）姫と対面する。のち金沢城内にて「十村御扶持人百姓」らと対面する（大野木日記）

六月一七日
前田重熙、横山貴林（金沢城代）・「御城附之役人」および普請奉行・作事奉行等と、金沢城本丸・二ノ丸・東之丸・鶴之丸等を巡見する（大野木日記）

六月一八日
松平康済（玄蕃。奏者番）、青山長暢（将監。奏者番）を同道して金谷文庫を見分する（大野木日記）

八月二八日
金沢城獅子土蔵の慶長小判三万両、大銀奉行に預けられ、町方に貸与される（遠田日記）

九月一九日
前田重熙、横山貴林（金沢城代）を伴い、金沢城内を巡見する（大野木日記、遠田日記）

一〇月二一日
前田重熙、横山貴林・「御城附役人」・近習頭・普請奉行・作事奉行等と、金沢城二ノ丸・玉泉

院丸等を巡見する（大野木日記、遠田日記、謙徳公御年表）

一〇月

前田重熙、蓮池庭に年寄中・家老中・若年寄を招いて、紅葉見物を行う（前田貞幹手記、大野木日記、謙徳公御年表）

一二月一八日

大槻朝元（伝蔵・内蔵允）、成瀬当延（内蔵助）邸に禁錮され、次いで五箇山への流罪が命じられる（前田貞幹手記、大野木日記、遠田日記、謙徳公御年表）

## 寛延元年（延享五年。一七四八）

二月一一日

前田重熙家督後の入国を祝い、この日以降、同月二七日まで六日間の日程で金沢城にて能が行われる（大野木日記、遠田日記）

三月七日

前田重熙、金沢を発し、同月二〇日、江戸に到着、同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御親翰写、大野木日記、遠田日記、徳川実紀、謙徳公御年表）

六月八日

加賀藩江戸藩邸（本郷邸）の与力小屋より出火し、三軒の焼失あり（大野木日記、遠田日記）

七月一七日

真如院（前田吉徳の側室）、江戸藩邸での置毒事件により、金谷御殿に幽閉される（大野木日記、前田直躬内密手記、日記頭書、謙徳公御年表）

一二月二一日

前田重熙、江戸城に登り、中将（左近衛権中将）昇任、および家臣二人（奥村修古・本多政行）の諸大夫叙任を伝えられる（御親翰写、高畠左門留帳、

大野木日記、徳川実紀）

## 寛延二年（一七四九）

正月

金谷門外、右脇の土留石垣、修復完了する（勤方之覚）

三月一一日

前田重靖（嘉三郎）、金沢を発し、同月二二日、江戸に到着する（大野木日記、日記頭書、謙徳公御年表）

一〇月

金谷門外の「大脇堀下」の石垣、修復完了する（奥村尚寛御城方覚書）

## 寛延三年（一七五〇）

六月

金沢城蓮池水抜続きの石垣、修復完了する（勤方之覚）

六月

金沢城「蓮池車橋之内」高石垣の下、足軽番所の向かい堀下の石垣、修復完了する（奥村尚寛御城方覚書）

七月二七日

前田重熙、帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登る。次いで八月一一日、江戸を発し、同月二二日、金沢城に到着する（御代々御書等、御親翰写、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御年表）

七月

金沢城本丸・東ノ丸間の塀下二段目の腰石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

## 宝暦元年（寛延四年。一七五一）

三月一六日
前田重熙、蓮池屋敷を訪れる（大野木日記、謙徳公御代日記）

六月一日
前田利道（大聖寺藩主）、帰国の途上、金沢城に立ち寄り、前田重熙と対面する（大野木日記、謙徳公御代日記、謙徳公御年表）

六月二〇日
徳川吉宗、江戸城にて没する（大野木日記、謙徳公御年表）

閏六月二一日
前田重熙、金沢を発し、七月七日に江戸に到着する。次いで、同月二八日に江戸登城を命じられるが、所労により登城せず。同年一〇月一日に至って登城する（大野木日記、謙徳公御代日記、謙徳公御年表）

閏六月
金沢城玉泉院丸「御露地方役所後」二重塀下の石垣、修復完了する（奥村尚寛御城方覚書、勤方之覚）

一二月二八日
前田重靖（利見。嘉三郎）、前田重熙に同行して江戸城に登り、初めて徳川家重に拝謁する。同日、従五位下上総介への叙任を命じられる（大野木日記、謙徳公御代日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御年表）

## 宝暦二年（一七五二）

六月
金沢城水の手門下「明番所」塀下の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

六月
金沢城石川門外の紺屋坂の内、右方の塀下土留石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

八月
金沢城二ノ丸数寄屋門の内、「御膳水井戸後通」塀下の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

八月
金沢城二ノ丸風呂屋門の内、土留石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

## 宝暦三年（一七五三）

三月二二日
金沢東照宮修復につき、外遷宮が行われる（高畠左門留帳、諸事被仰出等記、大野木日記、謙徳公御代日記、謙徳公御年表）

四月八日
前田重熙、江戸にて没する。同月一二日に死去を公表する。次いで同月二五日、遺骸が江戸を発し、五月一〇日に金沢に到着、同月一三日、宝円寺にて葬儀が行われる（諸事被仰出等記、大野木日記、高畠左門留帳、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御代日記、謙徳公御年表）

五月一日
前田重靖（利見）、加賀藩江戸藩邸（本郷邸）に移徙する（諸事被仰出等記、日記頭書、天珠公御年表）

五月一八日
前田重靖（利見）、江戸城にて家督相続を許可される。次いで六月五日、その御礼のため、重靖（利見）、再び江戸城に登る（高畠左門留帳、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御代日記、天珠公御年表）

六月四日
前田重靖（利見）、上総介から加賀守に改める（高

畠左門留帳、日記頭書、天珠公御年表）

六月一二日
前田重靖（利見）、江戸城に登り、徳川家重から一字を与えられ、重靖と改め、あわせて正四位下左近衛権少将に叙任される（高畠左門留帳、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御代日記、天珠公御年表）

七月一日
金沢城二ノ丸「御座之間」辺りの「普請」が開始される（大野木日記）

七月四日
徳川家重、前田重靖と紀伊藩主徳川宗直の娘との縁組を許可する（高畠左門留帳、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御代日記）

七月二二日
金沢城三ノ丸橋爪門橋の修復が開始される（大野木日記）

七月二七日
前田重靖、藩主として初めて帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登り、帰国の挨拶をする。次いで八月一六日、江戸を発し、九月一日、金沢城に到着する（御親翰写、高畠左門留帳、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、謙徳公御代日記、天珠公御年表）

八月一日
金沢城二ノ丸新殿の上棟式が行われる（大野木日記）

八月
金沢城「蓮池御堀縁道通」の土留石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

九月二九日
前田重靖、金沢にて没する。一〇月五日、死去を公表し、同月一九日、天徳院にて葬儀が行われる（高畠左門留帳、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、

謙徳公御代日記、天珠公御年表）

九月

金沢東照宮（御宮）西側の柵下土留石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

一〇月五日

前田重靖の跡目が重教（吉徳の七男。健次郎）に決定する。次いで同月九日、重教を重靖の末期養子とする願書が幕府へ提出される（高畠左門留帳、大野木日記、日記頭書、謙徳公御代日記）

一〇月一五日

前田重教（健次郎）、諱を利篤と改める（高畠左門留帳、日記頭書、謙徳公御代日記、泰雲公御年表）

一一月二二日

前田重教（利篤）、金谷広式から、同御殿内の旧前田宗辰居所へ移る（日記頭書）

一二月一九日

幕府、前田重教（利篤）出府後にその家督相続を許可する意向を示す（高畠左門留帳、諸事被仰出等記、日記頭書、泰雲公御年表）

## 宝暦四年（一七五四）

閏二月一九日

前田重教（利篤）、金沢を発し、三月四日に江戸に到着する（諸事被仰出等記、大野木日記、日記頭書、泰雲公御年表）

三月一一日

前田重教（利篤）、江戸城に登り、家督相続を認められる（御親翰写、諸事被仰出等記、大野木日記、日記頭書、徳川実紀、泰雲公御年表）

四月一五日

前田重教（利篤）、江戸城にて元服、諱を利篤か

ら重基と改め、正四位下左近衛権少将に叙任される（御親翰写、諸事被仰出等記、日記頭書、徳川実紀、泰雲公御年表）

四月二七日

徳川家重、前田重教（重基）と徳川宗将（紀伊藩主徳川宗直の嗣子）の娘との縁組を許可する（御親翰写、諸事被仰出等記、日記頭書、徳川実紀）

六月

松原屋敷の内「古鐘つき堂」の下、堀縁石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

一〇月

甚右衛門坂門台の西側の石垣、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

一二月一八日

幕府、前田重教（重基）の家臣二人に叙爵を認め、前田孝昌（大炊）の従五位下駿河守、村井長堅（主膳）の従五位下豊後守叙任が命じられる（諸事被仰出等記、日記頭書、徳川実紀）

## 宝暦五年（一七五五）

五月六日

幕府目付松平近明（頼母）・大河内政与（善兵衛）、金沢城に入り、金沢城郭廻櫓数が報告される（御国江公辺ゟ御目附衆御越御用一巻之事、日記頭書、泰雲公御年譜、泰雲公御年表）

七月九日

金沢城の破損個所につき、前月願出の普請がこの日の老中奉書をもって許可される（御国江公辺ゟ御目附衆御越御用一巻之事、日記頭書）

七月一一日

幕府目付松平近明（頼母）・大河内政与（善兵衛）、金沢城二ノ丸にて饗応される（御国江公辺ゟ御目附衆御越御用一巻之事、日記頭書、泰雲公御年譜、泰

雲公御年表）

九月一五日

金沢東照宮修復につき、正遷宮が行われる（日記頭書、泰雲公御年譜）

九月二七日

幕府目付松平近明（頼母）・大河内政与（善兵衛）、暇乞いのため金沢城に登城する（御国江公辺々御目附衆御越御用一巻之事）

一〇月一六日

普請奉行、金沢城石垣修理の「足し石」がなくなったため、戸室山での石切再開を金沢城代に具申する（河北郡戸室山開之事等留帳）

一二月八日

金沢城石垣修理のため、戸室山石切丁場の再開が許可される。ただし、当面は中山村の貯石を取り寄せることに決まる（河北郡戸室山開之事等留帳）

一二月一八日

前田重教（重基）、左近衛権中将に昇任する（御親翰写、日記頭書、徳川実紀、泰雲公御年表）

この年

金沢城河北門・尾坂門等周辺の石垣孕み個所につき、修復願いが出される（御城御巡見御道筋）

## 宝暦六年（一七五六）

四月一二日

銀札の価値下落により、金沢城下に騒擾が起こる（諸事被仰出等記、泰雲公御年譜）

この年

金沢城普請につき、戸室山から石材搬送の際、小立野石引町にて松宮与三郎（御歩横目）と「石持」との間で口論が起こる。詮議の結果、翌年正月二一日、松宮および石切正木十右衛門らが

召し放ち処分となる（諸事被仰出等記）

## 宝暦七年（一七五七）

正月八日
金沢城越後屋敷の長屋が焼失する（諸事被仰出等記、泰雲公御年譜）

七月二七日
前田重教（重基）、藩主として初めて帰国を許可される。同月二八日、江戸城に登る。次いで八月六日、江戸を発し、同月一九日、金沢城に到着する（御親翰写、御留守居詰御用留、諸事被仰出等記、徳川実紀、泰雲公御年表）

八月
金沢城辰巳櫓下「蓮池御堀縁」の石垣、修復完了する（勤方之覚）

八月
金沢城尾坂門の外「左脇坂抱へ石垣」、修復完了する（勤方之覚、奥村尚寛御城方覚書）

一二月一八日
幕府、前田重教（重基）の家臣一人に叙爵を認め、横山隆達（大膳）の従五位下山城守叙任が命じられる（諸事被仰出等記、徳川実紀、泰雲公御年表）

## 宝暦八年（一七五八）

二月一八日
前田重教（重基）、実成院（重教の実母）を招き、金沢城二ノ丸にて能を行う（泰雲公御年譜）

三月二五日
前田利道（大聖寺藩主）、参勤の途上、金沢城に立ち寄る（諸事被仰出等記、泰雲公御年譜）

四月七日

前田重教（重基）、この日から翌日にかけて金沢城内を巡見する（御城御巡見御道筋、諸事被仰出等記、泰雲公御年譜、泰雲公御年表）

七月一三日

前田重教（重基）、金沢を発し、同月二五日、江戸に到着、同月二八日、江戸城に登り、参勤の挨拶をする（御留守居詰御用留、諸事被仰出等記、徳川実紀、泰雲公御年表）

# 典拠文献一覧

## 【あ行】

### 安楽山産福寺年代記

金沢市浄住寺所蔵。『金沢市史』資料編2・中世二（二〇〇一年）に収録。

### 上浜寛一家文書

天正一一年（一五八三）、前田利家から扶持百姓として取り立てられた上浜家の家伝文書。利家の黒印状一六点などが伝来。個人蔵。

### 青木長之助所蔵文書

詳細不明。『新修七尾市史』3・武士編（二〇〇一年）に収録。

### 穴太政洋氏所蔵文書

加賀藩穴生方を務めた穴太家（奥家）の家伝文書。個人蔵。

### 浅野家文書

広島藩浅野家に伝来した古文書群。東京大学史料編纂所編『大日本古文書　家わけ文書二　浅野家文書』を参照。

### 秋田藩家蔵文書

秋田藩編。秋田藩佐竹家家臣ら藩内の古文書類の写。秋田県公文書館所蔵。

### 秋田家史料

陸奥国三春藩秋田家の家伝文書。東北大学附属図書館所蔵。

### 有賀家文書

加賀藩士有賀家の家伝文書の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 安居寺文書

富山県南砺市安居寺所蔵。

### 伊佐早謙採集文書

明治～昭和初期の郷土史家伊佐早謙氏の採集にかかる古文書群。同氏は米沢藩上杉家の家史編纂に従事し、加賀藩前田家の編輯方とも史料の貸借等で関係を有している。東京大学史料編纂所所蔵。

### 石川郡林村文書

詳細不明。『石川県史』第参編（一九二九年）所収、

承応三年（一六五四）九月一日付石川郡不入道村百姓中宛て村御印を参照。

## 石川県立歴史博物館所蔵文書

石川県立歴史博物館所蔵。

## 板屋兵四郎ゑんぎ書

詳細不明。辰巳用水を整備した板屋兵四郎に言及する。『加賀藩史料』第弐編に収録。

## 厳島参詣道記

曼殊院門跡（竹内門跡）良恕法親王（後陽成天皇の弟。一五七四～一六四三）の厳島参詣記。京都市左京区曼殊院所蔵。

## 乙夜之書物

加賀藩士関屋政春（一六一五～八五）による歴代藩主らの各種逸話集。寛文九～一一年（一六六九～七一）成立。『加賀藩史料』には「桑華字苑」の書名で引用されている。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳

元和～寛文年間（一六一五～七三）に加賀藩が幕府へ提出した城絵図・国絵図関連史料の写。金沢城の破損個所の書上や修築許可願等を収録。加賀藩士横山氏従（外記。一六三七～一七〇六）編。延宝五年（一六七七）成立。『金沢城研究』創刊号（金沢城研究調査室、二〇〇三年）に一部収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 射水市新湊博物館所蔵文書

射水市新湊博物館所蔵。

## 石清水文書

平安時代から江戸時代末期に至る古文書群。石清水八幡宮の田中坊（田中家）および善法寺（菊大路家）に伝来。金沢御堂関連史料が善法寺所伝分に見える。東京大学史料編纂所編『大日本古文書　家わけ文書四　石清水文書』を参照。京都府八幡市石清水八幡宮所蔵。

## 宇野主水日記

本願寺顕如の右筆宇野主水の日記（「鷺森日記」「貝

塚御座所日記」「貝塚御座所雑記」）。『改定史籍集覧』（第二五冊）、上松寅三編『石山本願寺日記』下巻（大阪府立図書館長今井貫一君在職二十五年記念会、一九三〇年）に収録。

## 天正十四年上洛日帳

天正一四年（一五八六）、上杉景勝が上洛した際の日記。

## 上杉家文書

米沢藩上杉家伝来の古文書群。東京大学史料編纂所編『大日本古文書　家わけ文書十二　上杉家文書』を参照。米沢市上杉博物館所蔵。

## 上杉邸御成帳

文禄三年（一五九四）、太閤豊臣秀吉による上杉景勝邸への式正御成の記録。『上越市史』別編二（二〇〇四年）所収、北海道本庄俊長氏所蔵。

## 梅津政景日記

秋田藩士梅津政景（一五八一～一六三三）の日記。慶長一七年（一六一二）～寛永一〇年（一六三三）に及ぶ。東京大学史料編纂所編『大日本古記録　梅津政景日記』を参照。

## 越登賀三州志

加賀藩士富田景周（一七四六～一八二八）編著。加賀藩の来歴や加賀・能登・越中の地誌等を詳しく述べる。『重訂越登賀三州志』（石川県図書館協会、一九三三年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）・石川県立図書館所蔵。

## 越中国高岡山瑞龍閣記

加賀藩士富田景周（一七四六～一八二八）編著。越中国瑞龍寺の沿革等を記述する。『景周先生小著集』（石川県図書館協会、一九三八年）に収録。石川県立図書館所蔵。

## 江戸幕府日記

幕府の公務を記録した「日記」のうち、姫路藩酒井家に伝来したものを本年表では単に「江戸幕府日記」と呼称する。原題は「日記」。影印本に藤井譲治監修『江戸幕府日記　姫路酒井家本』第一巻～第二六巻（ゆまに書房、二〇〇三～〇四年）がある。姫路市立城郭研究室所蔵。

**延宝年中加越能社寺来歴**

延宝二～三年（一六七四～七五）に作成された寺社由緒等。『加越能寺社由来』上（石川県図書館協会、一九七四年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**於江戸中納言様御在国中方々へ御音信御上屋敷より調被遣分**

加賀藩士寺岡与兵衛による承応元年（一六五二）から翌年にかけての進物等の覚書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**雄谷家文書**

加賀藩初期に能登国羽咋郡で十村役を務めた雄谷家の家伝文書。個人蔵。

**大坂御城御普請ニ付而諸大名江地口坪割之図**

元和五～同六年（一六一九～二〇）の大坂城公儀普請における諸大名の担当丁場を示す。山口県文書館（毛利家文庫）所蔵。

**大坂御城図**

寛永元年（一六二四）の大坂城公儀普請における諸大名の担当丁場を示す。愛知県名古屋市蓬左文庫所蔵。

**大阪城天守閣所蔵文書**

大阪城天守閣所蔵。

**大坪家文書**

越中国射水郡で十村役を務めた大坪家の家伝文書。高岡市立図書館所蔵。

**大成家所蔵文書**

詳細不明。『新修七尾市史』3・武士編（二〇〇一年）に収録。

**大野木日記**

加賀藩士大野木克寛（一六五五～一七二六）の日記。享保元年（一七一六）～宝暦四年（一七五四）に及ぶ。長山直治監修・髙木喜美子編『大野木克寛日記』一～六巻・別巻（桂書房、二〇一一年）に全文翻刻。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**大鋸コレクション**

郷土史家大鋸彦太郎氏の収集史・資料。石川県立

歴史博物館所蔵。

**岡部家文書**

能登国羽咋郡で十村役を務めた岡部家の家伝文書。宝達志水町所蔵。

**荻野家文書**

荻野家伝来の古文書群。先祖は越中国の地侍ないし有力百姓と思われるが詳らかではない。前田利長の富山入城を記す史料などが伝来。

**御国江公辺ゟ御目附衆御越御用一巻之事**

加賀藩穴生方後藤彦三郎（和睦。一七五五～一八二八）編。宝暦五年（一七五五）、巡見上使の金沢視察に関する記録。金沢市立玉川図書館（後藤文庫）所蔵。

**奥村尚寛御城方覚書**

奥村尚寛（一七五七～一八〇三）による金沢城関連の定書や旧記類の覚書。尚寛は加賀藩老臣奥村宗家の十代当主。寛政九年（一七九七）～享和二年（一八〇二）には金沢城代を務めた。その他『金沢城普請作事史料4』（石川県金沢城調査研究所、二〇一六年）を参照。

**御在国覚書**

延宝八年（一六八〇）～天和三年（一六八三）に至る藩主前田綱紀在国中の諸記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**御在国中御用留**

加賀藩の政務日記。延享二～同三年（一七四五～四六）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**御城高石垣之事等**

加賀藩穴生方後藤彦三郎（和睦。一七五五～一八二八）編著。文化年間（一八〇四～一八）に金沢城内の高石垣等に関する彦三郎の知見を整理したもの。『金沢城郭史料』（石川県図書館協会、一九七六年）に収録。金沢市立玉川図書館（後藤文庫）所蔵。

**御代々御書等**

前田利常～綱紀頃の書状類を収録（写本）。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**御判物并領知目録**

徳川将軍家が歴代加賀藩主に与えた領知判物の写等。慶長一九年（一六一四）～安政七年（万延元年。一

八六〇）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御判物并御書等写

歴代藩主の書状の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御湯殿上日記

室町期から江戸期に書き継がれた宮中の女官による日記。天皇や禁裏の動向を詳しく記録する。『続群書類従』補遺三に収録。

## 御横目書付留帳

加賀藩士中川長種（八郎右衛門。?～一七〇一）の留帳。万治三年（一六六〇）六月～八月にかけての横目役の報告書類。長種は当時、大横目。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御横目方抜書之内覚

加賀藩横目役の記録からの抜書。筆跡から編者は加賀藩士前田直躬（前田土佐守家五代当主。一七一四～七四）と推定できる。前田土佐守家資料館所蔵。

## 御歴代御書写

前田利家から綱紀に至る歴代藩主らの書状の写。金沢城玉泉院丸の造営に関する前田利常（利光）書状（石野友康「玉泉院永姫に関する一史料と発給文書」〔『研究紀要　金沢城研究』一三、二〇一五年〕に翻刻）などを収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御留守居詰御用留

加賀藩江戸留守居役の政務日記。内容から著者は前田孝情（内蔵助。一七二八～六一）と推定できる。宝暦七年（一七五七）から翌年に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御留守中留

延享元～同二年（一七四四～四五）における加賀藩の各種記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 温故雑録

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。元禄一六年（一七〇三）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 温故集録

森田柿園（一八二三～一九〇八）編著。明治二〇年（一八八七）成立。加賀藩関連の各種記録。『温故集録』一～五（金沢市立玉川図書館近世史料館、二〇〇三～一一年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 温故足徴

加賀藩士富田景周（一七四六～一八二八）編の古文書集（写本）。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 【か行】

### 懐恵夜話

加賀藩士由比勝生（一六三六～一七一九）編著。前田利長～綱紀期の逸話等を記載。『御夜話集』下編（石川県図書館協会、一九三四年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 改作方勤仕帳

加賀藩改作方関連の旧記や御定書等を収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 改作方雑留

加賀藩改作方関連の雑記録集。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 改作所旧記

別名「高沢録」。加賀藩士（改作奉行）高沢忠順（一七三一～九九）編著。万治元年（一六五八）～享保七年（一七二二）に及ぶ改作所関連の編年史料。『改作所旧記』上・中・下編（石川県図書館協会、一九三九年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）・石川県立図書館（森田文庫）所蔵。

### 加越能古文書写

前田家「御家禄方」編。明治三年（一八七〇）成立。加賀藩領に伝来した古文書の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 加越能三箇国高付帳

正保三年（一六四六）、幕府に提出された加賀・能登・越中三ヶ国の郷帳（村名・村高を記載。郷村高帳）の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 加越能三箇国村御印之留

明暦二年（一六五六）八月の「村御印」を集めたもの。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 加賀古文書

前田家編輯方編。加賀国関連の古文書集（写本）。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 可観小説

加賀藩士青地礼幹（一六七五～一七四四）編著。各種逸話類を雑然と収録。『可観小説』前・後編（金沢文化協会、一九三六年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 書付之跡書

加賀藩士中川長種（八郎右衛門。?～一七〇一）による雑記録。内題には万治四年（寛文元年。一六六一）の記載があるが、内容は万治三年（一六六〇）～寛文二年（一六六二）に及ぶ。長種は当時、大横目。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 可児才蔵誓文日記

一時前田利家に仕え、末森（末守）の合戦等に従軍した可児才蔵（一五五四～一六一三）の覚書という。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）等所蔵。

## 加州金沢城図

加賀藩士（兵学者）有沢永貞（一六三九～一七一五）「諸国居城之図」の一枚。元禄年間（一六八八～一七〇四）に作成された考証図。金沢市立玉川図書館（津田文庫）所蔵。

## 加州家御次日記

加賀藩の年代記。天文七年（一五三八）～安永八年（一七七九）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 甲子聞書

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。貞享元年（一六八四）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 葛巻昌興日記

加賀藩士葛巻昌興（一六五六～一七〇五）による延宝五年（一六七七）～元禄五年（一六九二）にわたる日記。別名「葛巻権佐日記」・「葛巻昌興筆記」。金沢市

立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**加藤覚書**

羽咋郡の十村役加藤家に伝来した御用留等の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**金沢尾崎神社文書**

金沢市尾崎神社所蔵。

**金沢市中古文書**

前田家編輯方編の古文書集（写本）。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**金沢東照宮造立棟札**

寛永二〇年（一六四三）の金沢東照宮創建時の棟札。金沢市尾崎神社所蔵。

**金沢文書**

前田家編輯方編の古文書集（写本）。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**加能越古文叢**

森田柿園（一八二三～一九〇八）編。加賀藩関連の編年古文書集（写本）。明治二二年（一八八九）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**加能越三箇国高物成帳**

寛文一〇年（一六七〇）に更新されたいわゆる「村御印」の写。編纂時の各村草高・免相も記す。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**兼見卿記**

神道家吉田兼見（一五三五～一六一〇）の日記。元亀元年（一五七〇）～慶長一五年（一六一〇）に及ぶ。『史料纂集　兼見卿記』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。

**金子文書**

越中国砺波郡で十村役を務めた金子家の家伝文書。『加賀藩初期十村役金子文書』（砺波市教育委員会、一九七六年）に収録。

**加藩国初遺文**

森田柿園（一八二三～一九〇八）編。加賀藩成立期の書状・覚書類を集成したもの（写本）。明治二一年（一八八八）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所

蔵。

**加藩十二冊定書**

加賀藩の法令集。文化二年（一八〇五）、加賀藩士村井長世（一七七六～一八二七）による写本。長世は加賀藩老臣村井家の八代当主。石川県立図書館（森田文庫）所蔵。

**加府大坂陣日記**

大坂の陣における前田利常らの動向記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**河北郡戸室山開之事等留帳**

加賀藩穴生方後藤彦三郎（和睦、一七五五～一八二八）による戸室山石切関連の通達類の留帳。『戸室石切丁場確認調査報告書』Ⅰ（石川県金沢城調査研究所、二〇〇八年）に収録。金沢市立玉川図書館（後藤文庫）所蔵。

**神尾文書**

加賀藩士神尾家に伝来した古文書の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**上梶家文書**

加賀藩初期に能登国鳳至郡で十村役を務めた上梶家の家伝文書。個人蔵。

**賀茂別雷神社所蔵文書**

京都市北区賀茂別雷神社所蔵。

**川合文書**

越中国砺波郡で十村役を務めた川合家の家伝文書。富山大学附属図書館所蔵。

**菅君雑録**

加賀藩士高畠定延（左門。一六九〇～一七六〇）編著。加賀藩や歴代藩主の動向を編年整理したもの。天文七年（一五三八）～延享四年（一七四七）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**菅家見聞集**

兵学者出口昌信（？～一七〇五）編著。加賀藩の動向を編年で記述する。天文七年（一五三八）から貞享元年（一六八四）に及ぶ。貞享二年（一六八五）以降に関する「続集」もあるが編者等は未詳。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 寛永間古文書写

寛永年間（一六二四～四四）を中心とする前田利常書状等の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 寛永諸家系図伝

江戸幕府編纂の諸大名・旗本らの家譜。寛永二〇年（一六四三）成立。国立公文書館（内閣文庫）所蔵本は『寛永諸家系図伝』第一～十五（続群書類従完成会、一九八〇～九四年）、日光東照宮所蔵本は『日光叢書寛永諸家系図伝』一～六（日光東照宮社務所、一九八九～九一年）を参照。

## 菅綱記

加賀藩士青地礼幹（一六七五～一七四四）編著。前田綱紀の事績を記述。別名青地本「参議公年表」。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 寛文元年二年日帳

金沢在の加賀藩重臣の執筆と考えられる日記。寛文元年（一六六一）から翌年に及ぶ。研究紀要『金沢城研究』第3号（金沢城研究調査室、二〇〇五年）の翻刻・解説を参照。石川県立図書館（森田文庫）所蔵。

## 加州郡方旧記

加賀藩の郡方に対する加賀藩の通達類を編年で収録。延宝六年（一六七八）～文政二年（一八一九）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 義演准后日記

醍醐寺三宝院の義演准后（一五五八～一六二六）の日記。慶長元年（一五九六）～寛永三年（一六二六）に及ぶ。『史料纂集　義演准后日記』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。京都市伏見区醍醐寺所蔵。

## 聞書

天和二年（一六八二）～宝暦八年（一七五八）の藩主動向等を記載。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 菊池文書

越中国砺波郡で十村役を務めた菊池家の家伝文書。富山大学附属図書館所蔵。

## 木倉豊信氏蒐集文書

富山県の郷土史家木倉豊信氏の収集にかかる古文書群。東京大学史料編纂所影写本。

## 北野大茶湯之記

天正一五年（一五八七）一〇月一日、豊臣秀吉による京都北野での大茶会の記録。『茶道古典全集』六（淡交新社、一九五八年）に収録。

## 北信愛覚書

天正一五年（一五八七）、加賀国金沢を訪れ、前田利家に饗応された北信愛（南部信直の家臣。一五二三〜一六一三）の覚書。瀬戸薫「『北信愛覚書』について―天正十五年の金沢城―」（『加能史料研究』一二、二〇〇〇年）を参照。

## 黄薇古簡集

岡山藩士斎藤一興編。岡山藩領に伝存する古文書の写。寛政五年（一七九三）成立。『岡山県の中世文書―黄薇古簡集―』（戎光祥出版、二〇一六年）に収録。

## 旧記

白山市呉竹文庫所蔵。手取川河口の今湊等に関連した禁制・触書等を収録。

## 旧記雑録後編

薩摩藩島津家関連の古文書・記録類を書写・整理したもの。『鹿児島県史料　旧記雑録後編』一〜六（鹿児島県、一九八一〜八六年）に収録。東京大学史料編纂所所蔵。

## 旧鶴来町立博物館所蔵文書

旧鶴来町（現石川県白山市）立博物館所蔵。天正一三年（一五八五）の発給と見られる前田利家黒印状（三月二五日付）を含む。

## 旧藩遺文

森田柿園（一八二三〜一九〇八）編。藩政初期の藩主等書状の写。明治三二年（一八九九）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 京極文書

元和年間（一六一五〜二四）の大坂城公儀普請関連史料。大阪城天守閣所蔵。

## 京都御立寄之一巻

加賀藩士大野木克明（一六五五〜一七二六）編著。享保五年（一七二〇）、前田綱紀が就封の途上、京都へ立ち寄った時の記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**禁中猿楽御覧記**

公家近衛信尹（一五六五～一六一四。三藐院）による文禄二年（一五九三）一〇月に催された禁中能の見聞記録。『史料纂集　三藐院記』（続群書類従完成会・八木書店）に収録。

**公卿補任**

公卿の氏名を列記し、略歴等を注記した編纂史料。『新訂増補国史大系』（吉川弘文館）に収録。

**国田文書**

東京大学史料編纂所影写本。前田利家の病状を問う（慶長四年〔一五九九〕）三月一三日付徳川家康書状等を収載。

**黒田家文書**

福岡藩黒田家伝来の古文書群。『黒田家文書』第一巻～第三巻（福岡市博物館、一九九九～二〇〇五年）を参照。福岡市所蔵。

**桑原家所蔵文書**

詳細不明。七尾市教育委員会文化課編『前田利家と能登・七尾』（二〇〇二年）に収録。

**慶安四年抄**

詳細不明。『加賀藩史料』第参編に収録。

**慶長三年誓紙前書**

慶長三年（一五九八）、豊臣秀吉の死去前後に徳川家康・前田利家ら諸大名が提出した起請文前書を書き留めたもの。東京大学史料編纂所謄写本。

**慶長日件録**

公家舟橋秀賢（一五七五～一六一四）の日記。慶長五～同一八年（一六〇〇～一三）に及ぶ。『史料纂集　慶長日件録』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。

**慶長年中より寛永年中迄御城廻御普請御手伝御務之趣公儀江被仰出候記録**

慶長～寛永年間（一五九六～一六四四）の大坂城普請等、公儀普請の記録。山口県文書館（毛利家文庫）所蔵。

**系譜**

詳細不明。『加賀藩史料』第弐編に収録。

## 気多神社文書

気多神社（能登国一宮）伝来の古文書群。『史料纂集気多神社文書』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。羽咋市気多神社所蔵。

## 謙信公諸士来書

米沢藩上杉家、ことに上杉謙信関連の古文書の写。米沢市上杉博物館所蔵。

## 謙徳公御代日記

前田重熙（謙徳公）期の加賀藩の動向を記載。寛延四年（一七五一）～宝暦三年（一七五三）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 謙徳公御年表

前田重熙（謙徳公）の年譜。享保一四年（一七二九）～宝暦三年（一七五三）に及ぶ。石川県立図書館（森田文庫）所蔵。

## 元和十年以来江戸・大坂尤禁裏御普請事

元和一〇年（寛永元年。一六二四）以降の大坂城普請等、公儀普請の記録。山口県文書館（毛利家文庫）所蔵。

## 元和六年案紙

伊勢国津藩主藤堂高虎（一五五六～一六三〇）関連の文案集。朝尾直弘「「元和六年案紙」について」（『朝尾直弘著作集』四、岩波書店、二〇〇四年）に収録。京都大学文学部所蔵。

## 元和六年書状案

詳細不明。『加賀藩史料』第弐編に収録。

## 元禄雑記

加賀藩士葛巻新蔵（大野木克明。一六五五～一七二六）の日記。元禄五～同一五年（一六九二～一七〇二）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 公儀御用留書

寛文八年（一六八八）～延宝二年（一六七四）に至る大横目役の記録。中川長種・津田源右衛門・多賀左近直定の書状を主に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 幸田成友所蔵文書

東京大学史料編纂所影写本。大阪市史編纂所幸田成友氏蔵本。

## 高卑雑談

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。貞享元年（一六八四）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 江府天守台修築日記

万治元年（一六五八）、加賀藩前田家が江戸城修築に動員された際の奥村庸礼による記録。翻刻・解説は『城郭石垣の技術と組織』（石川県金沢城調査研究所、二〇一二年）を参照。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 弘文叢古文書目録

古書資料の売立目録掲載の古文書。現在の所蔵先等、詳細不明。

## 国事雑抄

森田柿園（一八二三～一九〇八）編。加賀藩関連の法令等の抄録。『国事雑抄』上・中・下編（石川県図書館協会、一九三一～三三年）に収録。石川県立図書館（森田文庫）・金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 国祖遺言

前田知好（利家の三男。一五九〇～一六二八）編著。前田利家の言行録等。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 護国公年譜

加賀藩士木村信尹（兵郡。?～一八二一）編著。前田吉徳（護国公）の年譜。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 古今御定書

延宝五年（一六七七）成立。承応～寛文年間（一六五二～七三）の法令集。別名「四冊之御定書」。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御親翰写

前田利常以降の藩主「御親翰」の写。前田直行（加賀藩老臣前田土佐守家十一代当主。一八六六～一九四三）旧蔵。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 御親翰類

前田綱紀ら歴代藩主の書状等の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**古蹟文徴**
加賀藩前田家に伝来した古文書群。前田育徳会（尊経閣文庫）所蔵。

**後撰芸葉**
加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編。貞享二年（一六八五）成立。鎌倉～江戸期の書状等六〇〇点余の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**後藤家文書**
京都の金工後藤家の家伝文書の写。前田利常に招かれた後藤覚乗（一五八九～一六五六）関連の古文書等。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**古文章大全**
寛永～万治年間（一六二四～六一）の書状等の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**駒井日記**
豊臣秀次の右筆とされる駒井重勝（?～一六三五）の日記（写本）。文禄二～同四年（一五九三～九五）に及ぶ。『改定史籍集覧』（第二五冊）、藤田恒春編『増補駒井日記』（文献出版、一九九二年）に収録。

**小松旧記**
法令など加賀国小松に関する項目別の各種史料。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**小松御城番勤方帳**
小松城番の設置や勤方等に関する記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**小宮山文書**
越前国敦賀で廻船業を営んだ高島屋伝来の古文書群。高島屋は天正～寛永年間（一五七三～一六四四）には加賀藩の蔵宿であった。石川県立歴史博物館所蔵。

**古文書纂**
東京大学史料編纂所写真帳（京都大学文学部原蔵）。

**古文書集**
京都大学総合博物館所蔵。

**御用所日記抄**
加賀藩の政務記録。一冊目は元禄一二年（一六九九）～享保一〇年（一七二五）、二冊目は安永九年（一

七八〇）～文化八年（一八一一）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**近藤文書**

詳細不明。『加賀藩史料』第壱編に収録。

## 【さ行】

**榊原家所蔵文書**

別名「松平義行所蔵文書」。東京大学史料編纂所謄写本。

**佐々木信綱氏所蔵文書**

東京大学史料編纂所影写本。（天正一一年〔一五八三〕）四月二八日付羽柴秀吉書状（『豊臣秀吉文書集』一、吉川弘文館、二〇一五年。六六〇号文書）を収載。

**篠島家文書**

加賀藩士（人持組）篠島家の家伝文書。石川県立郷土資料館紀要第八号『加賀藩人持組篠島家文書』（石川県立郷土資料館、一九七六年）を参照。石川県立歴史博物館寄託。

**佐竹文書**

東京大学史料編纂所影写本。佐竹氏の便僧の伝馬について定める（天正一四年〔一五八六〕）五月二三日付豊臣秀吉印判状写（『豊臣秀吉文書集』三、吉川弘文館、二〇一七年。一八九二号文書）を収載。

**雑録備考抄附録**

加賀藩士庄田正守（九兵衛。一六三七～一七〇八）の日記など、延宝年間（一六七三～八一）以降の藩政関連史料の抜粋。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**三箇国御領分之次第**

加賀藩士（兵学者）有沢武貞（一六八二～一七三九）編著。加賀藩領の成立経緯について簡略に整理する。加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編『壬寅妄志』に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**参議公年表**

前田綱紀の年譜。天和四年（貞享元年。一六八八）から享保九年（一七二四）に及ぶ。成立年代等未詳。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 参勤二付被遣物・被下物品々留帳

加賀藩士寺岡与兵衛による正保二年（一六四五）から翌年にかけての進物等の覚書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 三重塔相輪露盤銘

石川県小松市那谷寺三重塔の屋根上部に取り付けられた露盤の銘文。寛永一九年（一六四二）九月吉日との年紀や前田利常の名が確認できる。

## 三百二条旧記

越中新川郡石割村十村の杉木氏による正保～文化年間（一六四四～一八一八）の各種法令集。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 時慶記

公家西洞院時慶（一五五二～一六三九）の日記。天正一五年（一五八七）～寛永一六年（一六三九）に至る一七年分が現存。『時慶記』（本願寺出版社・臨川書店、二〇〇一～一六年。刊行中）に収録。

## 私心記

順興寺実従（蓮如の二七子。一四九八～一五六四）の日記。天文元年（一五三二）～永録四年（一五六一）に及ぶ。上松寅三編『石山本願寺日記』下巻（大阪府立図書館長今井貫一君在職二十五年記念会、一九三〇年）に収録。堺市真宗寺等所蔵。

## 自他群書

加賀藩陪臣森田盛昌（一六六七～一七三二）編著。『三壺聞書』以降の加賀藩の動向等を記載。『自他群書』（石川県図書館協会、一九三七年）に収録。享保七年（一七二二）成立。石川県立図書館（森田文庫）所蔵。

## 慈性日記

僧侶慈性（一五九三～一六六三）の日記（抄出本）。慶長一九年（一六一四）から寛永二〇年（一六四三）に及ぶ。慈性は天台宗の門跡寺院青蓮院の院家尊勝院の住持などを務めた。滋賀県犬上郡多賀町安養寺所蔵。

## 篠原家文書

加賀藩士篠原家の家伝文書。石川県立歴史博物館所蔵。

## 柴田退治記

大村由己（梅庵。？～一五九六）の述作「天正記」八

巻（現存分）のうちの一巻。賤ヶ岳合戦を叙述する。『群書類従』合戦部（巻三九一）・『続群書類従』合戦部（巻五八七）に収録。

## 渋谷家文書

中川宗半（光重。一五六二～一六一四）に仕え、大坂の陣後、帰農したとされる越中国射水郡渋谷家の家伝文書。

## 思文閣古書資料目録

古書資料の売立目録掲載の古文書。現在の所蔵先等、詳細不明。

## 島田家文書

前田利常の隠居に関する（寛永一六年〔一六三九〕）七月二〇日付前田利治（利常の三男）書状等を含む。金沢市立玉川図書館所蔵（郷土資料）。

## 島津家文書

薩摩藩島津家の伝来文書。東京大学史料編纂所編『大日本古文書　家わけ文書十六　島津家文書』を参照。東京大学史料編纂所所蔵。

## 集珠

寛文元年（一六六一）から同九年に至る藩主前田綱紀の動向等を記載。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 袖裏雑記

加賀藩士奥村尚寛（一七五七～一八〇三）編著。尚寛は加賀藩老臣奥村宗家の十代当主。加賀藩の各種法令を記載する。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 聚楽行幸記

大村由己（梅庵。？～一五九六）の述作「天正記」八巻（現存分）のうちの一巻。天正一六年（一五八八）四月の後陽成天皇の聚楽第行幸を記録する。『群書類従』帝王部（巻四一）に収録。

## 舜旧記

豊国社の神官梵舜（一五五三～一六三二）の日記。天正一一年（一五八三）～寛永九年（一六三二）に及ぶ。『史料纂集　舜旧記』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。

**浚新秘策**

加賀藩士青地礼幹（一六七五～一七四四）編著。享保～元文年間（一七一六～四一）の加賀藩の動向等を詳述する。寛保四年（一七四四）成立。『浚新秘策』（金沢文化協会、一九三五年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**准如様御筆御影御賛御裏書**

龍谷大学大宮図書館所蔵。

**松雲院様御近習向留帳抜粋**

前田綱紀（松雲院）に近侍した多賀直方（信濃。一六五一～一七三三）による各種留書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**松雲院他書簡写**

前田綱紀（松雲院）ら歴代藩主の書状の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**松雲公御書翰写**

前田綱紀（松雲公）の書簡一一通の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**松雲公採集遺編類纂**

森田柿園（一八二三～一九〇八）編。成立年代・経緯等未詳ながら、加賀藩伝来および前田家編輯方収集にかかる文書を森田柿園が筆写してものと推定される。全一九〇冊。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**松雲公日記**

寛文元年（一六六一）、前田綱紀（松雲公）の江戸日記。『金沢市史』資料編3・近世一（一九九九年）に収録。前田育徳会（尊経閣文庫）所蔵。

**松雲公夜話**

加賀藩士中村克正（典膳。一六三二～一七〇四）編著。前田綱紀（松雲公）の言行録等。『御夜話集』下編（石川県図書館協会、一九三四年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**私用覚書**

詳細不明。『加賀藩史料』第弐編に収録。

**勝興寺文書**

富山県高岡市の勝興寺に伝来した古文書群。

## 貞享二年寺社由緒書上

貞享二年（一六八五）、加賀藩が領内すべての寺社に提出させた由緒書上。石川県立図書館所蔵。

## 照顕寺文書

富山県魚津市の照顕寺に伝来した古文書群。

## 上使

慶安元年（一六四八）・同三年・万治元年（一六五八）・貞享元年（一六八四）の幕府上使関連の文書を収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 諸家所蔵文書写

諸家所蔵の加賀藩関連文書の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 諸事覚書

寛文四～五年（一六六四～六五）における雑多な書付。著者等不明。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 諸事跡書

加賀藩士中川長種（八郎右衛門。？～一七〇一）の政務記録。

## 賜芦文庫文書

幕臣新見正路（一七九一～一八四八）の収集文書。賜芦文庫は新見の文庫名。東京大学史料編纂所影写本。

## 壬子集録

寛文一二年（一六七二）の加賀藩士・寺社などの書付類。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 壬申雑篇

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。元禄初年頃の見聞記。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 信長公記

太田牛一（一五二七～一六一三）編著。織田信長の伝記史料。奥野高広・岩沢愿彦校注『信長公記』（角川文庫、一九六九年）等に収録。

## 新山田畔書

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。元

禄九年（一六九六）成立。『三壺聞書』の抜書という。別名「三壺記抜書」。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 新羅之記録

松前藩士松前景広（一六〇〇～五八）編著。初期松前藩の動向を記した編纂史料。景広は松前藩初代藩主松前慶広（一五四八～一六一六）の六男。正保三年（一六四六）成立。

## 瑞龍公親翰

詳細不明ながら前田育徳会（尊経閣文庫）所蔵の前田利長書状と推測できる。『加賀藩史料』第壱編に収録。

## 末森記

天正一二年（一五八四）の末森（末守）合戦を叙述する。『群書類従』合戦部（巻三九二）、『前田氏戦記集』（石川県図書館協会、一九三五年）に収録。

## 杉原謙氏所蔵文書

東京大学史料編纂所影写本。杉原氏は越後国蒲原郡の地侍水原氏の末裔。米沢市上杉博物館寄託。

## 寸金雑録

編者等不明の古文書集。東京大学史料編纂所謄写本。

## 駿府記

慶長一六～同二〇年（一六一一～一五）に及ぶ徳川家康の動静を記す。後年の「江戸幕府日記」同様、幕府の公的記録とも推測される。家康側近の執筆と考えられるが、著者は定かではない。『史籍雑纂』第二に収録。

## 西笑和尚文案

相国寺の禅僧西笑承兌（一五四八～一六〇七）の書状案文等。承兌は豊臣秀吉・徳川家康のもとで寺社行政や外交文書の作成に携わった。『相国寺蔵西笑和尚文案』（思文閣出版、二〇〇七年）に翻刻されている。京都市上京区相国寺所蔵。

## 政隣記

加賀藩士津田政隣（一七五六～一八一四）による詳細な加賀藩年代記。全三一冊のうち、安永七年（一七七八）までを扱う一一冊目までの内題は「記録」、それ以降の冊子の内題は「耳目甄録」とあるが、外題は

「政隣記」で統一されている。天文七年（一五三八）～文化一一年（一八一四）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**絶家判印物写**

絶家となった加賀藩士所持の判物の写。外題は「絶家判物写」。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**専光寺文書**

金沢市専光寺に伝来した古文書群。北西弘『金沢専光寺文書』（北国出版社、一九八五年）にて翻刻・解説がなされている。

**千秋邦彦氏所蔵文書**

加賀藩士千秋家の家伝文書。石川県立歴史博物館寄託。

**善徳寺文書**

富山県城端町善徳寺所蔵。

**選仏院様御代**

加賀藩士村井親長（選仏院。一六五二～一七一一）関連の村井家文書の写。親長は加賀藩老臣村井家の五代当主。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**宗湛日記**

博多の豪商・茶人神屋宗湛（一五五三～一六三五）の茶会記。天正一四年（一五八六）～慶長一八年（一六一三）に及ぶ。『茶道古典全集』六（淡交新社、一九五八年）に収録。

**祖武雙璧**

大坂の陣における前田利常の書状二通を、前田綱紀が巻子に仕立てたもの。前田育徳会（尊経閣文庫）所蔵。

## 【た行】

**泰雲公御年表**

前田重教（泰雲公）の年譜。石川県立図書館森田文庫所蔵「御年表」（天珠公・泰雲公・太梁公）に合冊。

**泰雲公御年譜**

森田良郷（柿園の父。一七九〇～一八五七）ら編著。前田重教（泰雲公）の年譜。宝暦四年（一七五四）～明和

八年（一七七〇）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 大応公御年譜

前田宗辰（大応公）の年譜。享保一〇年（一七二五）～延享元年（一七四四）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 大応公年表

前田宗辰（大応公）の年譜。享保一〇年（一七二五）～延享四年（一七四七）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 大工頭中井家文書

近世初頭の大工頭中井正清（大和守。一五六五～一六一九）やその子孫関連の古文書群。江戸城や大坂城といった公儀普請関連の史料を豊富に伝える。高橋正彦編『大工頭　中井家文書』（慶応通信、一九八三年）にて翻刻・解説がなされている。

## 太閤記

小瀬甫庵（一五六四～一六四〇）による太閤豊臣秀吉の伝記。誕生から慶長三年（一五九八）の醍醐の花見までを描く。寛永二年（一六二五）自序。甫庵は晩年、加賀藩（前田利常）に仕えたため、一部その記載に加賀藩士の見聞等も反映されている。岩波文庫等に収録。

## 大かうさまくんきのうち

太田牛一（一五二七～一六一三）編著。太閤豊臣秀吉の動向や関白豊臣秀次の切腹等を描写する。慶長一〇年（一六〇五）頃の成立。慶應義塾大学付属研究所斯道文庫編『大かうさまくんきのうち』（汲古書院、一九七五年）に収録。

## 醍醐花見之和歌

慶長三年（一五九八）三月一五日、太閤豊臣秀吉による醍醐の花見における和歌短冊の写。

## 大宝寺義勝上洛日記

出羽庄内の領主大宝寺義勝（一五七三～一六二三）の日記。天正一七年（一五八九）、上洛の途上、金沢を訪れている。『上越市史』別編二（二〇〇四年）所収、北海道本庄俊長氏所蔵。

## 当摩氏文書

能登国鹿島郡の十村役当摩家伝来の書状の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 太陽コレクション所蔵文書

展示図録『大信長展』（一般財団法人太陽コレクション、二〇一六年）を参照。一般財団法人太陽コレクション所蔵。

## 高岡町人由緒記

越中国高岡町人の由緒書を合冊したもの。高岡築城・城下町整備に関する書状類も確認できる。金沢市立玉川図書館（郷土資料）所蔵。

## 孝亮宿祢記

地下官人壬生孝亮（一五七五～一六五二）の日記。文禄四年（一五九五）～寛永一一年（一六三四）に及ぶ。『改定史籍集覧』（第二五冊）に一部収録。

## 高畠家文書

加賀藩士高畠家の家伝文書。高畠定吉らに櫓・屋形門の構築等を指示する（慶長四年〔一五九九〕）九月二八日付前田利長覚書（大西泰正「織豊期前田氏権力の形成と展開」〔同『前田利家・利長』戎光祥出版、二〇一六年〕に翻刻）等を収録。金沢市立玉川図書館（郷土資料）所蔵。

## 高畠左門留帳

加賀藩士高畠定延（左門。一六九〇～一七六〇）の日記。寛延元年（一七四八）～宝暦五年（一七五五）に及ぶ。定延は当時、小松御馬廻番頭。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 滝川文書

豊臣秀吉や徳川家康に仕え、最終的に尾張藩徳川家の家老となった滝川忠征関連の古文書群。佐藤進一・三鬼清一郎「名古屋大学文学部所蔵滝川文書」（『名古屋大学文学部研究論集』史学23、一九七六年）を参照。名古屋大学文学部所蔵。

## 沢存

前田利長・利常・光高らの書状の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 多賀家古文書

加賀藩士多賀家伝来の書状等の写。金沢市立玉川

図書館（加越能文庫）所蔵。

## 高爪神社所蔵文書

金沢城への落雷を伝える六月一五日付前田利家書状等を収載。志賀町高爪神社所蔵。

## 武部家文書

越中国砺波郡の十村役武部家の家伝文書。金沢市立玉川図書館所蔵。

## 伊達家治家記録

仙台藩伊達家の正史。伊達輝宗（政宗の父。一五四四～八五）から一三代藩主慶邦（一八二五～七四）に及ぶ。

## 伊達家文書

仙台藩伊達家伝来の古文書群。東京大学史料編纂所編『大日本古文書　家わけ文書三　伊達家文書』を参照。

## 田中穣氏旧蔵文書

京都の呉服商に生まれた田中教忠（勘兵衛）によって明治から昭和初期に収集された古文書・古典籍群。田中穣氏は教忠の孫にあたる。国立歴史民俗博物館所蔵。

## たもと草

加賀藩士由比勝生（一六三六～一七一九）による雑記録。元禄一〇年（一七〇一）頃～宝永三年（一七〇六）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 多聞院日記

戦国から江戸初期に書き継がれた興福寺多聞院主の日記。『増補続史料大成　多聞院日記』（臨川書店）を参照。

## 親綱卿記

公家中山親綱（一五四四～九八）の日記。欠落が多いが天正一五年（一五八七）～慶長元年（一五九六）に及ぶ。

## 中納言様御在国中御進物被下物之帳

加賀藩士寺岡与兵衛による万治元年（一六五八）から翌年にかけての進物等の覚書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 中納言様御在国中御進物帳

加賀藩士寺岡与兵衛による明暦二年（一六五六）から翌年にかけての進物等の覚書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 中納言様御分御留守中方々御進物帳

加賀藩士寺岡与兵衛による承応三年（一六五四）から翌年にかけての進物等の覚書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 長家文書

加賀藩士（年寄）長家に伝来した古文書群。個人蔵。

## 庁事通載

田正元編著。寛政二年（一七九〇）成立。加賀藩領の触書や旧記などを収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 勤方之覚

加賀藩穴生方後藤杢兵衛（友和。一六九〇～一七六四）の覚書。宝暦九年（一七五九）二月の執筆。『金沢城郭史料』（石川県図書館協会、一九七六年）に収録。金沢市立玉川図書館（後藤文庫）所蔵。

## 経遠口宣案

公家甘露寺経遠が、発給に携わった口宣案を書き留めたもの。木下聡『豊臣期武家口宣案集』（東京堂出版、二〇一七年）を参照。国立公文書館（内閣文庫）所蔵。

## 輝元公上洛日記

毛利家家臣平佐就言編著。天正一六年（一五八八）に上洛した毛利輝元らの動向を記録する。三坂圭治校注『毛利史料集』（人物往来社、一九六六年）に「天正記」の書名で収録。

## 天寛日記

徳川家康・秀忠・家光期の幕府の動向を編年体にまとめた編纂史料。文化八年（一八一一）成立。国立公文書館（内閣文庫）等所蔵。

## 天十物語

富山県道善寺所蔵。

## 天珠公御年表

前田重靖（天珠公）の年譜。石川県立図書館森田文庫所蔵『御年表』に前田重教（泰雲公）・治脩（太梁公）の年譜と合冊されている。

## 典制彙纂

加賀藩の法令を分類して収める。藩法研究会編『藩法集四　金沢藩』（創文社、一九六三年）に収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 天王寺屋会記

堺の豪商天王寺屋津田家の茶会記。記載の多くは津田宗及（?～一五九一）の茶湯記録で占められる。

## 天文日記

本願寺証如（一五一六～五四）の日記。天文五～同二三年（一五三六～五四）に及ぶ。上松寅三編『石山本願寺日記』上巻（大阪府立図書館長今井貫一君在職二十五年記念会、一九三〇年）に「証如上人日記」として収録。西本願寺所蔵。

## 天文年中以来之写

加賀国河北郡、のち能登国鹿島郡で十村役を務めた河合家に伝来した記録の一つ。天文～明暦年間（一五三二～一六五八）に至る通達類を写す。金沢市立玉川図書館（河合文庫）所蔵。

## 東京国立博物館所蔵文書

東京国立博物館所蔵。

## 当代記

近世初期の政治・社会を編年的に叙述する。著者・成立年代ともに不明ながら、用語・内容等から同時代の編纂史料である可能性が高い。文禄～慶長年間（一五九二～一六一五）の政治・社会史を考える基礎的史料の一つ。『史籍雑纂』第二に収録。

## 遠田日記

加賀藩士遠田勘右衛門（自省。一六七〇～一七五〇）の日記。勘右衛門は前田吉徳～重熙の近習を務めた。享保三年（一七一八）～寛延三年（一七五〇）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 藤堂文書

伊勢国津藩藤堂家伝来の文書群。前田利家による徳川家康伏見邸訪問を報じる（慶長四年）二月二九日

付家康書状を収載。東京大学史料編纂所影写本。

## 東武実録

幕臣松平忠冬（一六二四～一七〇二）編著。徳川秀忠の事績を叙述する。貞享元年（一六八四）成立。

## 言経卿記

公家山科言経（一五四三～一六一一）の日記。天正四年（一五七六）～慶長一三年（一六〇八）に及ぶ。東京大学史料編纂所編『大日本古記録　言経卿記』を参照。東京大学史料編纂所所蔵。

## 徳川実紀

江戸幕府編。徳川家康から家治までの江戸幕府・将軍の事績を叙述する。天保一四年（一八四三）成立。『新訂増補国史大系』（吉川弘文館）に収録。

## 徳川美術館所蔵文書

愛知県名古屋市徳川美術館所蔵。（慶長四年〔一五九九〕）九月二七日付前田利長書状・（慶長七年）一一月一五日付徳川秀忠書状（原史彦「新出史料「前田利長書状　堀秀治宛」「堀家文書」「徳川秀忠書状　越前宰相（結城秀康）宛」について」〔『尾陽』七、二〇一一年〕に翻刻）等を収載。

## 利家公御代之覚書

前田利家・利長に仕えた村井長明（長頼の子。一五八二～一六四四）による前田利家の言行録。前田綱紀の命名による「陳善録」や、「亜相公御夜話」等の別称あり。『改定史籍集覧』（第一三冊）には「利家夜話」、『御夜話集』上編（石川県図書館協会、一九三三年）には「亜相公御夜話」として収録される。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 利長公御代之おほへ書

前田利家・利長に仕えた村井長明（長頼の子。一五八二～一六四四）による前田利長の言行録。前田綱紀の命名による「象賢紀略」の別称あり。『御夜話集』上編（石川県図書館協会、一九三三年）には「象賢紀略」として収録される。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 富田文書

東京大学史料編纂所所蔵。加賀藩士富田家の伝来文書群。賤ヶ岳合戦前後の前田利家の動向を示す史料などが現存。

**十村後藤家文書**

加賀国石川郡の十村後藤家に伝来した文書群。そのうち天正九年（一五八一）九月一二日付佐久間盛政書状を参照。『金沢市史』資料編2・中世二（二〇〇一年）掲載の「金沢市後藤修氏所蔵」文書の写真・翻刻に拠る。個人蔵。

**十村田辺家文書**

加賀国石川郡の十村田辺家に伝来した文書群。個人蔵。

**豊国神社所蔵文書**

京都市東山区豊国神社所蔵。

## 【な行】

**中川克典所蔵古文書**

おもに中川宗半（光重。一五六二～一六一四）関連の古文書の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**中川長定覚書**

加賀藩士中川長定（式部。一六七五～一七三九）の政務日記。享保元年～同二〇年（一七一六～三五）に及ぶ。長定は当時、家老役兼若年寄。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**中村不能斎採集文書**

東京大学史料編纂所所蔵写本。

**中山家文書**

加賀国宮腰町の年寄役を務めた中山家の家伝文書。個人蔵。

**那谷寺文書**

小松市那谷寺所蔵の古文書。那谷寺の本堂や三重塔は、前田利常によって寛永一七年（一六四〇）から正保元年（一六四四）にかけて再興されたもの。

**鍋島勝茂譜考補**

佐賀藩編。藩主鍋島勝茂（一五八〇～一六五七）の事績を叙述する。享保年間（一七一六～三六）の成立と考えられている。

**南部晋所蔵文書**

東京大学史料編纂所謄写本（『国別文書』）。（寛永六年〔一六二九〕）四月二三日付前田利常書状写等を収載。

## 西末寺由来書

金沢の本願寺末寺の由緒書と思われる。詳細は不明。『加賀藩史料』第壱編に収録。

## 西村小六氏所蔵文書

東京大学史料編纂所影写本。金沢入城を報じる（天正一一年〔一五八三〕）四月二八日付羽柴秀吉書状（『豊臣秀吉文書集』一、吉川弘文館、二〇一五年。六五九号文書）を収載。

## 新田宇一郎氏所蔵文書

東京大学史料編纂所影写本。天徳院の死去を報じる（元和八年〔一六二二〕）七月二五日付和久半左衛門書状（『大日本史料』一二―四五）を収載。

## 日記頭書

加賀藩の動向を編年で記述する。延享二年（一七四五）～宝暦五年（一七五五）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 丹羽家譜伝

二本松藩丹羽家の家譜。藩祖丹羽長重（一五七一～一六三七）は小松城主時代の慶長五年（一六〇〇）、浅井畷の合戦で前田利長と交戦後、和睦している。『新修小松市史』資料編一・小松城（一九九九年）に一部収録。丹羽長聡氏所蔵。

## 丹羽長聡氏所蔵文書

二本松藩丹羽家の家伝文書。慶長五年（一六〇〇）九月一八日付前田利長血判起請文（『新修小松市史』資料編一・小松城、一九九九年。一六八号文書）を含む。丹羽長聡氏所蔵。

## 丹羽歴代年譜

二本松藩丹羽家の家譜。藩祖丹羽長重（一五七一～一六三七）は小松城主時代の慶長五年（一六〇〇）、浅井畷の合戦で前田利長と交戦後、和睦している。『新修小松市史』資料編一・小松城（一九九九年）に一部収録。

## 能登古文書

前田家編輯方編。能登国関連の古文書集（写本）。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 信連記

長谷部信連とその子孫長家（長連龍・連頼ら）につ

いて記した編纂史料。『三壺聞書』と作者を同じくするとの古伝承もある。『長氏と畠山氏』（石川県図書館協会、一九三四年）に「長谷部信連記」として収録。

## 【は行】

### 幕府御目付巡見接待等に付書上げ

万治二年（一六五九）、幕府上使の接待等に関する記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 閥閲録遺漏

萩藩毛利家家臣所蔵の古文書等から成る「閥閲録」（享保一〇年〔一七二五〕成立）に漏れた史料の集成。萩藩が天保～文久年間に編纂。『萩藩閥閲録遺漏』（山口県文書館、一九七一年）に収録。山口県文書館（毛利家文庫）所蔵。

### 服部玄三氏所蔵文書

東京大学史料編纂所影写本。（慶長四年〔一五九九〕三月二一日付前田利長書状（大西泰正「織豊期前田氏権力の形成と展開」〔同『前田利家・利長』戎光祥出版、二〇一六年〕に翻刻）を収載。

### 藩侯御書写

前田綱紀の書状写二三通を収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 万跡書帳

寛永二〇年（一六四三）における加賀藩士奥村易英（因幡。一五七一～一六四三）関連の公用書面の留帳。易英は加賀藩老臣奥村支家の初代。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 肥後国熊本様子聞書

長州藩毛利家による内偵調査記録。加藤清正死没前後の熊本の様子等を記録する。『新熊本市史』史料編三・近世一（一九九四年）に収録。山口県文書館（毛利家文庫）所蔵。

### 肥前小城鍋島文書

肥前小城藩鍋島家の家伝文書。東京大学史料編纂所影写本。

### 一柳殿御預之記

寛文五年（一六六五）に改易のうえ加賀藩に預けられた伊予西条藩主一柳直興（監物。一六二四～一七〇二）

に関する記録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 日野町小西伝左衛門氏文書

文禄三年（一五九四）、太閤豊臣秀吉による蒲生氏郷邸への式正御成の記録。史料の所在等、詳細不明。『近江日野町志』巻上（一九三〇年）に収録。

## 武家事紀

山鹿素行による歴史書。戦国～江戸初期を主たる対象に、武家個人の伝記やその書簡を数多く収録する。延宝元年（一六七三）成立。山鹿素行先生全集刊行会による活字本三冊（一九一五～一八年）が刊行されている。

## 藤田内蔵允書状控

加賀藩士藤田安勝（内蔵允。一六四〇～一七二四）書状の写。清泰院（前田光高正室）没後、その江戸牛込邸が加賀藩に無断で、幕府によって尾張徳川家へ譲られた一件について記載する。前田育徳会（尊経閣文庫）・金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 譜牒余録

江戸幕府編。大名・旗本などの家譜・古文書等を収載。寛政一一年（一七九九）成立。国立公文書館（内閣文庫）等所蔵。

## 文京区本郷井上書店目録

古書資料の売立目録掲載の古文書。現在の所蔵先等、詳細不明。

## 文禄三年卯月八日豊太閤前田亭御成次第

文禄三年（一五九四）、太閤豊臣秀吉による前田利家邸への式正御成の記録。『群書類従』武家部（巻四〇九）には「文禄三年卯月八日加賀之中納言殿江御成之事」、『続群書類従』武家部（巻六六三）には「文禄三年前田亭御成記」、『改定史籍集覧』（第二五冊）には「豊太閤入御亜相第記」として収録される。前田育徳会（尊経閣文庫）等所蔵。

## 文禄中日記紙背文書

「文禄中日記」は相国寺の禅僧西笑承兌（一五四八～一六〇七）の日記。『相国寺蔵西笑和尚文案』（思文閣出版、二〇〇七年）から、日記の紙背に残された文禄元年（一五九二）六月六日付西笑承兌書状を参照す

る。京都市上京区相国寺所蔵。

## 文禄年中以来等之旧記

加賀藩穴生方後藤彦三郎（和睦。一七五五～一八二八）編著。金沢城関連の古伝承等。金沢市立玉川図書館（後藤文庫）・横山隆昭氏所蔵。後藤文庫所蔵本は『金沢城郭史料』（石川県図書館協会、一九七六年）、横山隆昭氏所蔵本は『金沢城石垣構築技術史料』Ⅰ（石川県金沢城調査研究所、二〇〇八年）に収録。

## 文禄四年御成記

文禄三年（一五九四）、太閤豊臣秀吉による徳川家康邸への式正御成の記録。『群書類従』武家部（巻四〇九）に収録。

## 丙寅旅中雑記

前田綱紀による貞享三年（一六八六）帰国道中の記録。

## 別本歴代古案

米沢藩上杉家とその家中諸家に伝来した古文書の写。『歴代古案』との重複文書も多い。『史料纂集　歴代古案』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。

## 北徵遺文

森田柿園（一八二三～一九〇八）編の古文書集（写本）。明治三三年（一九〇〇）成立。石川県立図書館（森田文庫）所蔵。

## 本願寺文書

（天正一三年〔一五八五〕）閏八月七日付豊臣秀吉書状（『大日本史料』一一－一八）等を収載。『金沢御堂・金沢城調査報告書』Ⅰ（金沢御堂史料編。一九九一年）に収録。

## 本光国師日記

南禅寺金地院の以心崇伝（一五六九～一六三三）の日記。慶長一五年（一六一〇）～寛永一〇年（一六三三）に及ぶ。『本光国師日記』一～七（続群書類従完成会）等に収録。

## 本誓寺文書

新潟県上越市本誓寺に伝来した古文書群。

## 本多氏旧記

加賀藩士（年寄）本多家の旧記類の写。寛永元年～同五年（一六二四～二八）にわたる大坂城公儀普請等にも言及あり。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所

蔵。

### 本多氏古文書等

加賀藩士（年寄）本多家伝来の書状類の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 本藩歴譜

加賀藩歴代藩主らの事績を記述。天保九年（一八三八）成立。『金沢市史』資料編3・近世一（一九九九年）に収録。前田育徳会（尊経閣文庫）・金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 【ま行】

### 前田育徳会所蔵文書

前田育徳会（尊経閣文庫）所蔵。

### 前田因幡蔵文書

詳細不明。『加賀藩史料』第参編に収録。

### 前田家雑録

前田家編輯方の筆写にかかる編纂史料。加賀藩関連史料を収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 前田貞醇蔵文書

前田貞醇旧蔵の古文書類。『加賀藩史料』に収録されているが、散逸の可能性が高く、現時点での所在等は不明。

### 前田貞親手記

加賀藩士前田貞親（備前。一六五三～一七〇五）の日記。貞享三年（一六八六）～元禄一五年（一七〇二）に及ぶ。貞親は当時若年寄、次いで家老役。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 前田貞直手記

加賀藩士前田貞直（図書。一六八六～一七四四）の日記。享保一八年（一七三三）～寛保二年（一七四二）に及ぶ。貞直は当時、家老役。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 前田貞直筆記

加賀藩士前田貞直（図書。一六八六～一七四四）の日記。享保一九年（一七三四）～寛保三年（一七四三）に及ぶ。貞直は当時、家老役。金沢市立玉川図書館（加

越能文庫）所蔵。

**前田貞幹筆記**

加賀藩士前田貞幹（中務。一七二一～四九）の日記。延享三年（一七四六）から翌年に及ぶ。貞幹は当時、家老役。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**前田創業記**

河内山昌実編著。前田利家から利常に及ぶ藩主の動向を描写する。延宝三年（一六七五）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**前田直躬内密手記**

加賀藩士前田直躬（前田土佐守家五代当主。一七一四～七四）の日記・覚書の写。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**政春古兵談**

加賀藩士関屋政春（一六一五～八五）編著。加賀藩士（兵学者）有沢武貞（一六八二～一七三九）による享保年間（一七一六～三六）末の写本。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**真館文書**

能登国鹿島郡で十村役を務めた真館家の家伝文書。

**町田文書**

東京大学史料編纂所写真帳。天正一八年（一五九〇）六月付前田利家ら連署禁制等を収載。

**松井家譜**

熊本藩細川家の家老松井家の家譜。東京大学史料編纂所謄写本。

**松井文庫所蔵文書**

熊本藩細川家の家老松井家伝来の古文書。財団法人松井文庫所蔵。『松井文庫所蔵古文書調査報告書』一～一九（八代市立博物館未来の森ミュージアム、一九九六～二〇一七年。刊行中）に収録。

**万治以前御定書**

別名「金城古定書」・「慶長定書」・「慶長以来御定書」・「慶長寛永間定書」等。慶長六年（一六〇一）～正保二年（一六四五）の加賀藩の各種法令を収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 水野家文書

加賀藩士水野家の関係史料。金沢市立玉川図書館（郷土資料）所蔵。

## 三壺聞書

加賀藩成立期の前田家の事績等を記す編纂史料。編者は加賀藩士山田四郎右衛門というが、詳細は不明。本書を抜粋した『新山田畔書』が元禄九年（一六九六）の執筆であることから、それ以前の成立と判断できる。翻刻や書誌情報については、『三壺聞書』（石川県図書館協会、一九三一年）、および金沢城普請作事史料五『三壺聞書』（石川県金沢城調査研究所、二〇一七年）の「解題」を参照。石川県立図書館（森田文庫）・金沢市立玉川図書館（加越能文庫）等所蔵。

## 微妙院様御直之御意覚書

別名「御直言覚書」。加賀藩士藤田安勝（内蔵允。一六四〇～一七二四）編著。享保五年（一七二〇）成立。前田利常の言行録等。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 村井重頼覚書

前田利家・利長に仕えた村井長明（長頼の子。一五八二～一六四四）の書付類。慶長三年（一五九八）の侍帳等も含む。長明には「利家公御代之覚書」・「利長公御代之おほへ書」の著述もある。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 村井長堅覚書

加賀藩士村井長堅（主膳・豊後守。一六九七～一七五七）の政務日記。享保一〇年（一七二五）、同一五年のそれぞれ一冊が残存。長堅は加賀藩老臣村井家六代当主。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 村井文書

加賀藩士村井家に伝来した古文書の写。前田利長・利常のほか芳春院の消息を数多く収録。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 明暦期改作方留帳

明暦元年（一六五五）から同四年に至る加賀国石川・河北郡の農政関連史料（十村役の留帳）。坂井誠一『加賀藩改作法の研究』（清文堂出版、一九七八年）における翻刻を参照。

**綿考輯録**

熊本藩細川家の家譜。天明二年（一七八二）成立。『綿考輯録』一～七（出水神社、一九八八～九一年）に収録。

**毛利家文書**

長州藩毛利家の伝来文書。長州藩毛利家の伝来文書。東京大学史料編纂所編『大日本古文書　家わけ文書八　毛利家文書』を参照。山口県防府毛利報公会（毛利博物館）所蔵。山口県防府毛利報公会（毛利博物館）所蔵。

**諸橋家文書**

能登国鳳至郡で十村役を務めた諸橋家の家伝文書。

## 【や行】

**安井家文書**

江戸時代、大坂三郷（北・南・天満組からなる。大坂町の総称）のうち南組の惣年寄を務めた安井家に伝来した文書群。大坂城公儀普請の関連史料も含む。大阪歴史博物館所蔵。

**柳原家記録**

藤原北家日野家の庶流柳原家伝来の各種史料の総称。謄写本が東京大学史料編纂所、原本が宮内庁書陵部および西尾市岩瀬文庫に所蔵されている。

**山口軍記**

慶長五年（一六〇〇）、前田利長と山口玄蕃（加賀国大聖寺城主）との交戦を叙述する軍記物。

**山崎庄兵衛家文書**

加賀藩士山崎家関連の古文書群。初代山崎長徳（閑斎。一五五二～一六二〇）は前田利家・利長・利常に仕えた。金沢市立玉川図書館（郷土資料）所蔵。

**山崎文書**

加賀藩士山崎家関連の古文書群。初代山崎長徳（閑斎。一五五二～一六二〇）は前田利家・利長・利常に仕えた。金沢工業大学附属図書館所蔵。

**夜話**

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。藩主の言行録等。寛文一二年（一六七二）成立。

## 湯浅家伝書

森田柿園（一八二三～一九〇八）編。加賀藩士湯浅家の家伝文書の写。嘉永二年（一八四九）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵『湯浅三輪両家伝書』に合冊。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 湯浅家文書

萩藩毛利家の家臣湯浅氏の家伝文書。山口県萩市萩博物館所蔵。

## 有初有終録

加賀藩士今枝直方（一六五三～一七二八）編著。今枝家伝来の古文書等の写本を収める。正徳五年（一七一五）成立。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 永光寺年代記

羽咋市永光寺所蔵。『金沢市史』資料編２・中世二（二〇〇一年）収録。

## 横山家古文書等

加賀藩士（年寄）横山家の家伝文書の写。内題は「横山隆平家蔵古文書等」。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

## 吉川金蔵氏所蔵文書

東京大学史料編纂所影写本。（慶長二年）六月九日付前田利家書状（『上越市史』別編二、二〇〇四年）を収載。

## 芳野花樹会懐紙

文禄三年（一五九四）二月、太閤豊臣秀吉による吉野の花見の和歌短冊。

## 万覚

加賀藩士横山正房（志摩。一六三三～九三）による寛文四年（一六六四）の覚書。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

# 【ら行】

## 落葉集

加賀藩穴生方後藤彦三郎（和睦。一七五五～一八二八）編著。金沢城関連の古伝承等。『金沢城郭史料』（石川県図書館協会、一九七六年）に収録。金沢市立玉川図書館（後藤文庫）所蔵。

**利休百会記**

千利休（一五二二～九一）の茶会記。利休最晩年の天正一八・一九年（一五九〇～九一）の記録。『茶道古典全集』六（淡交新社、一九五八年）に収録。

**柳営日次記**

幕府の公務を記録した「江戸幕府日記」の一つ。国立公文書館（内閣文庫）所蔵。

**柳営録**

幕府の公務を記録した「江戸幕府日記」の一つ。国立公文書館（内閣文庫）所蔵。

**龍谷大学図書館所蔵文書**

龍谷大学図書館所蔵。慶長二年（一五九七）、本願寺准如に忠誠を誓う加賀・金沢の門徒による誓紙（『金沢市史』資料編一三・寺社、一九九六年）等が伝存。

**林西寺文書**

詳細不明。白山市白峰の林西寺所蔵文書か。『金沢御堂・金沢城調査報告書』Ⅰ（金沢御堂史料編。一九九一年）に収録。

**ルイス・フロイス書簡**

イエズス会宣教師ルイス・フロイス（一五三二～九七）の一五八七年一〇月一七日付の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅲ期第7巻（同朋舎出版、一九九四年）の訳文から収載。

**歴代古案**

米沢藩上杉家とその家中諸家に伝来した古文書の写。ほとんどが戦国・織豊期の古文書。『史料纂集歴代古案』（続群書類従完成会・八木書店）を参照。

**烈祖成績**

水戸徳川家の儒学者安積覚（澹泊。一六五六～一七三七）編にかかる徳川家康の伝記。

**老翁雑記**

翠光堂竹庵編著。編者の祖父の残した反故となるべき書物をまとめたもの。内容の年代は寛文四年（一六六四）～弘化四年（一八四七）に及ぶ。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

**鹿苑日録**

相国寺鹿苑院の院主らによって室町～江戸初期に

書き継がれた日記。『鹿苑日録』一～六（続群書類従完成会）に収録。

### 若年寄方諸事控

加賀藩士中川長定（式部。一六七五～一七三九）の政務日記。享保一一年～同一四年（一七二六～二九）に及ぶ。長定は当時、家老役兼若年寄。金沢市立玉川図書館（加越能文庫）所蔵。

### 早稲田大学図書館所蔵文書

旧早稲田大学文学部荻野研究室収集文書。早稲田大学図書館編『早稲田大学所蔵荻野研究室収集文書』上・下（吉川弘文館、一九七八・八〇年）に収録。

## 【その他】

### 1591・92年度日本年報

イエズス会宣教師ルイス・フロイス（一五三二～九七）の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅰ期第1巻（同朋舎出版、一九八七年）の訳文から収載。

### 1596年度日本年報補遺

イエズス会宣教師ルイス・フロイス（一五三二～九七）の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅰ期第2巻（同朋舎出版、一九八七年）の訳文から収載。

### 1601年度日本年報

イエズス会宣教師の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅰ期第4巻（同朋舎出版、一九八八年）の訳文から収載。

### 1605年日本の諸事

イエズス会宣教師の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅰ期第5巻（同朋舎出版、一九八八年）の訳文から収載。

### 1614年度日本年報

イエズス会宣教師の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅱ期第2巻（同朋舎出版、一九九六年）の訳文から収載。

### 1618年度日本年報

イエズス会宣教師の報告書簡。松田毅一監訳『十

六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅱ期第2巻（同朋舎出版、一九九六年）の訳文から収載。

## 1620年度日本年報

イエズス会宣教師の報告書簡。松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅱ期第3巻（同朋舎出版、一九九七年）の訳文から収載。

〔金沢城史料叢書31〕

# 金沢城総合年表　前編

平成30年3月30日　発行

編集・発行　石川県金沢城調査研究所

〒920-0918
石川県金沢市尾山町10-5
電話（076）223-9696　　FAX（076）223-9697
E-mail：kncastle@pref.ishikawa.lg.jp
http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html